

秘

親歴第百廿九

南洋マニラヤン羣島中ラエト称スル島内、於テ一昨
 年十一月頃漂着シ本邦水夫七名虐殺、奪取
 越美不帆船工、知事船長ヨリ神事川村令、執
 事有シ其後當者官員、以該船長、親来推問
 乃乃以事ハ宣宣七月廿三日、不取及、中、是、
 事、其取調且該地方、量流視、悉、之、為、當者
 准奏任、中、掛、後、藤、桂、太、郎、外、属、員、一、名、九、添
 公然、ト、ナ、ク、石、工、ハ、知、事、船、便、ヲ、以、同、年、九、月、一、日、出、發、
 該、島、ヘ、テ、進、シ、探、問、為、由、該、島、本、年、一、月、十、日、
 帰、朝、シ、武、教、若、者、類、ハ、通、復、命、的、シ、我、水、夫
 等、虐、殺、シ、遺、ヒ、タ、ン、事、跡、ハ、確、證、ハ、ナ、ク、亦、得、共
 日、本、人、所、用、セ、シ、物、品、酒、樽、等、明、ク、自、該、島、人、シ

説り、乃ニテハ、殆ト其申、実有テ、相見、
 然ルニ、諸島ハ、昧昧、未開ニ、蛮境ニシテ、外人ト交
 通スルハ、僅カニ、一周、年、内、二、三、ノ、外國、冒險、商
 アリテ、海、航、スル、ノ、外、他、テ、外人ト通、交、スル、ヲ、
 且、ラ、三、島、ノ、如キ、ハ、船、舶、ノ、繫、泊、ニ、甚、ク、危、險、ニ、
 一、ノ、月、當、テ、美、人、ノ、民、此、地、ニ、於、テ、虐、殺、セ、ラ、レ、
 有、テ、モ、浮、丸、光、ノ、懲、罰、ノ、年、々、加、フル、ニ、近、来
 相、邊、政府、ニ、於、テ、ハ、諸、島、ヲ、占、領、ス、ル、ノ、着、目
 海、底、ノ、自、此、際、海、國、ヨリ、報、復、ノ、為、メ、軍、艦、等
 差、出、ス、ハ、即、チ、外交、上、ニ、糾、紛、ヲ、起、シ、
 并、又、特、殊、ノ、極、力、國、等、ノ、保護、ノ、下、ニ、相、立、ス、
 隨、テ、各、種、ノ、暴、舉、モ、亦、ノ、向、カ、ル、ノ、如、キ、暴、動、事
 件、ハ、此、上、査、究、ス、ル、ヲ、止、メ、姑、リ、不、問、ニ、付、セ、ラ、レ、
 方

海、軍、ト、海、兵、諸、地、ノ、風、俗、物、産、等、ハ、從、前、詳、細、ニ
 報、告、ヲ、不、得、テ、今、般、ノ、後、命、書、ニ、依、リ、其、梗、概
 ヲ、見、ル、ニ、
 上、申、ス、也

明治十八年

外務卿 青井上 啓

老成大臣公府ニ保奏スル



マルシャル群島人種及人口ノ多少
同島ノ風俗慣習

人種及人口ノ多少并ニ其風俗慣習

談群島ノ人種ハ「パイ」ト同種ニシテ其性質極
テ懶惰殊ニ良順ト云フヲ得ス然レモ一島中ノ
人相ニ親睦スル「ハ」恰モ一家ノ如ク相爭鬭怨
睨スル「ハ」稀ナリ一人衣服ヲ得レハ近隣ト之ヲ
共同ス一食ヲ得レハ細微ト雖モ之レヲ一坐ニ
カツ又能ク島主ニ最事シ酋長ニ順從セリ總テ
女人ハ男人ニ對シ些微ノ権カヲモ有スル能ソ
ス恰モ奴隸ノ如シ土俗一般ニ烟草ヲ好ム之レ
ヲ一人ニ與レハ必ス近隣ニカツ取テ獨取スル
「ハ」ナレ酒ハ男子之ヲ嗜ム婦女ハ常ニ飲セス得
バ則チ男人ニ贈付ス

男入ニ酒ヲ飲マシハルニ必ス多量ニ飲マシム
ベカラズ土人ノ風方今強メテ暴行ヲ禁ム然レ
モ醉ヘバ則チ自ラ禁スル能ワズレテ遂ニ本性
ノ暴ヲ發スルニ至ル時ニ外國人ヲ見レハ則之
レニ迫ル其思ヒキニ到テハ屠殺スル等ノ暴ヲ
作スニ至ル已ニ二十年以來大ヒニ外人ヲ殺害
スルノ倣ヒヲ止メタレモ猶ヲ外船ノ出入セザ
ル島嶼ニテハ漂流人ヲ見レハ食物藥物等ヲ典
ハ陽ニ救助スルノ風ヲ示レテ實ハ之ヲ毒殺
シ其灰ヲ砂中ニ埋メ夜來竊ニ來テ其肉ヲ割取
シ陰然ニ食フ者往々有之由方今此風漸ク減ス
ト雖モ萬一之事ナキヲ計リ難シ尤モ人肉ヲ食
スルハ豈啻ニ外國人ノ肉ノミニ非ス土人ノ

或骸ト雖モ時ニ股摩等ノ肉ヲ小刀ヲ以テ切り
取リアルヲ見ル然レモ當時ノ土風人肉ヲ食フ
事ハ數年以來実ニ之ヲ嫌フ故ニ至極ク陰然
ニシテ誰人カ人肉ヲ嗜ムト云フヲ見聞スル
能ワズ右ノ次第故猶心ヲ置クナカレト島主
ノ近親スル土人「レ」ト云フ者吾輩カ各島ヲ
巡回スルヲ見テ愚ロニ忠告セリ
何レノ島嶼モ旅館ノ如キモノハ更テニナク毎
ネニ上陸スレハ即チ土人ノ製セル席（ハ）ニシテ
織（ミ）リナレシヲ以テ屋ヲ葺キ板壁ヲ綴テ付ケ一假
屋ヲ建テ、之レニ住ス島内ヲ旅行スルモ宿泊
スルニ毎ネニ之ヲ用ユ夜間ハ大概一人眠レ
バ一人起キテ事ヲ執リ毎ニ土人ノ竊カニ來リ

物件ヲ盗ミ去ルニ備フ上人ハ膽ツナク人眠リ
居ラザレバ敢テ来テ害スルヲ成サカ
十一月二日ウーチャエ島ヲ見カスルノ際同島
ニ寄留スル片午前三時吾人ノ熟睡スルニ乘レ
土民来リ衣類数品ヲ盗ミ去ラントセリ盗来ッ
戸ヲ出デサルニ眠リ覺メ聲ヲ揚ケ銃ヲ発シテ
之レヲ追フ盜遂ニ物件ヲ途ニ抛テ深林ニ入テ
見ハズ天明ニ島長ヲ呼ビ斯事ヲ告グルニ島長
上人ヲ一一結向スレモ得ズ依テ止ムヲ得ス向
後ノ保護ヲ依頼セシニ島長承諾シ去ル土風常
ニ斯ノ如キガ故身常ニ短銃ヲ帶ザルノトキナ
レ
各國ノ高船ノ来テ土民ノ害スル所口トナルハ

毎ネニ舟人ノ睡リニ乘シテ土民數十人忍ヒ来
テ舟士ヲ殺害シ其積ミ来リシ物件ヲ奪掠シ去
リ其舟ニ放火スルヲ以テ慣トス故ニ島内ニ在
テハ必ス嚴ニ夜守スレハ上人ノ害メニ害セラ
ル。一無ルバレ上人一般ニ己レノ欲スル物ヲ
請求シテ典ハサレハ穢ニ乘シテ強奪スルノ風
アリ

宗教ハ王族ノ一人米國傳教士ニ付キ耶蘇新教
ヲ學ビ得之ヲ全島ニ傳フト雖此島民ハ更ラニ
教理ニ関セス只「サバ」島ノ民ハ往々教理ヲ誤
スル者アリ或ハミシヲネリト稱シテ酒烟ヲ
禁シ娼事ヲ戒シメ日曜日ニ當テ事ヲ執ラズ朝
夕神ヲ拜スル者百中ニ二三ヲ見ル又々他島ニ

モミシヨナリト号シテ傳教ノ任ヲ負擔スル
モノアレヒ更ラニ其事ヲ事トセス平人ト同様
ナリ
人歿スレバ則チ之ヲ葬ルヲ知ル然レモ島内
歟勲ノ類ナク手以テ地ヲ堀ルガ故ニ其深サ尺
ニ滿タス歟ニ葬テ月ヲ経レバ則白骨沙泥ヲ脱
ス然レモ敢テ再ヒ之ヲ埋ムルヲ為ス歟ニ林
中往々骸骨ヲ見ル土民ハ敢テ意トセス轉シテ
路ニ当ルアレハ之レヲ道傍ノ草中ニ蹴テ行ク
「恰モ點石ヲ蹴ルト一般ナリ島長及副島長
スレバ之ヲ埋メ其ノ頭ト足トノ處ハ櫓ヲ建テ
表トナス祭典セス又敢テ哀傷セス島主ノ墳
ハ其高サ三尺許ノ丘ヲ作ル葬ルニ礼ナシ送葬

ナレ二人屢ヲ昇テ往テ之ヲ埋ルノミ
政治ハ更ラニ無ク律法ハ定ラズ民王命ニ平戾
スレハ則チ之レヲ殺スニ島王之レヲ親ラス其
罰ハ銃殺斬首縊死時ノ便宜ニ從テ罪ノ輕重ニ
関セス

人爵ハ王族之外皆平民ト定ム官ハ島ノ酋長副
長ハ副長ノ三官アルノミ島酋長ハ王ノ命ヲ奉
シテ其島民ヲ牧ス副酋長ハ副長之ヲ輔ク
島民固有ノ言語アリテ文字ナシ紙筆之用ヲ知
ラズ島内曆日ナシ土民皆自己之年ヲ知ラス四
季及十二月ノ稱ナシ只今明日ノ名稱アルノミ
明日ヲ「イリジエ」ト云ヒ明後日ヲ「エワロカール」
イリジエト云ヒ明々後日ヲ「エナスロカール」ス

ロツク、イリジユト云フ 今日ヲ「ジアカライ」ト云
ヒ、昨日ヲ「エズ、ジャカー」ト云 一昨日ヲ「エス、ルメ、ジ
アコワール、一昨日ヲ「エナ、ズロツ、カール、ズロ
ツク、ジャコワール」ト云 外更ラニ日ヲ數フル名
称アル「ナシ」只耶蘇信者之内ニ能ク七曜日ヲ
知ルモノアリ然レモ土人一般之レヲ用ヒス
島民服製ナシ島王ハ常ニ白キセビロヲ着ス瀕
海ニ住スル民ハ間ニ王ト同様ノ風ヲ為スモノ
アリ然レモ内地ニ住スル者ハ多クハアルノ樹
ノ皮ヲ裂ヒテ腰裳ヲ作り腰ニ纏フ或ハパンダ
ナ樹ノ皮ヲ以テ一坐席ノ如キ者ヲ作り腰間ヲ
蔽フ是則男入之風ナリ女人ハパンダナノ葉ヲ
以テ一繡紋アル方尺五六寸許ノ席様ノモノヲ

製シ之レヲ前ヨリ一枚後ヨリ一枚ヲ當テ帶ヲ
結ンテ腰下ヲ蔽フ
海濱港灣之外船出入スル地之土民ハ男人ハ洋
服或ハ下^レ衣ト袴トヲ着ス女人ハ多ク赤地ノ更
紗ヲ以テ洋婦人ノ寝衣ノ如キ服ヲ作り之ヲ着
ス其領袖ノ飭リ縫裁頗ル巧ミナリ頭ハ男人ハ
バンダナ葉ヲ以テ製セル夏帽ヲ冠ス土人之レ
ヲ「バートレ」云フ盖洋語ヲ用ユルヲラン女人ハ
頭髮ヲ中カレ左右ノ肩ニ垂下ス貝或ハ魚骨或
ハ草花等ヲ以テ環冠ヲ作り之ヲ冠ス間ニ洋婦
人ノ用ユル曲櫛ヲ用ユル者アリ男女皆首ニ瑠
落ノ如キモノヲ帶グス其耳ヲ穿テ其孔ヲ大
ニシテ椰櫛或ハバンダナノ葉ヲ以テ一環ヲ作

ノ其孔ヲ填ス耳孔大ナル者ハ經二寸許ノ環ヲ
容ルベシ故ニ環ヲ填セサルキハ耳房無下レテ
肩ニ接ス弱輩及幼婦女ニ斯ノ如ク大孔ヲ穿ツ
者アルヲ見ス其僻陋ニ佳スル野民ニ到テハ男
女皆蓬頭垢面裸跣日下ニ奔走シテ暑熱ヲ知ラ
ズ腰下膝上蔽フニ破席ヲ以テス其体甚醜惡恰
モ佛画ノ夜叉ノ如シ一目レテ男女ヲ并スル能
ハス

土俗頗ル文身ヲ誇ル然ルニ制度アツテ土民安
リニ意ニ任セラヌルヲ得ス肩ヨリ以上及腕
脇腹及腮ニ文スルハ王ニ非レバ能ワズ故ニ人
民ハ背及胸ニ文スルノミ腕ニハ各洋字ヲ以テ
其名ヲヌスルニ止ル腕ニ密ヌスル者ハ王妃及

王族ニ止ル腮ニ分スルハ只王ノミナリト云フ
其文ハ日本ノ豆紋リト云フ形ノ如シ

王位ハ常ニ王族之ヲ襲ス其即位ノ法ハ王歿ス
レバ則王ノ弟即位ス其次キハ則テ次第ニ及フ
次第ニ歿スレバ三弟ニ及ブ三弟歿レテ其弟ナ
キハ則返テ王ノ長子即位ス王ノ長子歿レテ
次子位ニ即ク次子歿レテ其弟ナケレバ則返テ
王ノ弟ノ長子ニ及ブ總テ王族中ニ於テ其年ノ
最モ長スル者則王位ニ昇ルヲ得ルノ風ナリ女
子ハ王位ニ即クヲ得ス

王ハ六妃ヲ養フ皆テ一室ニ雜居スレバ相爭ハ
ズ王歿スルニ臨ミ恟セシヤ否ヤト恟フテ王恟
歿ヲ命スレハ則恟死ス若シ恟スルヲ命セサレ

ハ、次ビスレテ嗣王ノ妃ト成ルノ法ナリト云フ
島主時ニ各島ヲ巡回スレバ、則其ノ滞在セル島
内ニ在ル物件ハ土民ノ所有品ニ至ルマデ盡ク
玉ノ所有ト成リ民私ニ一物一菓ヲモ有スルヲ
得ス

家屋ハ楮葉ヲ織テ壁ニ代ヘ楮葉ヲ以テ屋ヲ葺
ク其構造ハ一口ニシテ大概窓ヲ設ケズ其屋ノ
高サハ人ノ軀幹ニ比スレバ稍一二尺ヲ加フル
ノミ其廣サ五六人或ハ十人ヲ容ルベシ其小屋
ニ至テハ高サ三四尺ニ過キス、匍匐シテ漸クニ
入ルベシ入レハ則坐スルヲ得ス皆偃卧ス恰モ
大柵ノ如シ頗ル庶造矮陋皆床ナシ楮葉ヲ織テ
席ヲ作り土上ニ敷ク、酋長ノ宅ト雖凡皆然リ人

家屋ハ必ス村落市街ヲ為サス、點ニ蔓草椰楮ノ間
ニ傾歌隱見ス

土民自製ノ器具ハ鈎及鉈、木鎗及手斧ニ過ス、弓
矢ヲ作ルヲ知ラス、鍋釜ヲ用ユル者稀ナリ、水
人ヨリ箱或ハ笈ノ類ヲ買ヒ或ハ交換シテ之レ
ニ衣類物件ヲ納ム、家中ニ火爐ヲ設ケズ火ハ常
ニ家ヲ去ル、抛石ノ先キニ於テ大樹ヲ焚キ断絶
セズ火若滅スレバ島中ヲ奔走シ火アル家ニ到
リ乞得テ歸ル、遂ニ得サレハ則チ鐵木アイヨン
ヲトテ加テ燧ス、夜束燈火ヲ用ヒス、暗夜ニハ
常ニ晴黒ノ中ニ在テ言笑ス、月夜ニハ海濱ニ聚
テ擊鼓歌舞ス
土人ハ食スルニ匕箸ヲ用ヒス、器皿ヲ設ス、魚肉

米喰ノ如キハ大薯ノ葉ニ盛リ喰フハ恰モ猿猴
ノ如クス食ハ火食ヲ知ルト雖モ焚炙ニ過キズ
熟莫スルヲ知ラス又タ食スルニ時ナレ餓テ
初テ菓實ヲ食ヒ渴シテ初テ水ヲ飲ム其水ヲ汲
ハニ多クハ椿實ノ殼或ハパンダナ樹ノ葉ヲ卷
キ一凹形ヲ作り只ダ一時已レノ渴ヲ止ムル丈
ケノ水量ヲ取リ去ル敢テ他人ノ用及後需ニ供
セズ
土人ノ常食ハ柳椿實ヲ以テ第一トス魚肉ハシ
タナ及ビ大薯芭蕉實等之レニ次グ魚肉ハ常ニ
パンダナノ葉或ハ大薯ノ葉ヲ以テ密ニ包ミ焚
火ニ投シテ焼テ之ヲ食フ又葛餅ヲ製ス飲料
ハ柳椿ノ實ノ未タ熟セサルモノハ其核内ニニ

合餘ノ水ヲ含藏ス其味ハ略ホレモンハ砂糖ヲ
和シタルガ如シ甘味頗ル口腹ニ適ス土人ノ
最上ノ飲料トス
土人葛餅ヲ製スルニ先ツ葛根ヲ取リ海浮石ヲ
以テ之ヲ磨リ席ニ包ミ水ヲ沃ヒテ其糟ヲ去リ
柳椿實ノ粉ト和シテ煉テ之ヲ大薯ノ葉ニ包テ
煨ス味淡温食フベシ
柳椿實ヲ粉トナスハ柳椿ノ堅實ナルヲ取リ薄
ク之ヲ切り石ヲ以テ搗テ粉ニ作ル或ハ鉄片ヲ
以テ搔テ粉ニ作ルモアリ
婚姻ハ期ナク礼ナレ男女意ニ任セテ通シテ夫
婦トナル四五年以來父子相交ル者漸ク稀ナリ
ト云フ然レモ僻陋ニハ往々有之由何レノ島嶼

ニ於テモ婦人産育スル者殆ント稀ナリ故ニ小
児ヲ見ル「ツレ」之レヲ土人ニ問フニ赤子生レ
テ六七月ヲ経レハ大概水氣ヲ発シ或ハ皮膚病
ヲ発シテ死去スト云フ故ニ島民ノ数漸々減少
ヲ呈スト云フ

土民足及臂ニ大瘡ヲ発シ腦血常ニ流ル、者ア
リ不潔厭フバシヌタ一種ノ皮膚病アリ其病タ
ル外面ハ癩ノ如クナレモ全ク皮膚ニ在テ骨肉
ニアラザルヲ見レバ癩ニ非サル亮ナリ然レモ
全身一面ニ皮膚鱗起シ其色淡黒淡赤相雜リ醜
惡見ルニ堪ハズ疼痛アリヤト問フニ無シト答
フ然レモ痒キ「思」シキガ為メ諛病ヲ患フル者
ハ終夜身ヲ烈火ニ烘ツテ之ヲ搔ヒテ止メズア

イリングラブラー「ブ」島ニ酋長ニシテ諛病ヲ患ル者
アリ彼レ妻六人ヲ養フ三人常ニ代ワルガソル
起キテ通宵之レヲ火辺ニ搔クト云フ土人ハ諛
病ヲ見テ更ラニ厭ワズ膝ヲ接シテ雜居ス十中
ノ五六ハ皆諛病ヲ患フルカ故ナリ惟ミルニ島
中ノ土民極テ他島ニ轉移スルヲ難ハカルカ故
ニ大抵一島中ノ男女互ニ相結婚嫁娶ス然ルニ
一島中土民多キモ二三少キハ百人其最少キ
ハ二三十人ニ過キス故ヲ以テ毎ニ親戚相嫁娶
シ同血相交ル之レガ為メニ其血液終ニ諛病ノ
根ヲ致スナラン小児ノ生レテ数月ニシテ水氣
皮膚病ノ為メニ死スルモ殆ンド之レガ為メナ
ラシ

島民醫生ナレ随テ又シ運葉アラズ人病ムハ則チ椰膏油ヲ以テ其全身ニ塗ス痛ムハ則同油ヲ其痛處ニ渡ス之レヲ以テ運葉ト爲スニ止ル談群島ノ人民ハ未タ貨幣ヲ製作シテ互ニ物件ヲ買賣スル事ヲナサズ又タ物件ヲ交換スルニ其材料ヲ貯フルヲナレ故ニ他人ノ家ニ入り已レノ欲スル所ノモノヲ見レバ則チ請フテ持チ去ルノ習慣ナリ同人種ハ相互ニ之レヲ以テ物件ヲ流用スルヲ常トス然レモ外國人ニ耐シテハ折枝ノ勞モ必ス其報ヲ求ム

土人ヲ使役スレハ其報ハ金銀ヲ以テスルハ一人ニ付キ一日ニ一帛以上ヨリ二帛ヲ以テス若シ物品ヲ以テスルハ更紗及フラネルノ類

六セヤールヨリ十ヤールヲ以テス或ハ板烟草一斤ヨリ二斤ヲ以テ一日使役ノ報トナス何故金銀貨ハ物品ニ比スレハ過等ナルカト云フニ土民金銀貨ヲ得レハ則チ數百英里ノ海ヲ航シテジャリウト島ニ到リ物件ヲ買フノ故ナリ聊モジャリウト島ハ群島中最一繁盛ノ地ニシテ歐人支那人多ク之レニ往シ稍ニ開港場ノ形ヲ成セリ土人得ル所ノ金銀貨ヲ以テ航海シテ茲ニ至リ酒烟及布類ヲ買フニ赤地ノ更紗三ヤールヲ以テ一帛ノ價ヲ要ス麥酒二本其價一帛半ナリ彈藥ヲ買フニ一番形ピストルノ彈藥七發或ハ十發ヲ以テ一帛ニ代フ烟草ハ極ク下等ノ品一斤其價一帛以下ノモノアラズ下等ノブラン

テニ瓶其價三弗ナリ支那米十斤價三弗砂糖一
俵下等ノ品價十二三弗故ニ物件極テ高價ニシ
テ貨幣極テ低格ナリ之レニ依テ一日役使ノ報
一弗以上ニ弗ニ至ラズンハ則チ其勞ニ代フル
ニ至ラズトス故ニ諺群島中ヲ旅行シ或ハ土民
ヲ使役スルニハ其失費賃銀等ハ金銀貨ヲ以テ
スル所ハ甚過當ニシテ市類酒煙等ヲ用ユル所
ハ其費金銀貨ノ半ニシテ足レリ風雨等ノ日ニ
至テハ平日ノ價ニ倍スルニ非レバ土民用ヲ爲
サズ其日々ノ衣食ハ勞ヒズシテ之レヲ得ルカ
故ナリ

土民ハ物件ヲ賣買スルニ洋銀一弗以下ノ價ヲ
知ラズ故ニ最モ廉價ナル物品ハ一弗ニ幾箇ト

云テ賣買ス

島中ノ婦女一般ニ良人ノ有無ニ拘ラズ總テ外
人ヲ見テ来リ娼ヲ賣ルハ風アリ其甚キハ良人
自ラ其妻ヲ携ヘテ来リ勸ムルヲ爲シテ金銀
衣服ヲ求ム醜習歟フニ蓋シ外人ノ諺島ニ来
ル者ハ中人以下ノ漁父等ニ非シハ商船ノ水夫
等上陸スレバ即チ妾リニ土人ノ婦女ヲ娼シ衣
服金錢酒食ヲ以テ其價ニ充ツ然ルニ土民混沌
無知ニシテ禽獸ニ近シ故ニ只ク衣食ヲ求ルニ
拘ニシテ專ラ之レヲ甘ニス遂ニ之レガ習慣ト
成テ以テ常トスル到ル實ニ哀ムベキニ属ス
聊諺群島ハ海面ニ点綴セル者ニシテ遠キハ數
百里近キハ數十里相懸隔スルヲ以テ土民近隣

ノ島嶼ニ往復スルモ恰モ他國ニ航スルノ思ヲ
為セリ何ントナレハ其船舶ノ製煉ル輕危ニシ
テ遠海ヲ航スルニ適セザレハナリ已ニ今回一
島ニ上陸寄留スレハ風上突見ノ為メ毎ネニ土
人ヲ雇フテカノ一（土人ノ名ヲ以テ近隣ノ島嶼ヲ
巡回スルニ遠キハ四五日近キモ一二日ノ航海
ナレバ時々飲水ニ盡キシテアリ已デニツォテ
ヤエヨリヲジヤ島ニ航スルハ四日間ノ航海ナ
レバ二日半ニシテ水盡キ漸クニシテ一孤島ヲ
認め船ヲ寄セ水ヲ取ラントスレバ其島中池水
ナク依テ椰櫓ノ実ノ水ヲ吞ニテ渴ヲ療セシ
アリヌヲ數次驟雨（スウガル）ノ来ルニ會ヒ衣ヲ
張テ天水ヲ取リ以テ渴ヲ救フアリ是レ則チ

土人ノ船舶其積量甚少ニシテ且ツ海水常ニ
船内ニ漏入スルヲ以テ飲食多量ヲ貯積スル能
ワザル故ナリ之レニ由テ之レヲ見レハ該島ヲ
開化スルニ當リ先ヅ要スルモノハ簡易ニ全島
ヲ巡回スルヲ得ルニ是レナリ其ノ簡易ニ全島
ヲ巡回スルニ得ントスルニハ先ヅ船舶ニ改
革ヲ加ムルヲ以テ第一ノ要務ナリト思考ス何ト
ナレハ今時該島民ノ航海ハ只ク熟煉ト軀格ノ
強壯トニ由ルモノニシテ船舶ハ實ニ航海ニ適
スルモノニ非ス

島民ノ船舶ヲカノ一ト号ス其製タル總テ鐵釘
等ヲ用ビズ椰櫓ノ毛ヲ以テ製セル繩ヲ（本邦ノ
モノ如キ）以テ板ヲ綴リ合セテ作造ス其木ハ常ニ

大暮樹ヲ用ユ舳及艦ト船底ハ剔扶^{バリエツリ}リ造リ其他
ハ厚サ一ニ寸許ノ板ヲ繩ニテ綴付ケ其ノ水ノ
漏リ入ル處ハ檣葉ヲ以テ之ヲ填ス帆ハ則三角
形ニシテ其製ハ椰檣ノ葉ヲ細裂シテ網代様ニ
織成スモノナリ其船体ハナルモノハ長サ六尺
幅ニ尺ニ過キス二人以上之レヲ搭スルヲ得ズ
其最大ナルモノト雖モ五間ノ長キニ過キス幅
六尺ニ過キズ其船体ハ甚タ狭長ナルカ故ニ獨
リ波上ニ浮ブノ勢ナシ之レニ依テ皆ナ船身ノ
中央ヨリ扁方ハ數本ノ鈎木ヲ横タハ浮木ヲ其
末ハニ繋ギ之レニ依テ初メテ波上ニ浮ブヲ得
然レモ綴繩ノ小孔ヨリ潮水漏入スル甚シキガ
故ニ海ニ航スルノ節ハ三人ハ潮水ヲ汲ミ捨テ

小間モ休息セズ少シク憩ハハ浪史ニ潮水舟
ニ滿ミ又揖ナレ舳艦同製ナリ櫓ヲ操ル者舳ニ
一人艦ニ一人中央ニ一人アツテ之レニ依テ船
却ノ進路ヲ轉ス帆繩ヲ持ル者一人能ク轉シ能
ク走ル其船舶ヲ自由スル頗ル妙ニ入ル風ニ向
フテ進行スルモ順風ト異ナルナレ島嶼ノ灣ヲ
出テ、五六里ニ至レハ四望只タ水天ノミ然ル
ニ指針ヲ用ヒズ益ハ太陽ヲ見夜ハ星ヲ眺テ其
方向ヲ定テ誤ラス^{談群島海中曇天ノハ稀ナリ}
^{忽チ又晴ル折々雲ヲ見ハレテ雨ノ至ルハ}
^{政ニ太陽星晨等應レテ見ハス等ノ事稀ナリ}
其熟煉ナル一驚ソバレ船体ハ浪ミ栗リセス高
濤列レハ其中ニ突入シテ潮水滿盈ス汲出ス者
カヲ極テ汲ミ出し舟又タ浮出ス其危險甚シ雨

至レバ之ヲ凌クニ幕ナレ只一席ヲ被テ舟上ニ
偃臥ス上人ハ浴雨櫛風ヲ以テ航海ノ常トス吾
輩之レニ搭スル七八次ノ後漸ク初テ馴レ氏具
景初ハ肝膽常ニ冷ナリキ

島民ハ網ヲ結ブヲ知ラズ故ニ漁スル常ニ網
ヲ用ヒス釣ルニ釣ヲ用ユルモ釣ハ土人製スル
ヲ知ラズ皆之レヲ外人ヨリ買受或ハ交換シ
テ用ユ土人自製ノ釣器ハ蛭珠貝ヲ以テ一小魚
ノ形ヲ作り更ラニ一貝ヲ大磨シテ之レニ縛シ
尾辺ニ羽毛ヲ付ケ本邦ノ蚊釣ノ如キ者ヲ作り
之レヲ以テ松魚等ヲ釣ル其綸ハ則アルノ樹ノ
皮ヲ以テ製セルモノニシテ頗ル久シキニ堪ハ
又能ク断絶セズ又タ小鈴ヲ作り暗夜ニ櫛櫓ノ

葉ノ枯レタル者ヲ取テ松火ヲ作り燃ヤシテ海
濱ヲ涉シ魚ヲ見テ之レヲ刺ス或ハ刀ヲ以テ游魚
ヲ切リ或ハ櫛櫓ノ樹ヲ大削シ一大錐ヲ其先キ
付ケ魚ヲ見テ之レニ投ズ百卷百中頗ル熟練セ
リ是則土民ノ漁獵ナリ

土民頗ル跳舞ヲ好ム動モスレハ男女相聚テ跳
舞セ其舞ヒタル大ニ本邦ノ跳舞ト異ニシテ実
ニ奇ト云ハレ

先ヅ骨格肥大ニ顔色強壯ナル者四十人許ヲ選
ビ頭髮ハ貝或ハ白羽ヲ以テ飭装シ手ニ三尺許
ノ棒ヲ持シ腰ハ簑或ハ席ノ類ヲ帯ビ皆戦場ニ
趣クノ束装ヲ爲シ右ニ二十人左ニ二十人立テ
敵ト身方トヲ定メ目ヲ怒ラシ腕ヲ張テ相睨ス

婦人ハ數十人戦場ヨリ五間許ヲ離レテ一場ヲ
設ケ各兵鼓（櫓ノ皮ヲ張りタルトナシ）ヲ擁シテ
連坐シ頗ル慷慨ノ状ヲ爲シテ蹄歌撃鼓スレバ
男人モ亦各々ノ枚ヲ含ニテ相戦ヒ時々聲ヲ
揚ゲ手ヲ振テ報事ノ状ヲ爲セバ女人衆ヲ停ム
男子亦各々戦ヲ止メテ相睨ス其戦ヒヤ棒ヲ振ヒ
相ヒ撃ツニ定則アツテ能ク撃チ能ク拒ヒテ自
ラ跳舞ノ体裁ヲ成セリ然レモ是時ニ當リ誤リ
打タレテ出血スルニ到ルモ敢テ咎ムルコトヲ得
サル旋ナリト云故ニ平生心ニ快カラサル
有ル者ハ此ノ跳舞ノ最中ニ於テ痛楚ヲ興ヘテ
以テ甘心スト云男如共流汗雨ノ如ク勢ヒ真ニ
迫ル

又タ黒鷄ノ簀毛ヲ束ネ左右ノ手ニ握リ目ヲ怒
ラシ遣フ切レ腕ヲ振テ舞フ婦人ノ唱歌撃鼓ス
ル者往々慷慨ニ堪ヘスレテ氣息絶スルニ至ル
者アリ現ニ十一月二日ウーチヤエ島ニ歌舞シ
見ルニ當リ諷島酋長ノ愛妾一人氣絶シテ地ニ
仆ル見ル者起テ抱持シ舁テ家ニ入り胸ニ椰櫓
油ヲ塗り口ニ椰櫓ノ水ヲ沃キ已ニシテ漸ク又
ク蘇ス此ノ跳舞タル頗ル慷慨ノ意アルガ故ニ
土人ノ傍觀スル者皆ナ汗ヲ握リ臂ヲ張り怒リ
面ニ見ル總テ群島ノ土人ハ慷慨慘毒ノ事ヲ以
テ樂ミト爲スノ風ナリ
土人ハ常ニ他島ト戦フヲ以テ一樂トナス其ノ
戦フニ當テヤ戦場ノ側ラニ一場ヲ設ケ婦人ハ

茲ニ在テ唱歌撃鼓ス夫ハ戰場ニ在テ闘戦スル
ヲ毎トス故ニ婦ハ其夫ノ戦死ヲ目撃シ其ノ
婦ノ目前ニ戦死スル等ノ事往々アルヲ以テ其
慨嘆堪ユ可ラザルニ到ル其ノ歌ノ意ハ常ニ悲
歌ニ非レハ則チ他國ノ軍艦来テ諷島ノ暗礁ニ
架リ上ゲレヲ見テ島民其乗組人ヲ鑒ニシ其艦
ヲ焼クナトノ事ヲ歌フ由己デニ前年米國ノ耶
蘇教宣教師来リ諷島ノ舞臺ハ大ニ天理ニ戾
リ人道ニ違フヲ以テ深ク之レヲ噫シ禁ジシ
ル島民一人ノ聴従スルモノナク尚ヲ之ノ暴習
ヲ護守スル由

就中群島ノ中「マノリ」島ト「アル」島
ハ最モ叙シ嗜ミ日ニ戦争ヲ事トス其戦闘スル

ヤ地ヲ爭フニ非ス財ヲ爭フニ非ラズ只グ負傷
者ノ血ヲ流シ苦躍號呼スルヲ見ルヲ以テ無ニ
ノ愈快トナスニ止ル實ニ残忍ノ風習アリト謂
ハレ
其他ノ島民ハ近年大ニ此ノ風習ヲ減スト雖
モ土人ノ意ハ毎ネニ難破船等アツテ漂流人ノ
来ルアラハ之レヲ屠殺シ其物件ヲ盜取スルニ
有リ童謡唱歌行歌ニ必ズ之レヲ誦ス

同島人口ノ多ク

談郡島ノ人口ハ十一月八日島主ニ面會ノ節島
主及ビダニール、レ、ト稱スル島主ノ近待者二人
ヨリ聞取リ筆記ス島主時々各島ヲ巡回シ民ヲ
海濱ニ數フル有ル由故ニ其數當ラスト雖モ
亦ク遠カラサルベシ今マ其數ヲ記スル左ノ如シ

リキエブ島 男女三千人

ウツルツク島 全 二千人

ビガール島 無人

エリコブ島 無人

ウラツヂエ島 男女六百人

シエーモ島 無人

アイルクック島 男女二千三百人

メリート島 全 一千人

マロングラブ島 全 二千人

アウル島 全 二千人

マレエロ島 男女三千百人

ウーチャエ島 男女百人

アエリングラブラブ島 ラレヤ島 ナイモ島 男女二千人

アルノ島 男女三千百人

ミユレー島 全 一千三百人

ジャリート島 全 三千人

キリー島 無人

ナモリツク島 男女一千人

エバン島 全 二千人

談島ハ西洋人支那ヨリ居住ス
レモ島主其教ヲ知ラザル由

エンワーフ島 全 二千人

ラーエ島 全 百人

ウーヂラン島 全 二十五人

ジャバ島 全 十五人

コワジレン島 男女一千人

ウヲツド島 全 二十人

ロングリツク島 全 六十人

ロングラフ島 全 四十人

アイリギナエ島 無人

エンベドツク島 男女十人

ビギニー島 全 二十人

ガスバリエ島 其住民ノ数未ク詳ラカチラズト云ヘリ

全島合セテ其数三十二群島而シテ其住民ノ数ニ万

九千八百十。人

タ
新
符

器具ノ種類

第一圖ハ 鎗其製木造ニシテ柄ヨリ穂先キマ

テ同木ヲ用ユ穂先三分ノ一ハ只タ

削リ尖ガレ有之夫ヨリ以下鐔元マ

テハ一面ニ鯨ノ齒ヲ植ヘ有之鐔ハ

紅色ノ絲ヲ上ニ付ケ白鳥ノ毛ヲ下

モニ付ケ房様ニ縊リ付ケ有之頗ル

鋭利ノ製也長短尺度定ラス

第二圖ハ 魚ヲ刺シ捕フル器

第三圖ハ 戦争或ハ果合ヒ等ノ時ニ婦人ノ撃

ツ鼓跳舞ノ片ニモ用ユ

第四圖ハ 土人船ヲ作り其他板ヲ造ル等ニ用

ト
器
具

エ
ル
鉦

第五圖ハ

土人ノ用ユル木鉢

第六圖ハ

約其製貝ヲ磨テ魚ノ身ヲ作リ貝ヲ
大磨シ或ハ鶏蹴此ヲ磨シテ尾辺ヨ
リ逆ニ一犬形ノモノヲ縛付アル樹
ノ皮ヲ尾ニ付ケ本邦ノ蚊鉤ノ如ク
ニ用ユ

第七圖ハ

鉤 鉤魚ノ皮土人船来ノ鉤ト椰楯ノ
葉ヲ添ヘテ用ユル圖ノ如シ

第七圖ハ

ノ皮ヲ尾ニ付ケ本邦ノ蚊鉤ノ如ク
ニ用ユ
鉤 鉤魚ノ皮土人船来ノ鉤ト椰櫓ノ
葉ヲ添ヘテ用ユル圖ノ如シ

第一圖

第二圖

第六圖

第七圖

第五圖

第五圖ハ

土人ノ用ユル木鉢

第六圖ハ

約其製貝ヲ磨テ魚ノ身ヲ作リ貝ヲ
大磨シ或ハ鶏蹴ルヲ磨シテ尾辺ヨ
リ並ニ一犬形ノモノヲ傳付アル事

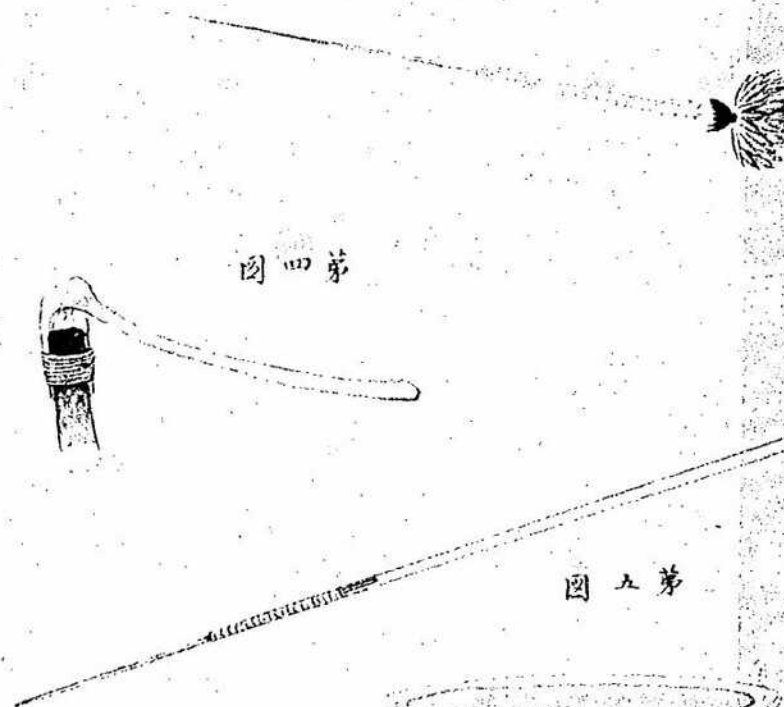
第一圖

第二圖

第五圖

第四圖

第三圖



第八圖ハ

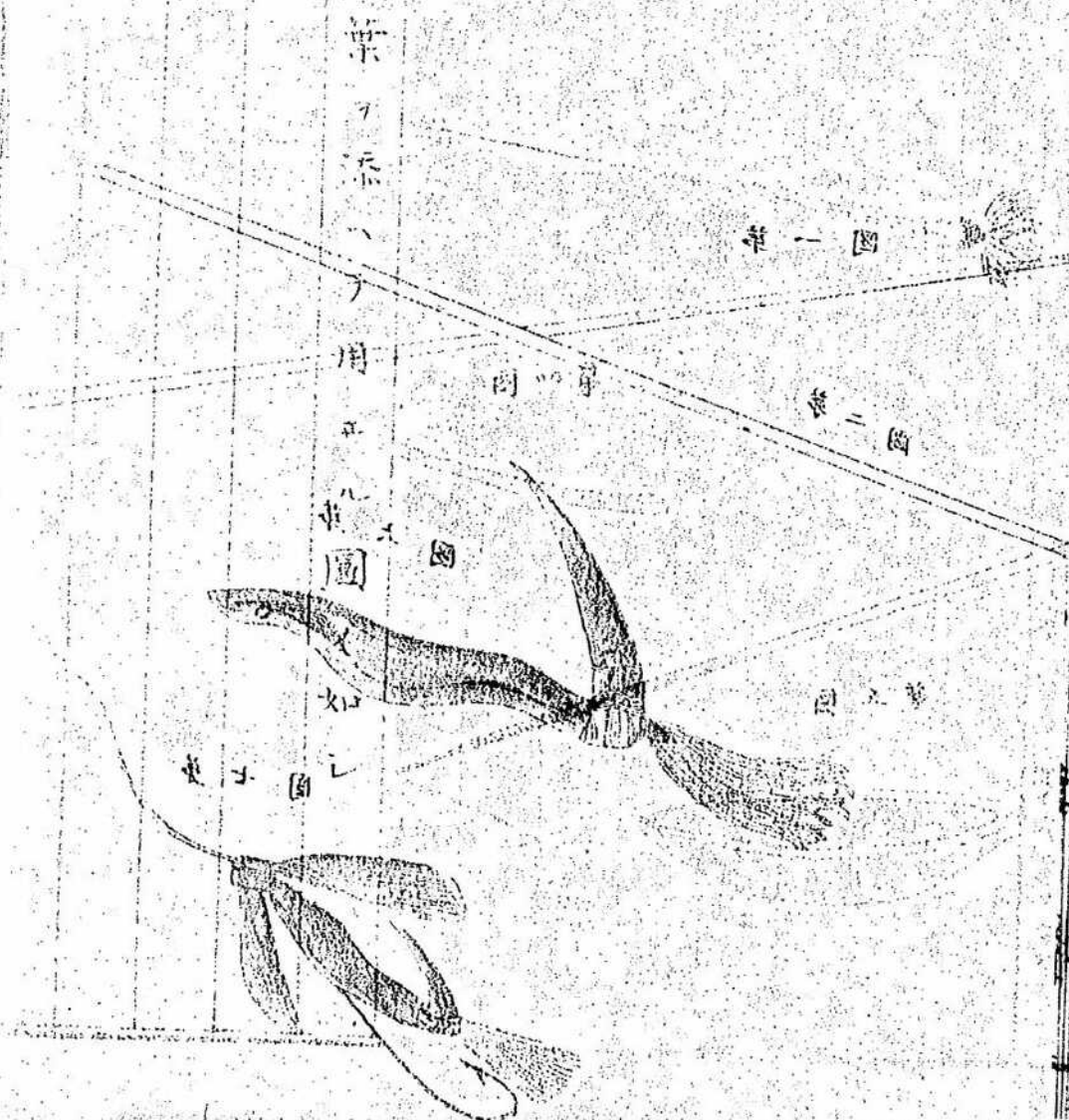
楫ノ如クニ用ユル櫂

ト

ハ

ハ

- カノ一船ノ種類
- 第一圖ハ 大形カノ一船ノ扁面ニシテ帆仕舞
ナヒシ模様
- 第二圖ハ 大形カノ一船前面ニシテ帆ヲ張リ
シ模様
- 第三圖ハ 中形カノ一船扁面ニシテ帆ヲ張リシ
模様
- 第四圖ハ 小形カノ一船扁面
- 第五圖ハ 小形カノ一船前面
- 第六圖ハ 大中形カノ一船ノ潮水汲器
- 第七圖ハ 同段
- 第八圖ハ 楫ノ如クニ用ユル櫂



夕
掛
船

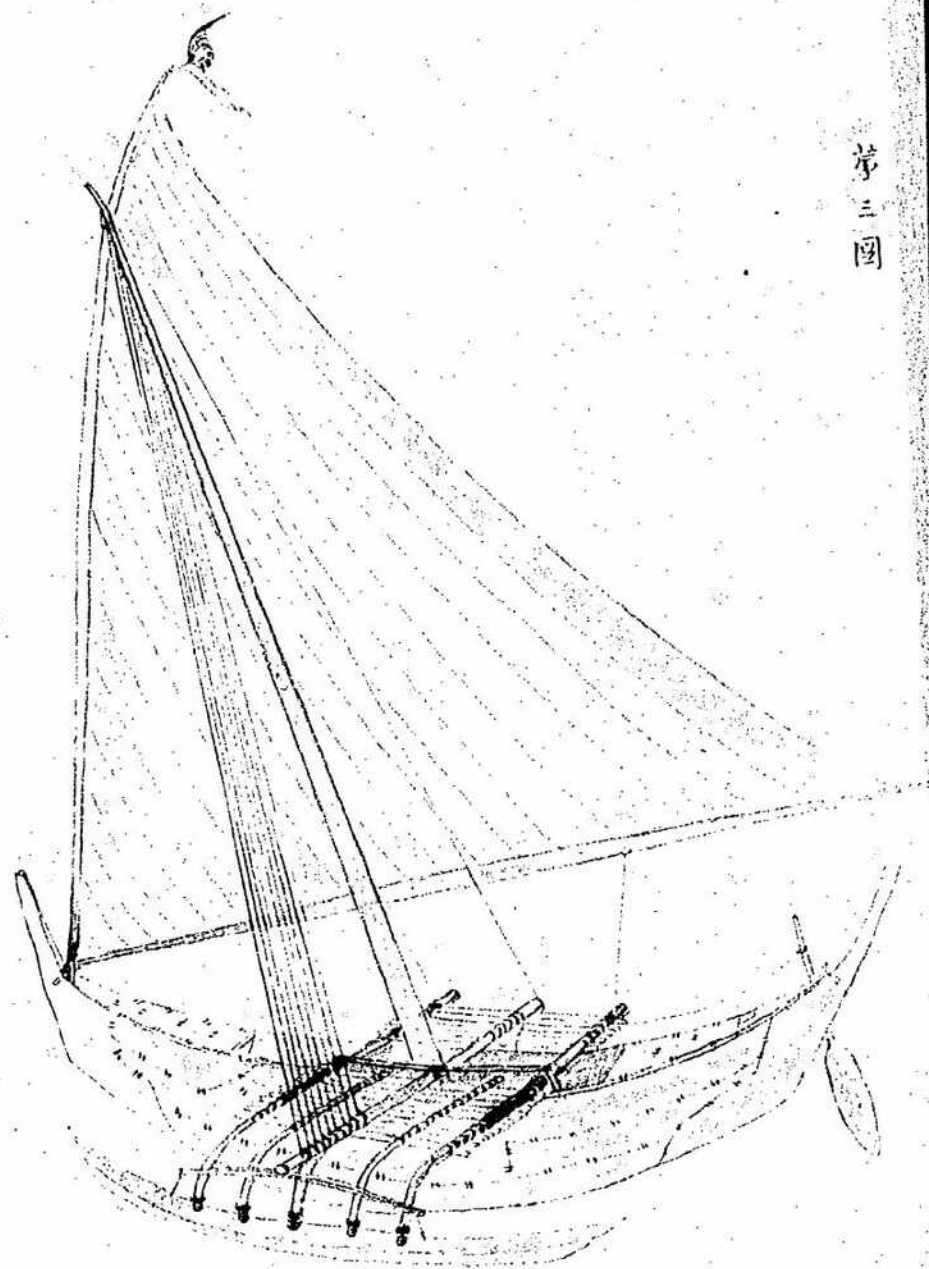
第九圖ハ 船ヲ進ムルニ用ユル櫂

第十圖ハ 小船ノ潮水汲ミ器

船ノ製作ノ委細ハ本書(即風俗部)ニ説明セルニ

依リ此ニ贅セズ

第三圖

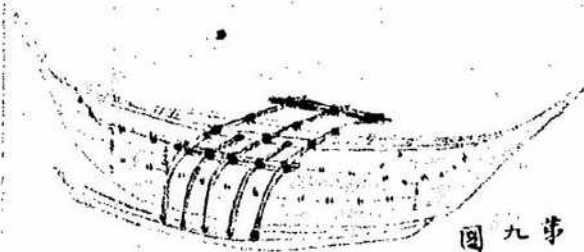


第十圖

第九圖ハ 船ヲ進ムルニ用ユル櫂
第十圖ハ 小船ノ潮水汲ミ器

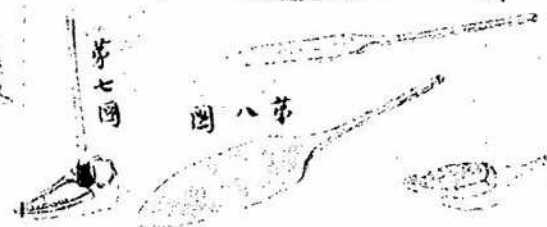


第九圖



第九圖

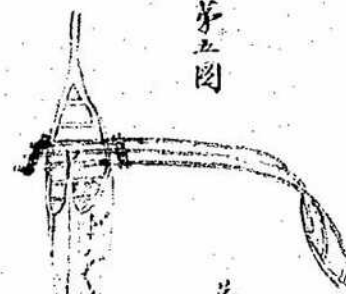
第八圖



第七圖



第五圖

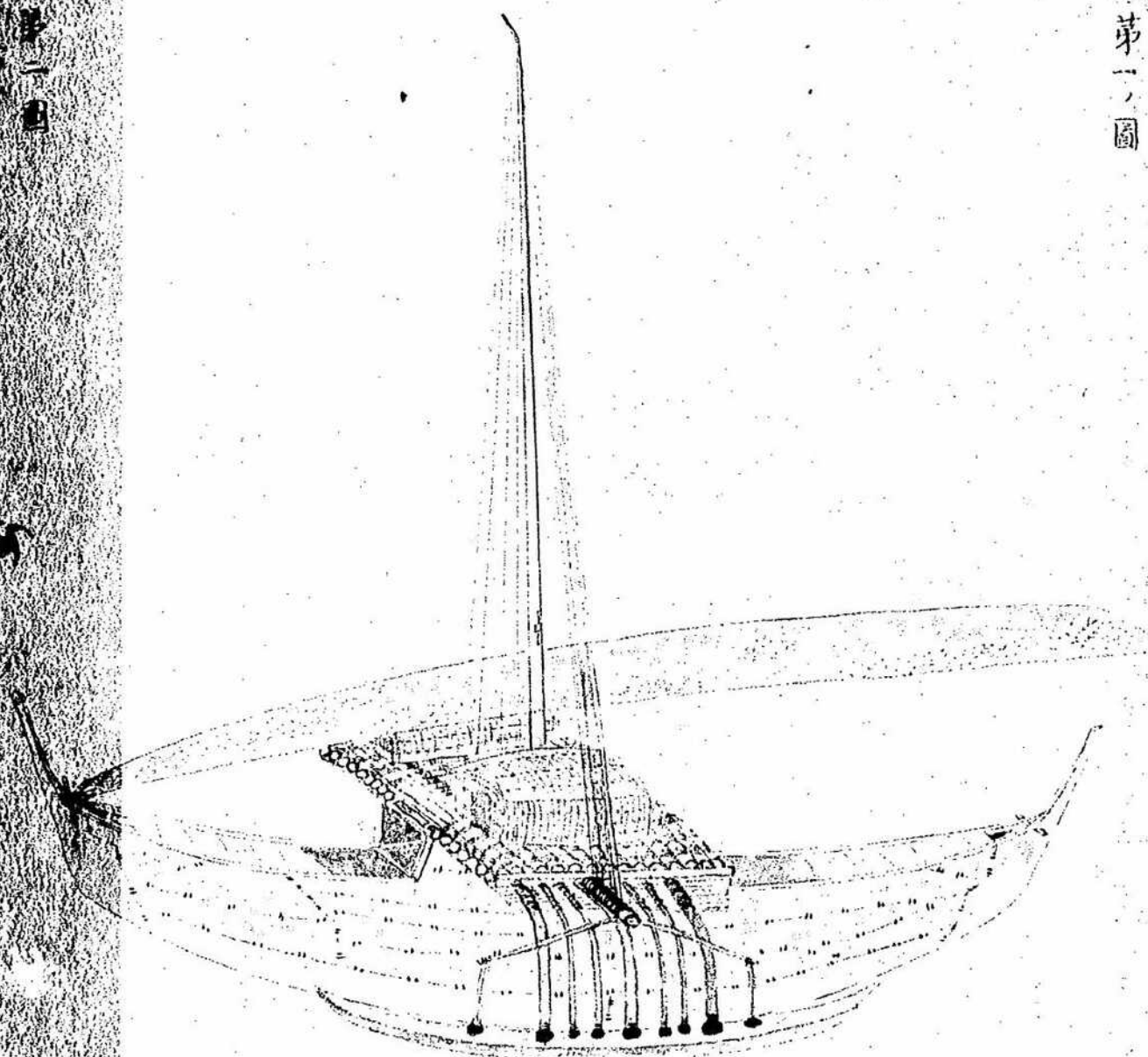


第六圖



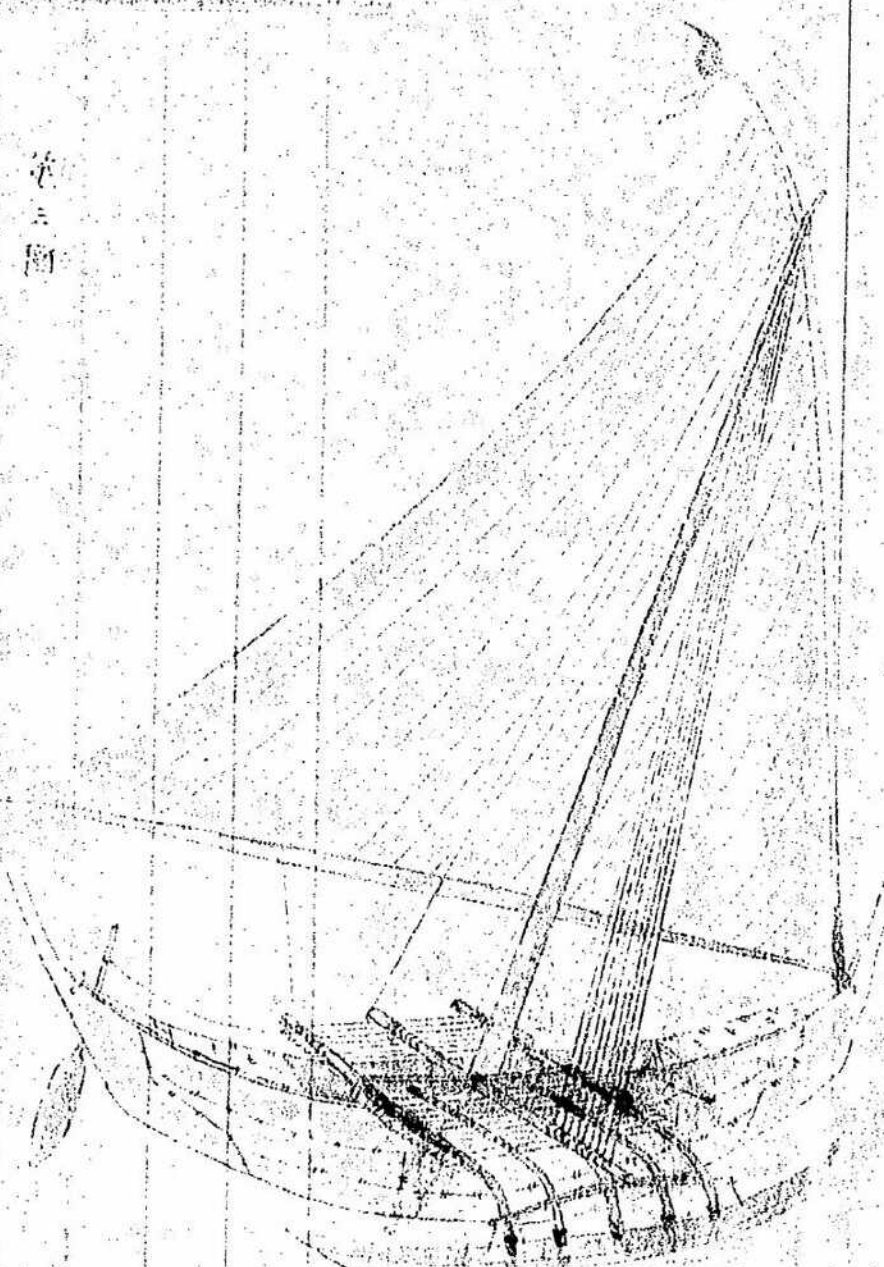
第十圖

第二圖

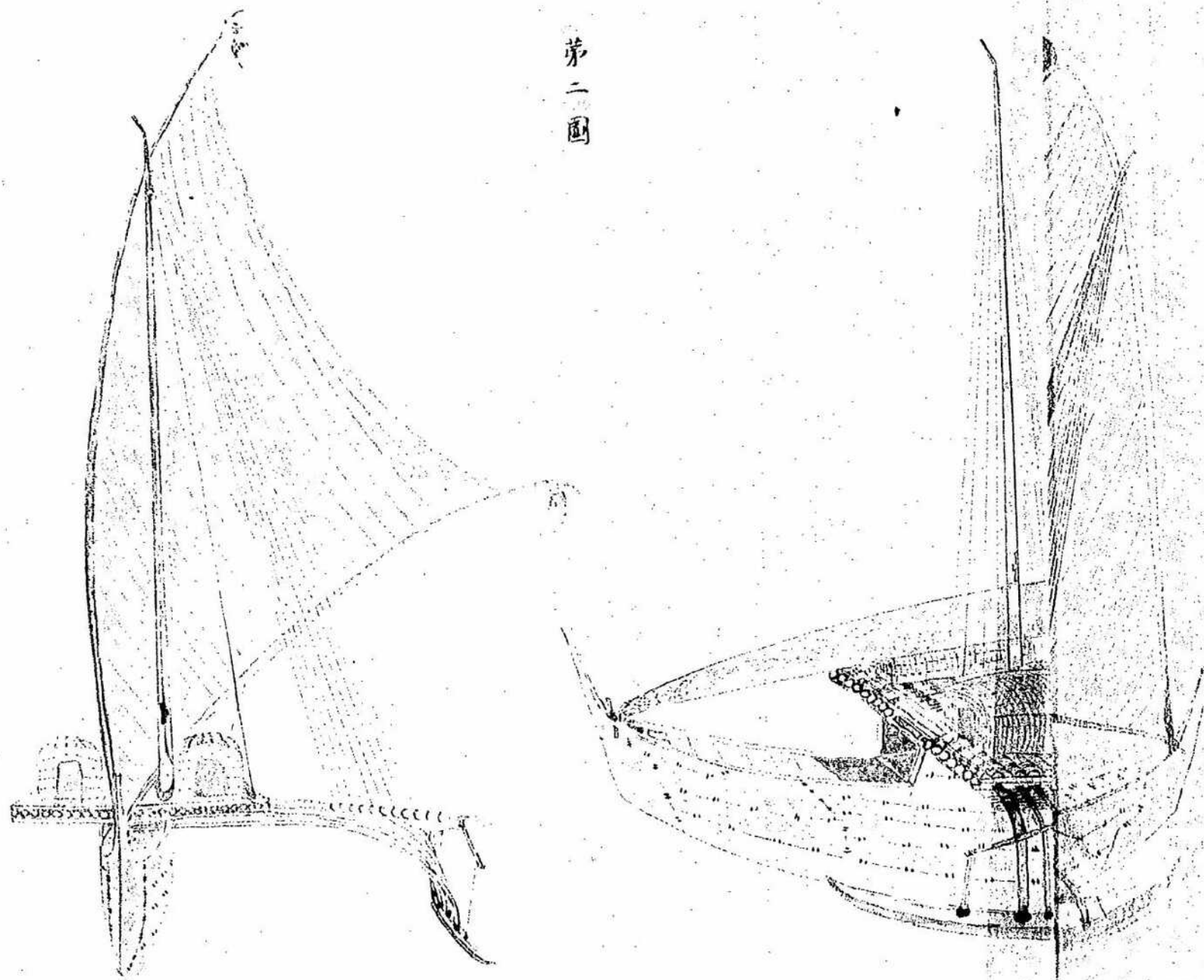


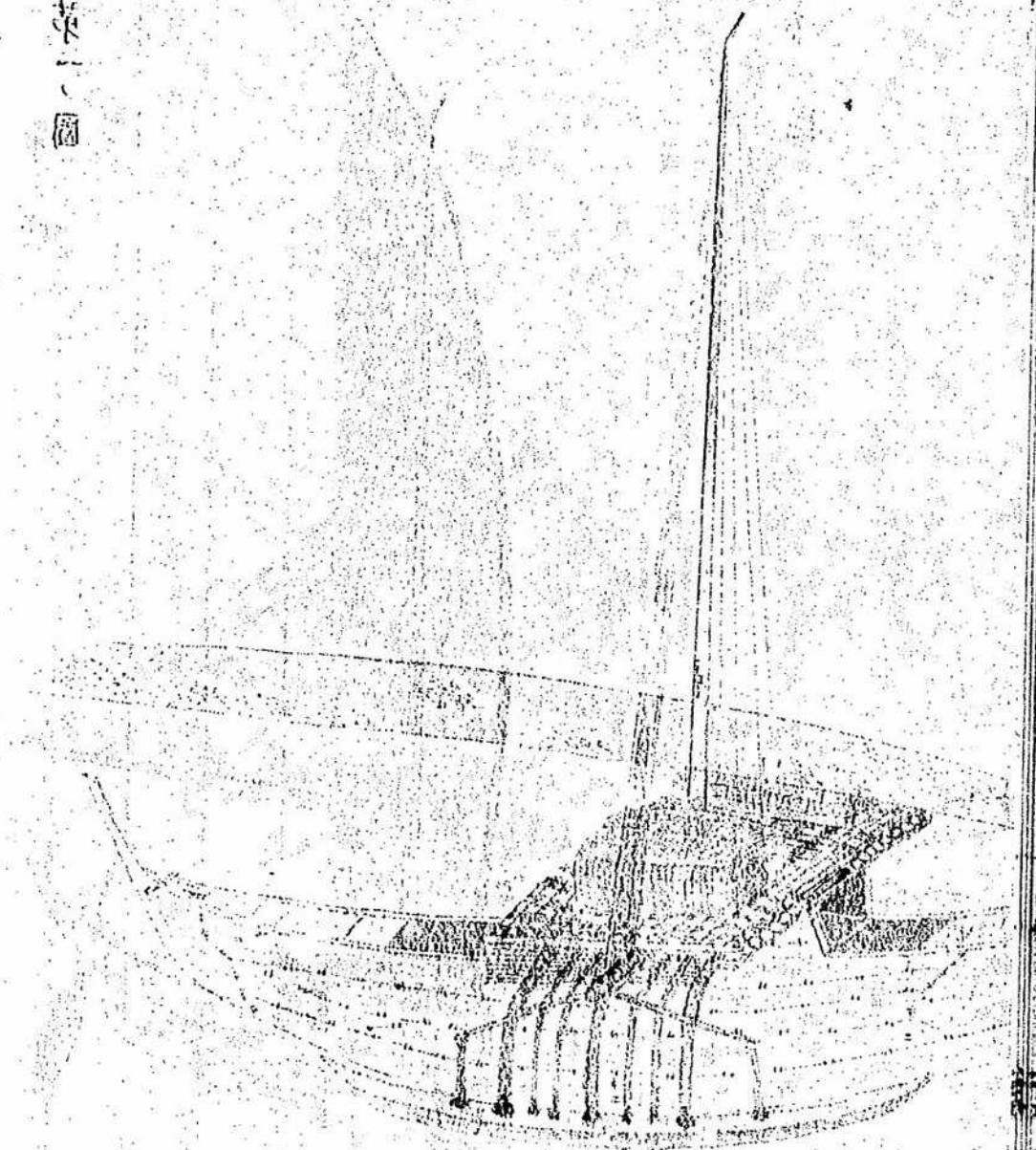
第一圖

第三圖



第二圖





家屋ノ種類

第一圖ハ 島酋長ノ宅

屋ハ下クヨパンダノ葉ニテ葺キ上ハ
ヨ柳楯ニテ葺キ板壁ハパンダノ葉ヲ用
エ島主ノ居ト畧同シ只ク大小ノ別アル
ノミ故ニ島上ノ家ノ圖ハ畧ス

第二圖ハ 小シク資力アル民ノ家

屋ハパンダノ葉ニテ葺キ板壁ハパン
ダノ樹ヲ割テ綴リ付ケタルモノ

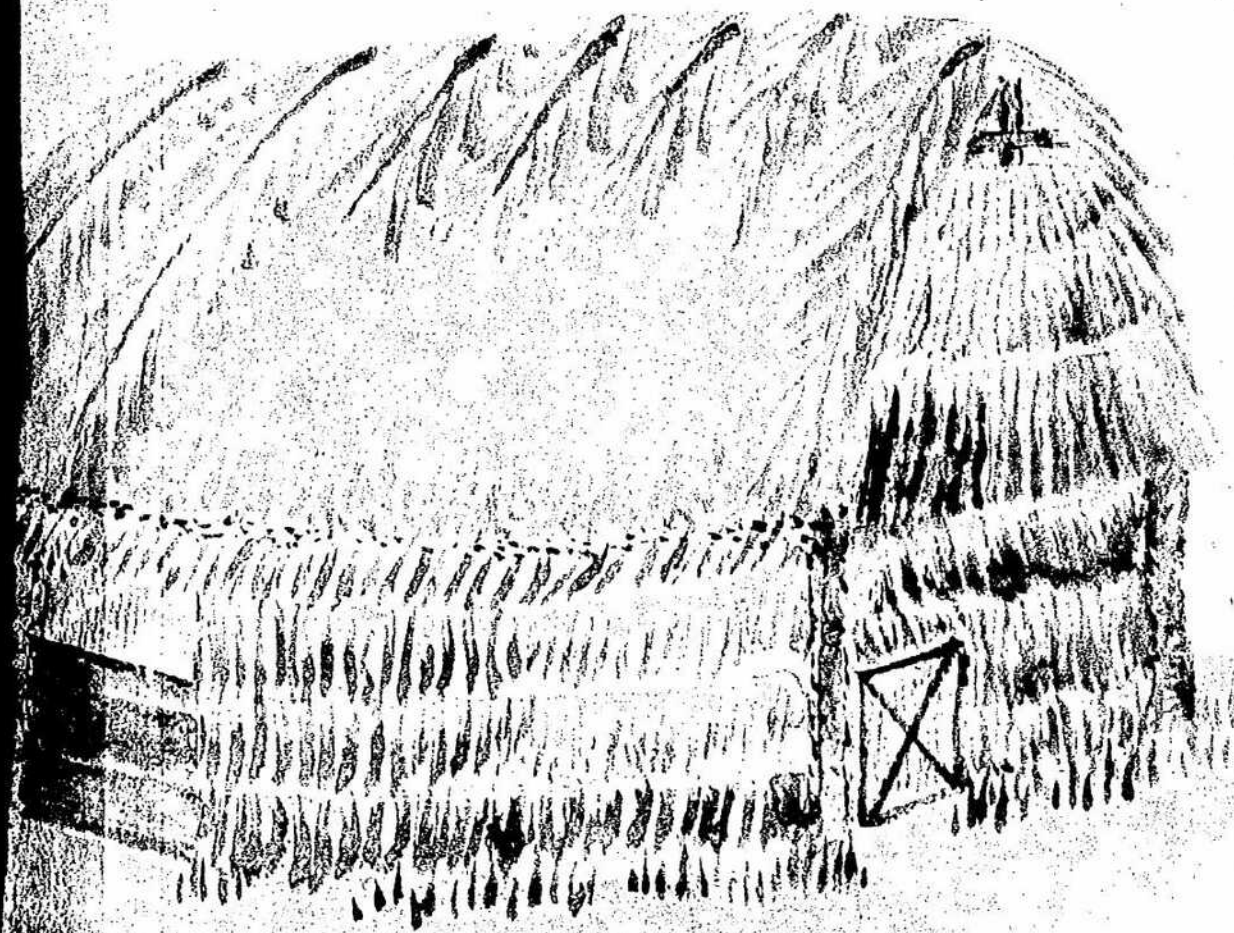
第三圖ハ 土民一般ノ如キ家ニ居ス

屋ノミニシテ板壁ナシ我ガ伏セ庵ト同

總テ内部ハ皆テ隔障ナク床ナク地上ニ砂石ヲ

家屋ノ圖

第一圖



敷キ其上ニ谷敷キ物ヲ敷テ冥踞ス

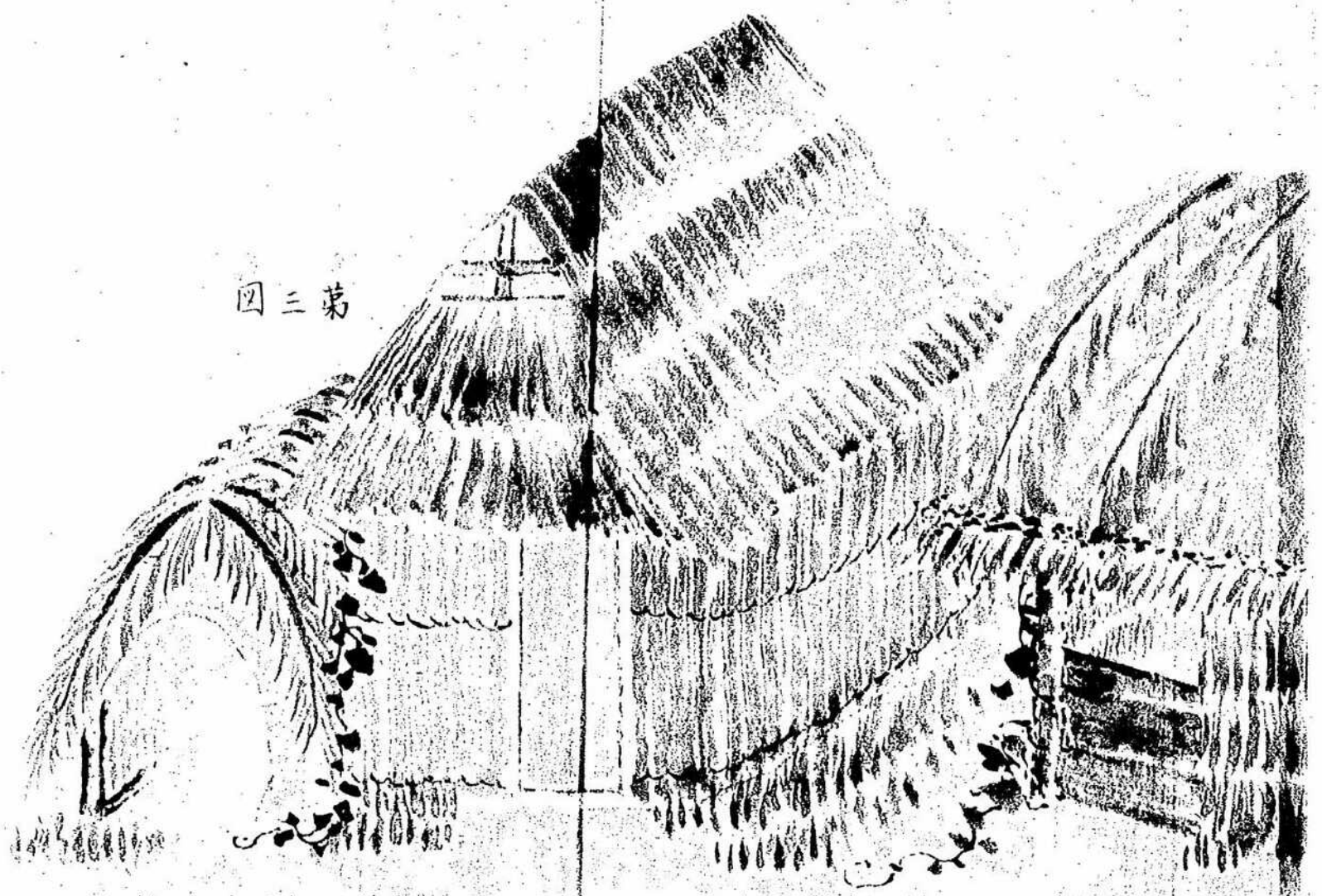
夕

暮

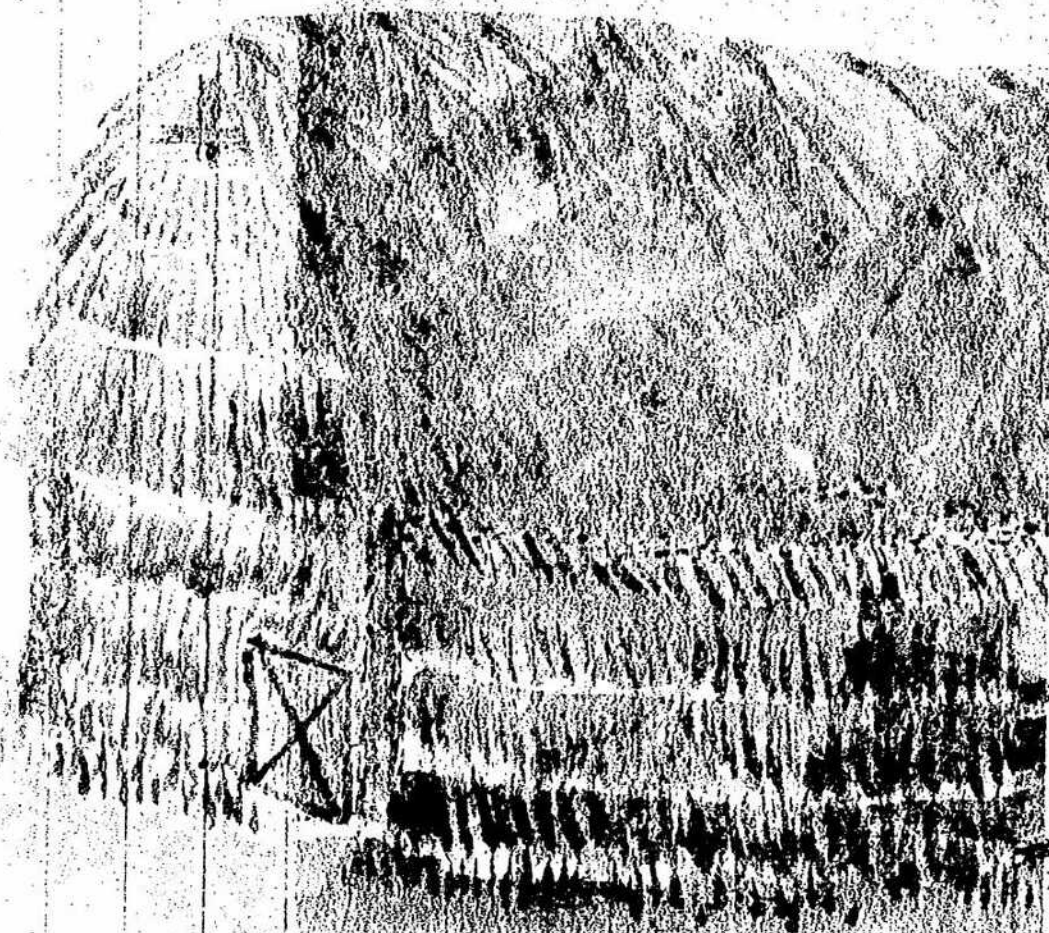
行

敷
キ
具
上
ニ
谷
敷
キ
抄
テ
敷
テ
箕
頭
ス

図二第



図三第



同島ノ土人ノ衣服等ノ種類

第一圖ハ 女人ノ腰下ニ着スルモノ

バンゲノ葉ヲ細製シテ織作スモノ

第二圖ハ 男人ノ腰下ニ蔽フモノ

アゲノ葉ノ皮ヲ以テ製造

第三圖ハ 男人ノ少兒ノ腰下ニ着スルモノ

全前

第四圖ハ 土人頭ニ冠シ或ハ首環ニ用ユルモノ

白貝ヲ連ネ造ル

第五圖ハ 土人ノ冠

全前

第六圖ハ 首環

ハートト云フ石ヲ以テ作ル

第七圖ハ 男人ノ用ユル簪

白羽ニテ用ユ

第八圖ハ 土人簪トナシ或ハ耳孔ノ飾トス

キユアト云フ草ノ花也

第九圖ハ 耳孔ニ填スル環

バンゲノ葉ヲ以テ造ル

第十圖ハ 男人ノ帶

バンゲノ葉合セ造ル

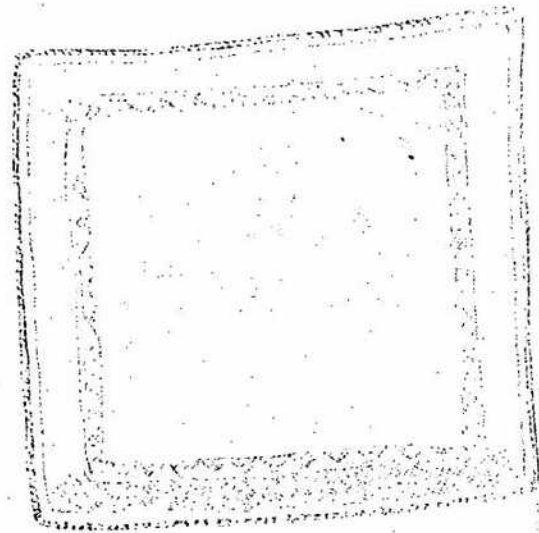
第十一圖ハ 女人ノ帶

バンゲノ葉ヲ細製シテ九ツ組ニ成セシモノ

第十二圖ハ 土人寢席
 第十三圖ハ 男人ノ風
 第十四圖ハ 童兒ノ風
 第十五圖ハ 女人ノ風

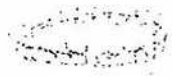
パンタノ糸ヲ綴リ
 造ル

第一

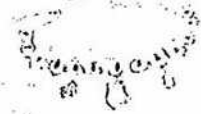


第四

第五



第六



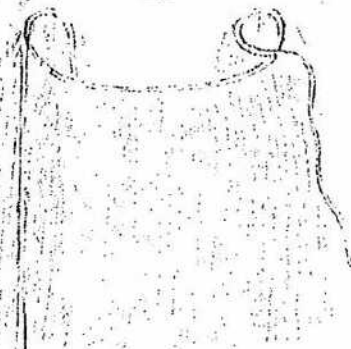
第七



第二



第三



第八



第十四圖ハ 童兒ノ風
第十五圖ハ 女人ノ風

第四

第五

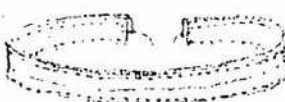
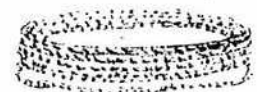
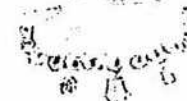
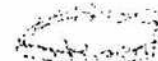
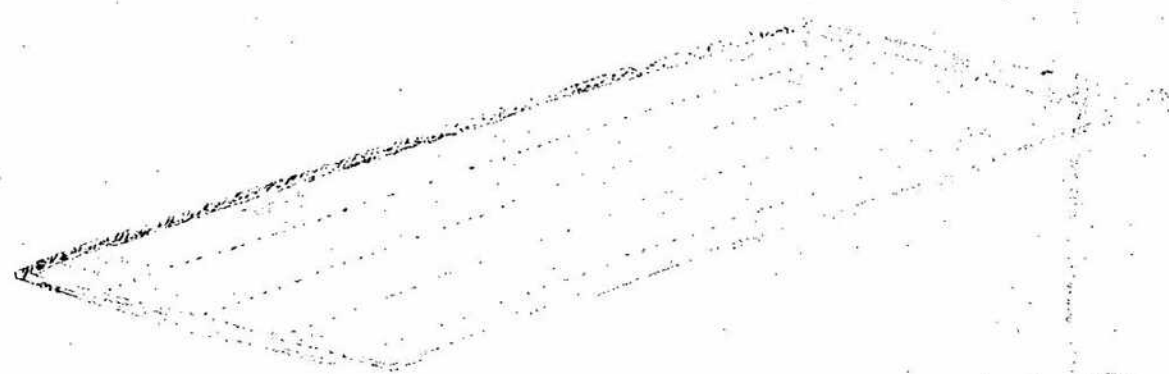
第六

第三

第二十

十一

第十



十四



十三



二十第



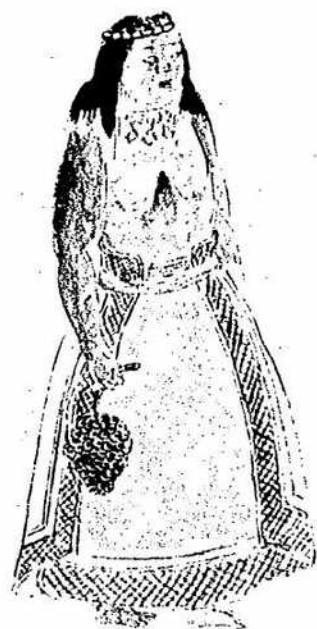
十一第



第十



十五

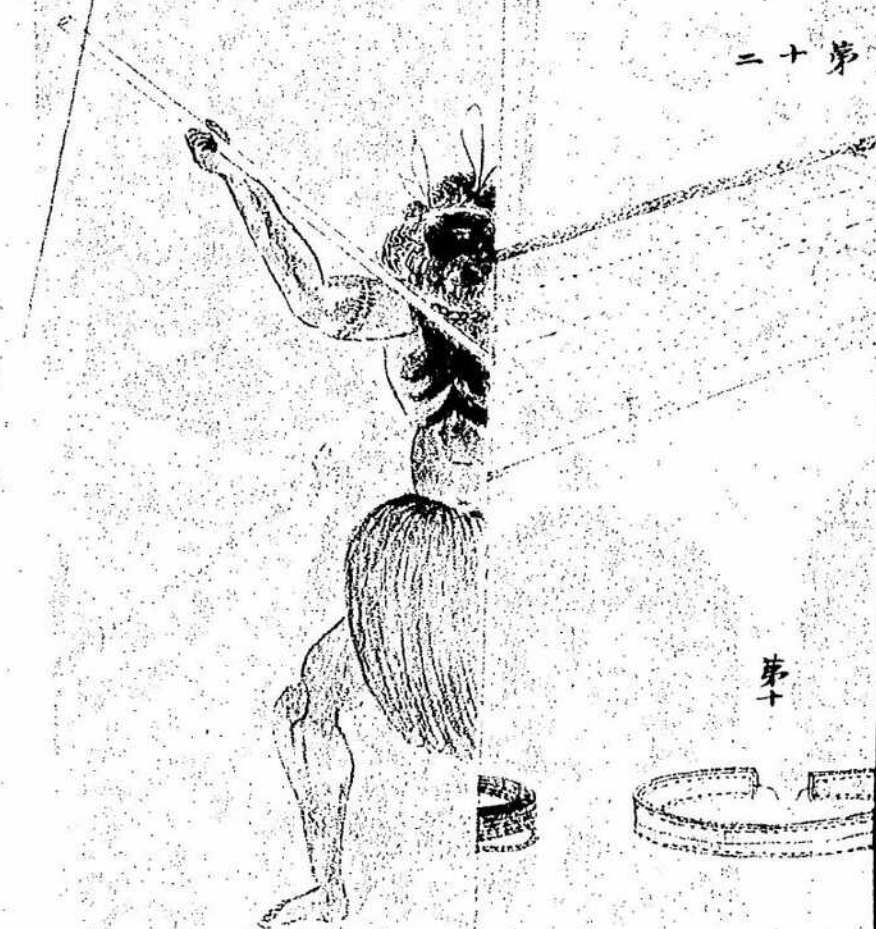


十四



十三

第二十第



第十

マルレヤール群島々主之性質
 諛群島當時ノ島主ハ名ヲ「ガホロー」ヲボシト云
 フ其人トナリ剛毅ニレテ能ク決斷アリ土人ヲ
 賞罰スル皆獨斷親行ニレテ敢テ人ニ謀ルナ
 ク民ヲ刑スル必ス自ラ之レヲ刑ス敢テ人ノ手
 ヲ假ルナラズ焉然レモ平生ハ頗ル温和ニシ
 テ全島ノ人皆之レヲ望ム父ノ如クス是自然ニ
 王徳ヲ有スルモノト謂ベレ
 然ルニ是ノ人固ヨリ無學ノミナラス頗ル世事
 ニ暗ク固ヨリ交際ノ何モノタルヲ知ラス且ツ
 外國人ニ接セレハ小高船ノ船主水夫等ニ非レ
 バ鯨漁者ナドノ外ハ見レテ無故ヲ以テ人ニ對



スル頗ル無礼卑劣ニシテ其挙動厭フベキヲノミ多シ

同人平生ノ思想ヲ察スルニ只ダ金銀ヲ貯積シテ外人ニ誇ラント欲スルナリ昏愚笑フベシ而シテ日々只ダ金銀貨ヲ求ルニ汲々トシテ外國商人來港スルニ逢ヘバ當時ハ成ルベキ丈ケ金銀貨ヲ得ント欲シ交換品ヲ見レバ何レモ意ニ叶フモノナシト云ヒ金銀貨ニテ國產ヲ賣リ付ケントス

吾輩島主ノ宅ヲ訪セシキ同人ハ種々所有物ヲ取り出シテ示セリ其内最も自慢ニテ示セルモノハ則銀貨二千弗程ナリ仰モ無學無知ニシテ只ダ金錢ヲ貪ルニノミ意ヲ用ユルガ故ニ義理

分別モナク安リニ貪慾ノミ増長シ其行跡眞ニ厭フベシ談話スレバ毎ネニ居ハ何幾程ノ財産ヲ有スルヤナド問フノ外ハ百般金錢ヲ得ルノ方法ヲ質問スル事ナラデハ他ニ談話スルヲ知ラズ吾輩ヨリ一事ヲ依頼スレバ直ニ其儀ニ付幾何弗ヲ拂ヒ呉ルカト申出其礼金ヲ約束セス内ニ依頼ノ事ヲ承諾スルヲナシ

所屬ノ島嶼ヲ巡回スレバ先ヅ島酋長ノ宅ヨリ土民ノ家ニ至ルマデ一一檢査搜索シ金銀貨等アレバ皆ナ持シ去ル始終貨幣等ヲ貪ルヲ以テ日々ノ事業トナス何故ゾト云フニ近々ニ已レノ所有金ヲ一万弗貯ヘ何クヨリカ帆走船ヲ一艘買入レ已レノ親戚所有ノ物件等ヲ悉皆一艘

ニ積入レ而シテ已レノ領島ヲ始終巡回セント
ス是彼ノ宿願ナリト云ヘリ
外人ノ衣類物件等ヲ見レバ賣品ニ非ラザルモ
一、手ニ取リ其價ヲ向ヒ或ハ下タ衣ナドヲ見
テ頻リニ請求シ與フレバ又ソ明日モ来リ衣類
等ヲ見セ呉レヨトテ請求シテ去ラス煩惱厭フ
ベシ
彼ノ最一恐懼スル所ノ事ハ軍艦ノ来港スル
ナリ嘗テ該群島ノ港灣地形ヲ実視シタキニ付
キ土民ヨリ吾輩ニ害ヲ加ヘヌ様ニ保護ヲ與ヘ
且ツエーダ号ハ商業ノ為メニ他島ニ趣ケバ吾
輩カ島中ヲ巡視スル為メニ船舶ノ航海スルニ
足レルモノヲ借シ與ヘ呉ト依頼セシニ島主色

ヲ憂シ是レ必ズ貴國ノ人民ヲ屠殺セシ事ヲ怒
リ為メニ軍艦ヲ差シ向ケラル、支度ナラズヤ
ト云ヒ大ヒニ驚愕平心ニザル様子アリ依テ種
々ニ談判致セ共何分承知セズ是ニ於テ少しク
愠色ヲ成シ嚴談セシニ軍艦ヲ差向ケラル、為
メナレバ迷惑至極ナリトテ汽リ居リシガ遂ニ
両手ニテ胸ヲ打テ承知セシ旨ヲ答ヘリ併此事
ノ為メニ幾何程ノ金員ニ拂ヒ呉ルヤト直ニ中
出シニ付キ彼ノ所望ハ何程ナルカト吾ヨリモ
問ヒ彼我相談之上其手数料及船賃人夫ノ賃錢
マテ其定額ヲ約シ漸クニシテ此段ヲ取り極メ
レ事アリ
保護ノ一點ニ到テハ實ニ王命ノ能ク行ワル、

ニ積入レ而シテ已レノ領島ヲ始終巡回セント
ス是彼ノ宿願ナリト云ヘリ
外人ノ衣類物件等ヲ見レバ賣品ニ非ラザルモ
一、手ニ取リ其價ヲ問ヒ或ハ下ク衣ナドヲ見
テ頻リニ請求シ與フレバ又ソ明日モ来リ衣類
等ヲ見セ呉レヨトテ請求シテ去ラス煩悩厭フ
ベシ

彼ノ最一恐懼スル所ノ事ハ軍艦ノ来港スル一
ナリ嘗テ該群島ノ港灣地形ヲ実視シキニ付
キ土民ヨリ吾輩ニ害ヲ加ヘヌ様ニ保護ヲ與ヘ
且ツエーダ号ハ商業ノ為メニ他島ニ趣ケバ吾
輩カ島中ヲ巡視スル為メニ船舶ノ航海スルニ
足レルヒノヲ借シ與ヘ呉ト依頼セシニ島主邑

ヲ凌シ是レ必ズ貴國ノ人民ヲ屠殺セシ事ヲ恐
リ為メニ軍艦ヲ差シ向ケフル、支度ナラズヤ
ト云ヒ大ヒニ驚愕平心セザル様子アリ依テ種
々ニ談判致セ共何分承知セズ是ニ於テ少シク
愠色ヲ成シ嚴談セシニ軍艦ヲ差向ケラル、奇
ノナレバ迷惑至極ナリトテ洩リ居リシガ遂ニ
両手ニテ胸ヲ打チ承知セレ旨ヲ答ヘリ併此事
ノ為メニ幾何程ノ金員ニ拂ヒ呉ルヤト直ニ申
出シニ付キ彼ノ所望ハ何程ナルカト吾ヨリモ
問ヒ彼我相談之上其手数料及船賃人夫ノ價錢
マテ其定額ヲ約シ漸クニシテ此段ヲ取り極メ
レ事アリ
保護ノ一點ニ到テハ實ニ王命ノ能ク行ワル、

ニ警キタリ島主ヨリ各島ノ酋長ニ「此回渡来ノ
日本官吏二名ハ何レノ島嶼ニ行ヒテモ總テ島
主ガボワート同様ニ取り扱ヒニ官吏ノ命ニ違
ヒ且ニ官吏ニ害ヲ加ヘントスル者アラバ之ヲ
シ最罰スベシ云云」此命乍テ各島ニ達セシニ依
リ遂ニ無恙今日ノ目的ヲ達スルヲ得タリ
實ニ島長ヲ島主ノ命ニ依リ専ラ保護シ加フル
モ尚リ盜ニ達ヒ其他心常ニ安カラス事ニ達フ
「ヲ多シ故ニ破船ノ漂流人ニシテ該群島中ニ漂
泊上陸スレバ身命ヲ全フシテ帰國スル者殆ン
ド稀ナリト云
又ク島主ノ厭フベキ振舞ハ酒食等ノ物ヲ見レ
ハ頻ニ空服ナリト云テ去テ去ラバ一度食ヲ與

フレバ食時ゴトニ必ス来リ食ヲ乞フ殘餘アツ
テ之レニ與ノレバ快ミトシテ喰ヒ尽ス實ニ極
醜ノ行跡見ルニ忍ビズ
島主ハ土民ニ對シテハ頗ル威權アツテ百事萬
機皆獨斷ニシテ實行ス敢テ土人ヲシテ寸分モ
之レヲ評セシメズ土人モ亦島主ノ為ス所命ズ
ル所ハ縱令如何ナル大事ト雖モ敢テ之レヲ可
否セズ只命ノ從ニ任スノミ
右ハ島主カボワート、ラホンノ人トナリ大畧見受
候文ヲ相認上申仕候也

ラエ島ニ於テ日本人遭害ノ始末

ラエ島ノ形勢

該島ハ北緯八度五十八分ニ起リ九度四分ニ盡
東經百六十六度二十五分ニ起リ三十分ニ至テ
盡ク東南ノ西面ハ各五英里西北ノ西面ハ各六
英里ヨリテ殆ント方形ヲ成セリ

四面繞ラスニ盤礁ヲ以テ内ニ十八島嶼ヲ基
布ス其内大ナル者ハ只二個ニシテ餘ハ皆細小
ナル點石ノ如シ

海門ハ只一ヶ處ノミ島ノ西南南ノ隅ニ位ス其
廣サ十間ニ出デス深サ十尋許潮汐頗ル急ニ
テ船舶ノ出入甚危険ナリ

島内山嶺河湖ナク椰櫚頗ル多シ土民採リ尽ク

ス能ハズ群島中コブラノ産出スル該島最多量ニ居レリ

群島中土人ノ美ヲ好ムノ風アルハ該島ヲ以テ最一トナス土人ノ住屋及衣服等群島中ニ於テ該島最可ナリ且ツ船舶ニ富ノリ

此島北百二十四英里ニシテアイリグナーエ島アリ百五十英里ニロングラップ島アリ百四十五英里ニロングリック島アリ

東方ハ三十五英里ニコワジレン島アリ

東南ハ七十英里ニエニリーブ島アリ

西方ハ十七英里ニウーヂヤエ島アリ

西北ハ五十五英里ニウヲッド島アリ

該島ハ群島中最小島ニシテ住民總ニ百人只一

島ニ住居シ餘十七島ハ無人島ト成リ居レリ其十八島ノ名称左ノ如シ

ラエ

周囲四英里

リボシ

全ニ英里餘

ルワイ

小島故見ハセス

ラメン

全

ホコナイドック

全

エネレイン

全

エネイナモナン

全

アルカレック

全

ユンビジ

全

エニジヤルドック

全

エネマネー

全

ト

タ

タ

ラエ諸島之圖

十九万四千四百八

海一 二 三 四 五 六 七 八 九 十



海

ラエ諸島の島長は、
ラエ島、出生し、能く同島、地、
時、制、本、國、を、領、同、人、の、地、に、該、島、
を、視、せ、其、中、同、人、の、地、に、付、
場、の、地、に、該、島、に、該、島、民、
日、今、漂、人、を、殺、其、船、を、焚、
こ、處、に、リ、ト、語、し、

百六十六度二十分

百六十六度二十分

其島嶼ノ點綴セル形状港灣海門ノ位置圖ノ如シ

ベ	ケ	ナ	イ	ス	全
ル	イ	ジ	ヤ	ツ	全
レ	ー	フ			全
ブ	ウ	イ			全
ビ	キ	ラ	ベ	ツ	全
ラ	メ	リ	キ	リ	全
ラ	メ	イ	ヨ	ー	全

夕
日
月

該島ノ當今酋長ハ其名ヲ「ラリレ」ト云フ其人長
ク五尺ニ滿ク蓬頭ニシテ濃髭アリ鷹眼ニシ
テ猿額其性頗ル猖獗悍惡殘忍暴強恣慾度ナク
死ヲ見テ頗ク鮮ク仁慈ノ心ナク果斷ニシテ能
ク土番ヲ壓制シ威ヲ島中ニ逞マシウス同島ノ
土民亦皆ナ之ニ效フテ遂ニ性ヲ為ス故ヲ
以テ近隣ノ島嶼ノ民ト自ラ信睦セス群島中ノ
難カル所ト成レリ近隣ノ島民外國商船ノ來ル
ヲ見レバ船長ニ「ラエ」人ハ武器ヲ賣與スルヲ
禁シメ或ハ「ラエ」島ニ商船ヲ行カガラシムルノ
工夫ヲ為スニ至ル

當時蛮民中最狡惡者多キハ「ラエ」島ヲ以テ第一
トス故ニ島主モ常ニ之ヲ憂トシ近隣ノ島民

ハ日ニ之レニ備ヲナヌ而シテ「ラリ」暴悪愈止
マス已デニ九月十四五日ノ頃モ小故ニ托シテ
自ラ牛刀ヲ以テ一婦人ノ頭ヲ斬リ其屍ヲ海ニ
投セリト云土民ニ問フニ群島中ニ於テ殺人最
多キハ「ワ」アル「ノ」兩島ヲ除クバ「ラ」工島ハ
最一ニ在ルベシト云ヘリ
「ラリ」ハ外人ヲ見レハ直ニ其所有品ヲ奪ヒ更
ラニ又タ求ム時ニ無ク以テ答フレハ牛刀ヲ持
シテ之レヲ殺ス故ニ外國ノ商船該島ニ入港シ
商法スルモ碇泊スル「ヲ」為サズ又「ヲ」該島民ハ
近海ニ商船ノ通航スルヲ認めレハ直ニ「カ」ノ
ニ乘リ追ッテ来ル及バハ則船ニ登リ物ヲ求ム
嘗ニ「ユ」ガ号ガ「コ」ブラ「ヲ」積ム為メニ該島ニ入

港セシニ「ラリ」船ニ来リ強ヒテ船長ニ迫リ金
銀貨ヲ一個ツ、ヲモラヒ受ケ次ニ衣服ヲ求メ
或ハ水夫ノ所有品ヲ奪フニトシ其他物件ヲ見
レバ之レヲ持シ去ル土民自ラ之レニ效ヒ遂ニ
一般ノ風トナレリ近隣ノ島嶼ニ在ル蠻民スラ
之ヲ厭フ況ンヤ外人ニ於テ「ヤ」
吾輩一日該島ノ隣島ナル「ウ」チ「ヤ」工島ニ滞留
ス土民「ラリ」レノ處ニ行キ日本ノ官吏二人「ウ」
チ「ヤ」工島ニ来レリト告ル者アリ「ラリ」レ之ヲ聞
キ已レノ奴ヲシテ吾輩ノ元トニ来ラシ「日本」
ノ官吏遠ク該島ニ来タレリ起居平安ナリヤ
暇マ「ラ」バ幸ヒニ「ラ」工島ヘ渡来アラレヨ日本
ノ官吏ハ我レ兄弟ノ如ク思フ来島ノ節ハ土人

ノ制衣セシ繡紋アル草席ヲ献ゼント云ヘリ蓋シ
豫テ日本人ヲ屠殺セシ事ノ為メニ来ルヲ知リ
款待ヲ以テ之ノ罪責ヲ脱セントスルノ意ナラ
シ狡猾惡ムベシ

該島ハ島長ヨリ土民ニ判ルマデ一般ニ右ノ風
習頗ル盛ナリ群島中最兇惡ノ区域ト謂フベシ

ラエ島ニ於テ日本人遭害ノ實跡

ラエ島ニ於テ土番ノ為メニ屠殺セラレシ日本
人義ハ「ラエ島」ヘ漂着セラル前同島以北百五拾
英里ニ位セハ「ロングラー」島ニ漂着セシト申
事ハ豫テ承リ及候ニ付キ種々探索仕居候處幸
ニ先頃ヨリ「ムーチヤ」島ニ於テ「ロングラー」
島土人ニテ彼ノ漂流人が同島ニ於テ經歷セシ
事ノ始末ヲ目撃候者ニ落合候ニ付通年人ヲ以
テ一應其始末ヲ尋問仕候處該群島ニハ曆日無
之候ニ付時日ハ確ト相分兼候ヘトモ今日ヲ去
ルセハケ月前ニ於テ或ル日「ロングラー」島近
傍ノ暗礁ノ上ニ異形ノ船舶ノ来リ上ケ有之候
ヲ見出シ土人数十人「カノ」船ニ来リ其處ニ罷

越一見候處支那人ノ如ナレバ頭ニ長キ髪ヲ付
ケス外國人六人乗組ノリ中ニハ斬髪ノ者モ有之何レモ大ニ
困苦ヲ窮ノ居候様子ヲ見受候ニ付何レモ其船
ヲ礁上ヨリ卸スヲニ助力致シ漸クニ水上ニ浮
ベ同島港灣内ニ導キ入レ候處乗組人ハ頗ル飢
渴ニ迫リタル様子ニ候故飲料及椰櫂ノ實其外
種々ノ糧食ヲ與ヘ候處漂流人ハ大ニ慶ビ其謝
儀トシテ廣キ袖ノ衣服等ヲ與ヘ呉レ且ツ同船
ニ積入レ有之候酒樽ヲ取出シ其内ヨリ酒ヲ出
シ温テ土人ニ飲マシメ且ツ樽ノ傍ニテモ之レ
ハ救助ノ謝儀ナリトシテ多ク與ヘ兵候由又ク同
島港内ニ於テ右船ノ破損處ヲ修復致シ凡ソ二
週間程ハ同島ニ滞在致シ居候處土人ハ同船乗

本文ノ樽ハ
土人ヨリ買
ノ船中ニ於

組人ニ向テ該島ヨリ以南ニ「ジャリウト」島ト云
ヘルアリ茲ノ島ハ西洋人モ多ク住居致シ居ル
故同島ニ行クキハ必ズ良キ場合ニ出テ逢フ
モ有ルベケレバ彼ノ處ニ行キテ然ルベクト勸
奨致シ且其方位ヲ示シ候處漂流人ハ大ニ喜
ビ直々ニ「ジャリウト」島ヲ指シテ出帆致シ候夫
ヨリ二ヶ月程ヲ過キテ「エ」島人ガ該船ノ乗組
人ヲ屠殺セシト申ス事ノ風聞同島ニ相達シ候
由
又其船舶ノ形状及乗組人ノ数ト其容貌トヲ相
尋候處船ノ形ハ「カビデン」ハ「ディー」氏所有セシ日本
形漁船ノ通りナル製作ニシテ彼ノ船ヨリハ餘
程大形ニ候由帆檣ハ船ノ中心ニ一本取付有之

越一見候處支那人ノ如ナレバ頭ニ長キ髪ヲ付
ケス外國人六人乗組ノリ中ニ斬髪ノ者モ有之何レモ大ニ
困苦ヲ窮メ居候様子ヲ見受候ニ付何レモ其船
ヲ礁上ヨリ卸スヲニ助力致シ漸クニ水上ニ浮
ベ同島港灣内ニ導キ入レ候處乗組人ハ頗ル飢
渴ニ迫リタル様子ニ候故飲料及柳櫂ノ實其外
種々ノ糧食ヲ與ヘ候處漂流人ハ大ニ慶ビ其謝
儀トシテ廣キ袖ノ衣服等ヲ與ヘ呉レ且ツ同船
ニ積入レ有之候酒樽ヲ取出シ其内ヨリ酒ヲ出
シ温テ土人ニ飲マシメ且ツ樽ノ底ニテモ之レ
ハ救助ノ謝儀ナリトシテ多ク與ヘ其候由又ク同
島港内ニ於テ右船ノ破損處ヲ修復致シ凡ソ二
週間程ハ同島ニ滞在致シ居候處土人ハ同船乗
組

付箋

付箋

本文ノ樽ハ富士の雪ト申ス焼印有候ニ付
土人ヨリ買取リ二個持帰候途中風濤ノ為
メ船中ニ於テ失ヒ候ニ付此ニ附言仕候

帆ハ大ニシテ方形ナルモノヲ一ツ掛ケ有之帆
綱ハ数多取付有之帆ノ製ハ数十反ニ白キ木綿
製布ヲ綴リ合セ造リ有之候ト申伸候

衆組人ハ六人ニシテ何レモ皆エーダ号ニ衆組

ナル日本水夫ノ通リナル容貌ニシテ其衣類ハ

長キ斫袖ノ衣服ヲ著シ腰ノ辺ニ帶ヲ結ビ居リ

頭髮ハ或ハ小サク結ビ或ハ斬髪ニシテ言語ハ

更ニ通セズ英語モ少しモ分ル者無之ト申事ニ

御坐候

右ハロングラー¹島ニ於テ漂流人ノ經歷始末

如斯ニ御坐候由ロングラー¹島ヨリウー¹ヤ

エ島ヘ渡来候モノ、談話ニ御坐候

ラエ島ニ於テ日本人遺書之実跡

該件ハラエ島ノ酋長¹ト申ス者同島ノ土

民ニ固ク口外スルヲ禁シ候由ニ誰モ明言仕

ラズ頗ル実跡ヲ得ルニ便リ無之候ニ付空シク

時日ヲ移シ居候處折節¹ウー¹ヤエニ於テ¹エ

島ヨリ来リ候婦人リキジャツクト申ス者ニ面會

仕リ同人ハ畧英語ニ通ジ居候折柄衣類煙草等

ヲ與ヘ餒々古ノ始末ヲ尋問候處時日ハ慥ニ相

分リ難ク候ヘトモ今ヲ去ル数月前或日一橋ニ

一帆ヲ揚ケタル異形ノ船舶ラエ島ニ来リ衆組

人ハ言語ハ更ラニ通セズ候ヘトモ頗ル飢渴困

難ノ様子ニテ土人ヲ見ハヨリ頻リニ食物ヲ請

求候有様ナルヲ見受ケ候ニ付土民ハ飲食ナド

ヲ給與致サント存シ居候處ヘ酋長¹ラリ¹来リ

之ヲ止メ自ラ土人数人ヲ引連レ彼ノ船舶ニ到
リ之ヲ謀島ノ内何レノ無人島ニカ誘ヒ行キ其
島中ニ於テ衆組人六名ヲ牛刀ヲ以テ屠殺シ酒
樽衣服船ノ帆樯等ヲカノ一船ニ積ミ翌日歸宅
致シ候故ニ如何シテ漂流人ヲ殺セシヤ又其船
ヲ如何セシヤハ更ラニ分ラズ候ヘドモ多分牛
刀ニテ殺セシ事ト存セラレ候ト申出候時ニ机
上ニ日本形ノ剪刀有之候處之レヲ見テ該剪刀
ト同ニ形ノ剪刀ヲラリレハ所持セリ則チ屠殺
セラレシ漂流人ノ所持セシ品ニテアリシト申
ツ、座右ノ團扇ヲ取り其表面ニアル日本船ノ
図ヲ見テ嘗テラエ島ニ於テ殺害セラレシ漂流
人ノ衆リ来リシ船ハ則チ該図ノ船ト能ク類似

シ居リシト申候ニ付其團扇ノ図ヲ該書ヘ相添
ヘ上申ニ供シ候
又同婦人ノ話ニラリレハ近頃日本ヨリ官吏ガ
該群島ヘ参リ居ラレル由ヲ聞キ込ミシヨリ先
頃殺害セシ漂流人ヨリ奪ヒ取りシ物品ヤ又同
船舶ニ付屬シ有リシ諸品ヲ集メ自身ニ之レヲ
カノ一船ニ積ミ何レノ方ナルカ人ニ知レザル
無人島ノ内ニ持テ行匿シ候由故ニ先日迄ハ彼
ノ船ノ帆樯錨其外彼ノ船ニ屬セル物品等ハ該
島海岸ニ有レガ今ハ樽及衣服ノ切レ迄モ更ラ
ニラエ島ニ於テハ見当ラヌ由話有之候ヲゲヤ
島ニ於テ苗長ローアイクト申者ノ住居ヘ罷越候
節ラエ島人持来リ候品トテ柳行李一個有之候

ヲ見受本邦ノ品ニ相違無之候間若シヤ所持人
ノ姓名等記載有之候ヤ否ト心付手ニ取り内外
共相改ノ候處何ノ印モナリ名称等モ書キ記ル
シ無之候ニ付其終ニ致置キ候ヘトモ多分同船乗
組人ノ所持品ナルベクト存ゼラレ候

ラエ島ノ婦人ニ尋子シニラリレガ漂民ヲ殺セ
シ塲處及船舶ヲ如何セシヤ等ハ知ラヌト答有
之候ニ付此ノ一段ヲ猶探リ居リ候處終ニ相分
カラガリシカ同島ヲ測量セシ節同島ノ出生ニ
シテ當時「ウウチヤエ島ノ酋長トナリ居ル」ジボ
ジヤト申者ヲ引連レ候處同人ノ話ニハ日本船
乗組人ヲ殺シ其船ヲ燒キシハ同島港灣外(則同
島形勢ノ部ニ付添ヘ有之候圖面ニ朱點付アル

處ニ於テ「エ島土人ヨリ確ト聞キ取候
旨申出候ニ付茲ニ記載仕候也

右之話ニ依リ候ハ島長「ラリレハ全ク本邦ノ
漂民ヲ港外ヘ誘ヒ出シ洋中ニ於テ屠殺シ其船
舶ニ放火セシモノト察セラレ候

右ノ件々ヲ以テ推察仕候ハ「ラエ島土番ノ殺
害セシモノハ全ク本邦ノ漂流人ニ相違無之儀
ニ候間此段上申仕候也

神戶出生ニシテ當時「ヤリ」ト島ニ寄留年
廿七八歳ニシテ福月毒三郎ト申ス者
右ハ「ラエ島於テ日本人殺害ノ始末ヲ逐一承
知仕居候由今聞エ「ジボ」乗組水夫ヘ申出候
旨承リ及候ニ付此段合セテ上申仕候也

ラエ島ニ於テ日本人遭害ノ事件ニ関シ
島主其責ニ任シ相當處分ヲナスヲ得ル

歟云

右件ニ付島主ニ面談仕候處島主ノ申出候ニハ
拙者ハ該群島ノ島主故該群島土番ノ儀ニ付テ
ハ何事モ拙者其責ニ任シ其罪人ヲ自身處分ス
ルノ權有之候仍テ此度「ラエ島」ニ於テ貴國ノ漂
民ヲ殺害セシ件ハ豫テ風聞モ有之候ヨリ其事
跡ヲ取糺シ候段ヲ心掛居候處生憎拙者所持ノ
船舶ヲ先頃「ジャリコ」ト島ニ於テ破碎セシヨリ
船舶ニ差支ヘ夫レガ為メ「エーダ号」ノ来港マデ
其終ニ致シ置候然ルニ今般エーダ号来港候ニ
付キ便ヲ借リ「ラエ島」ヘ罷越其罪ヲ取糺シ罪人

ヲ處置仕ル積ニテ前日カークヤエ島ハ罷越候
砌リカノ一船二艘ヲ遣り先ツラエ島ノ罪人ヲ
取調ベサセ候處

右ハ同島々酋長ヲリレト申ス者及外四名ナル
由判然候ニ付キ拙者ハデ一氏(船長ノ名)ト商用
ノ為ノ該群島ノ中五六島ヲ巡回致シ候后十二
月十日頃迄ニ必ズラエ島ニ到リラリシ始外四
名ノ者ヲウーチヤエ島ハ連シ来リ此ノ五人ヲ
斬首致スヘク候ニ付其節ハ何卒貴官兩人ハ貴
國ハ對シ拙者ガ彼ノ罪人ヲ斬首セシメテ証ス
ル為ノ御立合被下度相願候且又其處分ヲ果シ
候上ニテ拙者自身カ或ハ拙者ノ代理者カヲ以
テ貴國ハ渡行シ右漂民ヲ保護セサルノ罪ヲ謝

スベク候ニ付是亦タ貴官兩君ノ轉達ヲ請フニ
トス此儀ハ拙者ハデ一氏ト該群島ヲ巡回セシ
后必ス果スベク候ニ付夫マデハ貴官該群島ノ
地形港湾等御取調べ成サレツ、御待有之度トノ申
出ニ付キ島主足下ノ意ヲ以テ處分セラレシ者
ヲ余輩兩人ニテ我政府ニ對シ之レヲ証シ且ツ足
下ノ代理人ヲシテ謝罪ノ為ノ我國ニ渡來セハ
ヲ余輩我政府ニ轉達スルノ兩件ノ御依頼ハ敢
テ辭セサル所ニ有之候由返答致シ置候處十二
月廿三日ニ至リエー夕号ハウーチヤエハ入港
致シ候然ルニ島主ヨリ拙者今般シヤリュート島
ニ於テ突病致シ航海ニ耐ヘズ仍ニ先頃御談示
仕候ラエ島處分ノ儀ヲ果タヌヲ得ズ保レ右罪

人ハ拙者手元へ捕置候ニ付追テ貴政府ノ命令
有之次第處分可仕候トノ事船長ハ「デー」氏ヲ以
テ傳言有之候ニ付其旨承リ置候然ルニ其時ハ
十二月廿三日ニ候ヘハ最早エーダ号便船借受
條約期限ハ已ニ經過候折柄ハ「デー」氏ハ是レヨ
リ直ニ日本ヲ指シテ出帆致スベキ旨申出候ニ
付其終該島ヲ引拂飯朝仕候故ニ「エ」島ニ於テ
日本人殺害ノ事件ニ関シテハ島主其責ニ任ジ
相当處分ヲ為スヲ得ルノ返答ハ確ト取置候儀
ニ付此段上申仕候也

但該群島ハ文字無之候ニ依リ右返答ヲ書
面ニテ取置候事ハ相成兼候
又「エ」島ノ罪人ハ當時島主ノ膝下ニ呼寄

セ有之候旨ハ確ニ承リ及候

マルシヤル群島、方向箇數及距離
同島ノ氣候并ニ晴雨ノ多少
同島地質ノ厚薄并ニ草木ノ種類

タ
群
島

マルシャル郡島ノ方向箇數及距離

該郡島ハ土人自稱シラカナカト云フ澳斯大刺
利亞ノ東北亞米利加ノ西方大平洋ニ在リ

其位置ハ赤道以北四度ニ起リ十五度ニ尽ク東
經百六十一度ニ起リ百七十三度ニ且ル其島數
三十二諸島アリ

其本島ヲ「アエリングラ」ト云ニ島アリ「ナ
ヤ」島ト云ヒ「ナ」島ト稱ス「ツ」島ハ則目
下島主之レニ住スルヲ以テ之レヲ本島ト定メ
各島ノ距離ヲ説明ス

本島ノ北方ハ百四十二英里ニ「キ」島アリ「リ
エ」島ノ北方ハ十五英里ニ「ウ」島アリ「ツ」

ノ島ノ北二十ニ英里ニ「^レ」ガール島アリ、又北ス
ル百六十餘英里ニ「^レ」カスバシリコ島アリ
本島ノ東北ニ「^ハ」百二十英里ニ「^レ」テ「^レ」エリコツブ島
アリ、又北スル「^ハ」五英里ニ「^レ」テ「^レ」ウヲツジ「^レ」島ア
リ夫ヨリ斜ニ西北々ニ當リ二十五英里ニ「^ハ」ジ
エ「^レ」モ島アリ又東スル十餘英里ニ「^レ」テ「^レ」アイルッ
ク島アリ其東方五十英里ニ「^レ」テ「^レ」マ「^レ」ジ「^レ」ット島ア
リ
本島ノ東北東ハ百四十英里ヲ隔テ「^ハ」マロングラ
「^レ」ブ島及「^ハ」アウル島アリ
本島ノ東方ハ百三十英里餘ニ「^レ」テ「^レ」マ「^レ」ジ「^レ」エロ島ア
リ「^ハ」マ「^レ」ジ「^レ」エロヨリ東十英里ニ「^レ」テ「^レ」アルノ島アリ
本島ノ東南東ハ百八十英里餘ニ「^レ」テ「^レ」ミ「^レ」ユ「^レ」レー島

アリ
本島ノ東南南ハ八十英里ニ「^レ」ジャリ「^レ」コ「^レ」ト島アリ
百英里ニ「^レ」キ「^レ」リ島アリ
本島ノ南方百英里ニ「^レ」テ「^レ」ナ「^レ」モ「^レ」リ「^レ」ツ「^レ」ク島アリ夫ヨ
リ南スル六十五英里ニ「^レ」テ「^レ」エ「^レ」ボ「^レ」ン島アリ
本島ノ西南南、西南西、及西方ハ水天渺漫島嶼ヲ
見ズ
本島ノ西北西百四十英里ニ當テ「^レ」エン「^レ」ル「^レ」リー「^レ」ブ島
アリ又西北西スル七十英里ニ「^レ」テ「^レ」ラ「^レ」エ島アリ
「^ハ」ラ「^レ」エノ西北西十七英里ニ「^ハ」ウ「^レ」ー「^レ」ジャ「^レ」エ島アリ夫ヨ
リ西スル遙カニ二百八十英里ニ「^レ」テ「^レ」ウ「^レ」ー「^レ」ダ「^レ」ラ
「^レ」ン島アリ
本島ノ西北北二十餘英里ニ「^レ」テ「^レ」ナ「^レ」ー「^レ」モ島アリ

夫ヨリ斜ニ西スル四十英里ニシテ「ワジレン」
島アリ又々西北スル七十英里餘ニシテ「ウタッド」
島アリ「ウタッド」ヨリ東北スル百英里餘ニシテ「ロン」
グリック島アリ八十英里ニシテ「ロングラーブ」島ア
リ六十五英里ニシテ「アイリギナー」島アリア
イリドナー「エ」ノ東北五十英里ニシテ「ビギニー」島ア
リ「ビギニー」ヨリ遙ニ西スル百七十英里ニシテ
「エニベトック」島アリ
大小合ヒテ其數三十二之ヲ總称シテ「マルシャル」
群島ト云フ土人ハ自ラ「カナカ」ト称シ「マルシャル」
名アルヲ知ラサル者多シ

同島ノ氣候并ニ晴雨ノ多少

氣候ハ冬季大概百度ヨリ九十四五度夏季ハ百
五六度ヨリ十度以上ニ至ルト云故ヲ以テ氣候
ニ四時ナク草木ニ凋零ナレ旧枝ハ實ヲ結ンデ
累々珠ヲ垂レ新條ハ花ヲ開テ鄒郁香ヲ散ス幽
翠陰森暮春ノ如ク孟夏ノ如ク眺望絶佳ナリ
該島ハ日トシテ驟雨ヲ起サバハハナレ雨到ル
毎トニ多クハ雷鳴ス其度數少クモ一晝夜ニ一
二度多キハ五六度ニ到ル其降雨ノ時間ハ大
概四五十分間ヨリ久シキハ二時間或ハ三時間ニ
到ル其来ルハ海天雲墨ノ如ク狂風怒號ニ沛雨
盆ヲ傾ク猛濤暴吼ニ迅雷夷々掣電閃爍ス島嶼

モ將サニ没セントスルガ如シ一時人ノ肝膽ヲ
奪フ其收ルニ及テヤ彩虹天ニ中シ漲海琉璃ノ
如リ喬柳長蘿零露滴々清涼滿禁其爽快ナル
秋雨ノ初テ晴ル、ガ如シ涼味忘ル、能ワズ所
謂スリオルト称スル者則是ナリ該群島海中ハ每
子ニ是ノ事アルガ為メニ航海頗ル陰ナリ舟往
々破碎沈溺スル常ニ之レガ為メナリト云フ其
他更ニ霖雨梅天等ノヲアルヲナシ故ニ本邦ノ
雨量ヲ以テ該群島ノ雨量ニ比スレバ稍本邦ノ
七分ニ在ベシ

同島地質ノ厚薄草木ノ種類

該群島ノ地質海濱ハ砂礫極メテ多シ然レモ草
木能ク暢茂ス其深林ニ入レハ隨分膏厚其土ハ
細滑ニシテ黒黄多ク礫ヲ雜ユ能ク草木ヲ長ス
ト雖モ最上ノ土質ト云フヲ得ズ各島皆同じ去
レドモ肥厚非常ナルガ故ニ樹木深密盤根相連
ラナリ露草蒼々左右ヨリ小徑ヲ蔽フ靴跡カニ
之レニ觸レバ則茎折レテ玉露滴々人ノ裳ヲ濡
ラス其草ハ千種數フ可カラガレモ大概本邦ノ
暖地ナル伊豆駿河ナドノ田圃ニ生スル雜草等
ヲ見ル甚タ多シ就中葛ハ其葉其花ハ大ニ本
邦ノモノニ異ナレモ其根ハ肥大ニシテ粉ハ本

外
新嘉坡
省

邦ノ品ト異ナラス只ガ土人之レヲ製スル甚ク
鹿ナルガ故ニ其色甚ク潔白ナラズ然レモ其味
ハ甘温ニシテ頗ル口腹ニ適ス

樹木ハ則椰櫚 大薯 バンガナ グニナツト 土人ノ

ウー グド ギジバル ナドニシテ 四時森々老枝ハ

鬱々新條ハ蒼々玄冬十二月翠陰孟夏ノ如シ至

ル處皆ナ然リ若シ開墾播種ノ業ヲ起サバ葛麻

小麦甘蔗蕎麥ノ類収益ヲ得ルニ至ルハ疑ヲ

容ルベカラス然レモ島内甚ク廣カラズ且ツ樹

木ヲ減ズレバ海風吹拂フノ懼レアルベシ故ニ

十分ノ益アルヤ否ハ知ル可ラズ只雜草雜木ノ

生長ハ甚ク速クナリ今日艾シテ明朝ハ萌蘗

寸ニ迫レ故ニ牛羊ヲ牧スルハ大益アルニ至ル

ヲ得バシ現ニ處々土民ノ住セザル島嶼ニ於テ
ハ豚ノ野猪ノ如ク生活スルモノアリ 肥大壺ノ
如シ之レヲ以テ証スルニ足レリ

今ヲ數百種ノ草木ノ内々土人ノ有用トシ且ツ
用財ニ適スルモノ數種ヲ圖シ其質ト使用トノ
畧ヲ掲クル左ノ如シ

外

新

行

同島ニ生スル草木ノ内土人ニ有用ナル者

一 椰櫚

土人ハニイ、ト称ス 其老ナルヲ、ツイニ、ト称ス

該報告書物産ノ部中ニ其要ヲ掲クルヲ以テ又茲ニ贅言セ

ズ

一 バンダナ 土人ハ之レヲボツポト称ス

前同様

一 大薯

土人ハ之レヲメ、ト称ス

前同様

一 ウー 樹

土人ノ名称以下皆ハ土人ノ名称ヲ用ユ

土人家屋ヲ作ルニ用ユ 其質堅カラザレハ能ク折斷セズ

外面腐敗スルヲアルモ中心ハ依然旧ノ如シト云フ
一カバール樹

質折レ易スレ然レモ生長甚ク早クシテ薪木
等ニ宜シ土人亦家屋ヲ建設スルノ用材トナス

一グド樹

質堅粘ニシテ重キヲ荷テ折レズ家屋ノ用材ト
ナリ又タ「カノ」船ノ浮木ヲ釣スルノ鈎木ニ用ユ

一ニン樹

質粘勁凡テ捧類ニ用ユ其實ハ食フベシ然レモ
風味少シ土人ハ饑饉ノ糧ト為スト云フ

一グンナツト樹

質ハ粘堅能ク腐敗枯焦セズ土人百般ノ用材
トナス花ハ土人連テ環冠ヲ作ル其香清涼ナ
リ

一キジバル樹

質ハ縦ニ裂ケ易ク横ニ折レガタシ楫棹等多
ク之ヲ用エ又タ帆樯ト為スベシ

一アルノ樹

樹ハ薪ト為スベシ其皮ハ鈎絲トナスベシ極
テ丈夫ニシテ断切スルヲナシ

一アダー草

土人皮ヲ以テ麻ノ如クニ製シ蓑ヲ作り絲ヲ製ス

一 ジョン樹

実ヲ水ニ浸シ物ヲ染ムルニ用ユ紅ト黒トヲ染ルヲ得

一 フモツク草

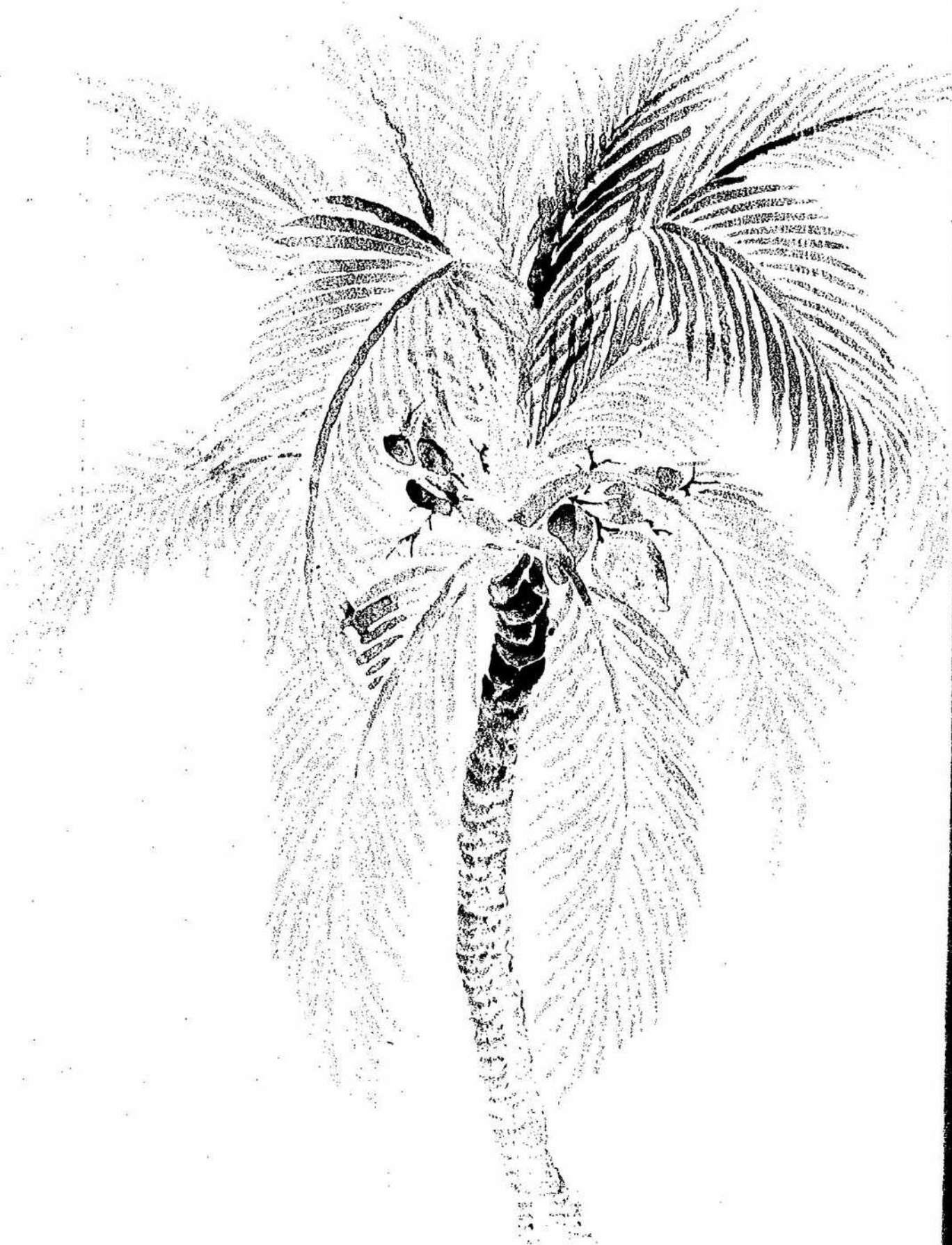
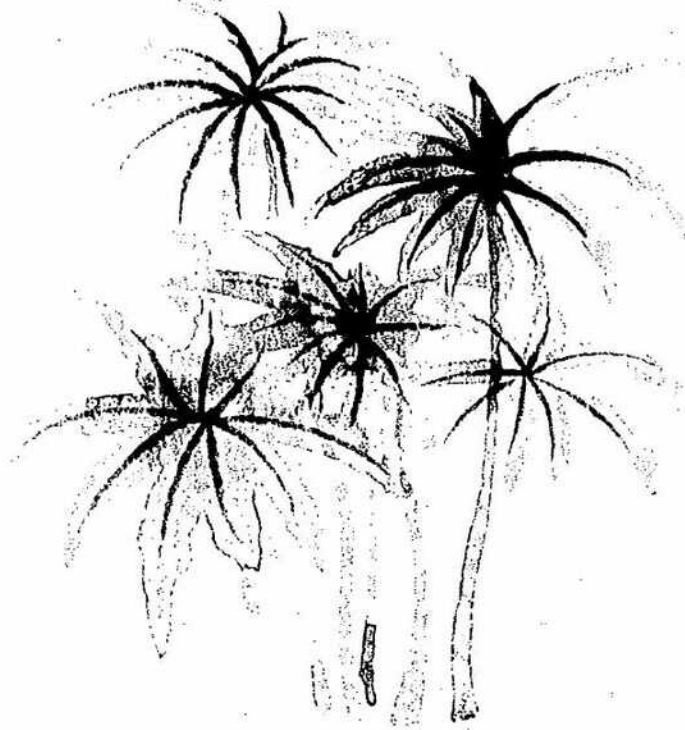
則葛ヲ製スルモノ也其要ハ報告書中物産ノ部ニ詳ナリ故畧ス

一 イヤライ草 水中ニ生ス

根ヲ食用トス味ハ芋ノ如シ各島池沼中在ラザル所ナシ

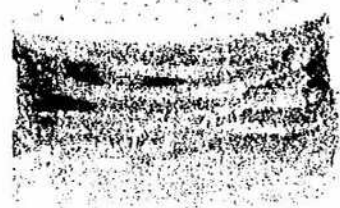
一 グナボック樹

樹ハ柱類ニ用ユ実ハ食フベシ味甘クシテアケビ(木通ノ)ニ似タリ

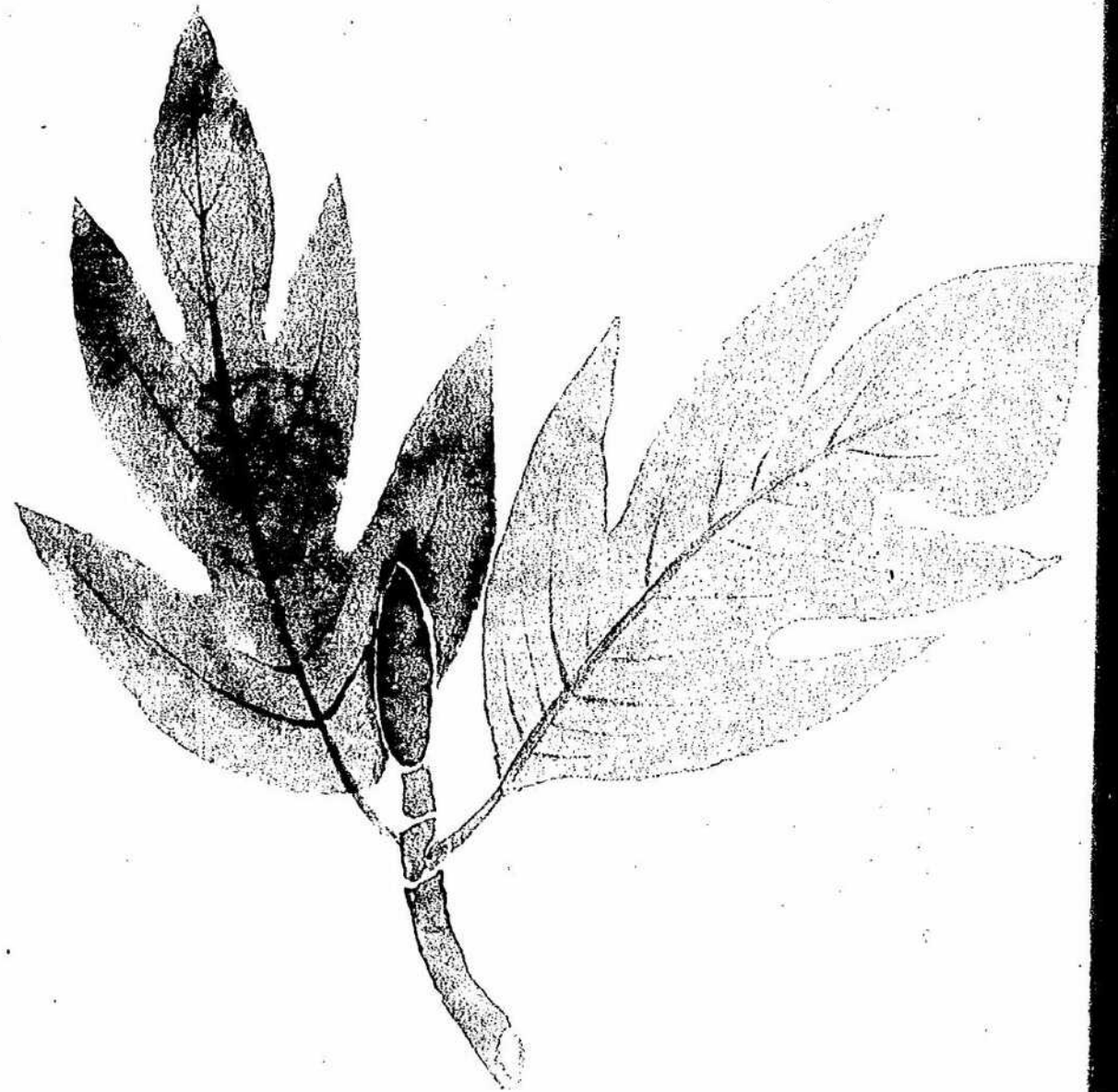
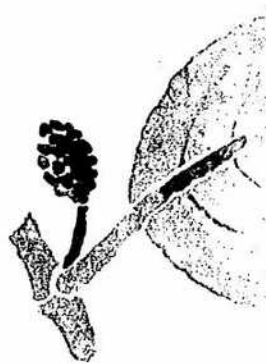
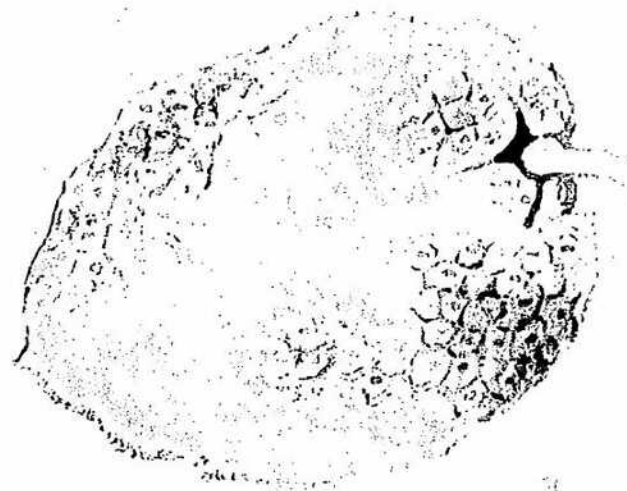
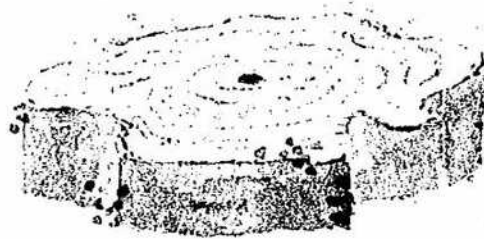




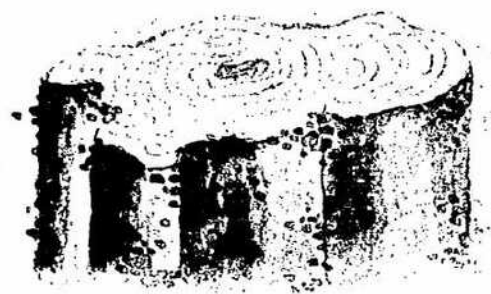
図ノアツボ



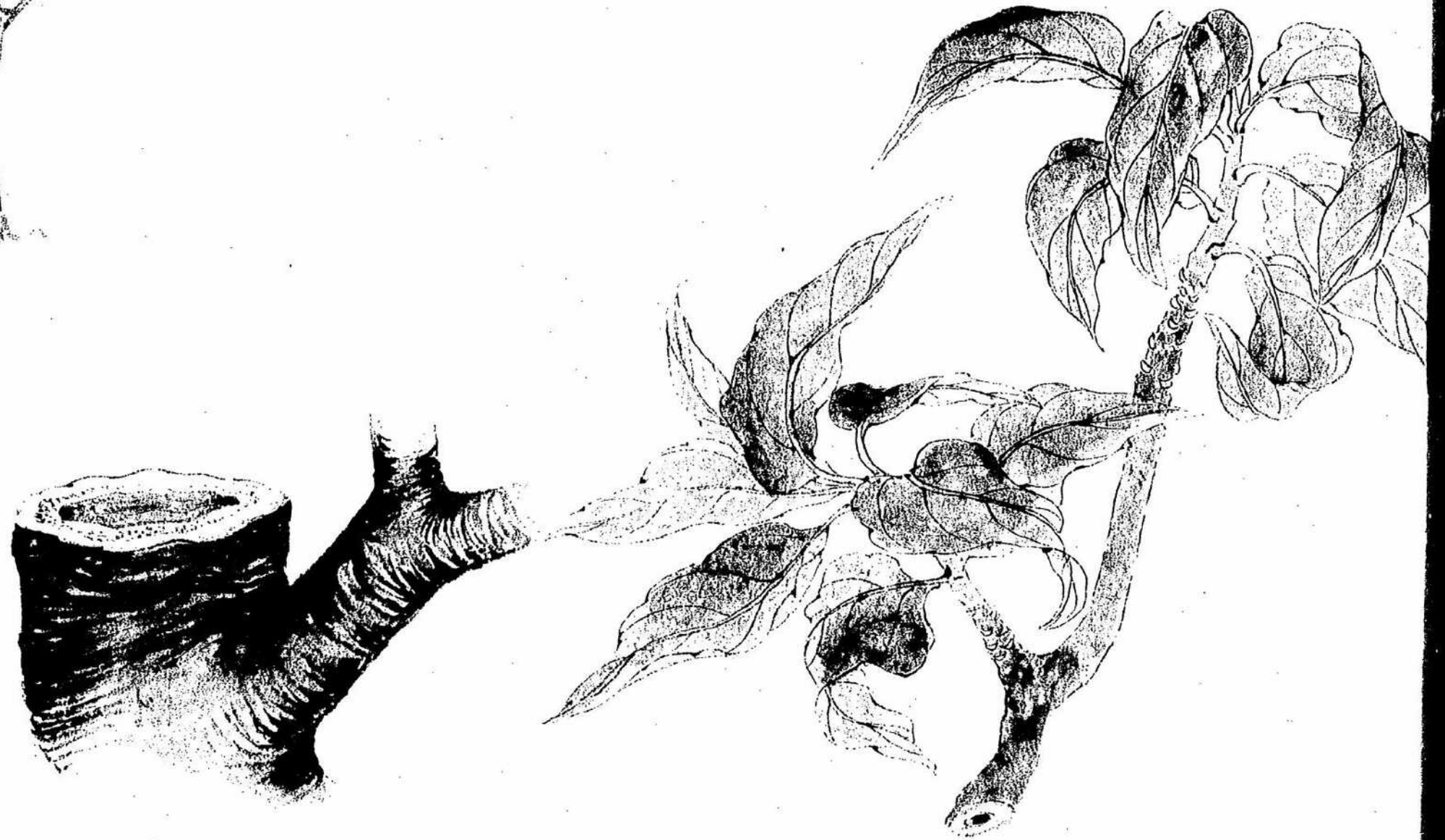
大薯ノ図



図、樹ウウ



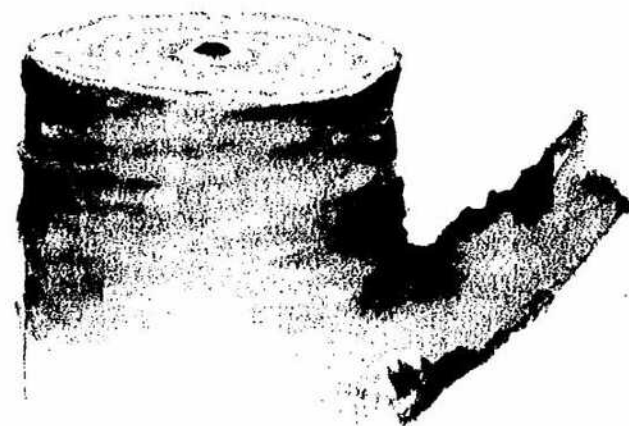
カボアノ樹ノ図



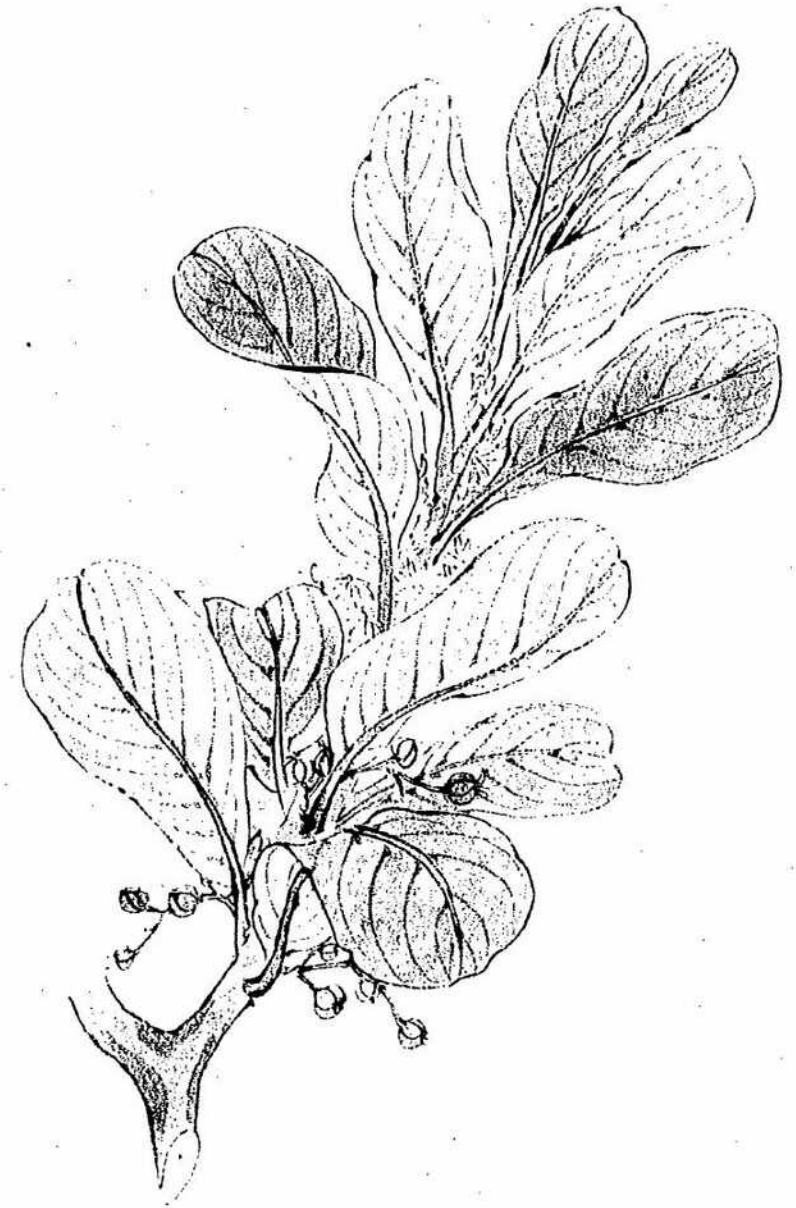
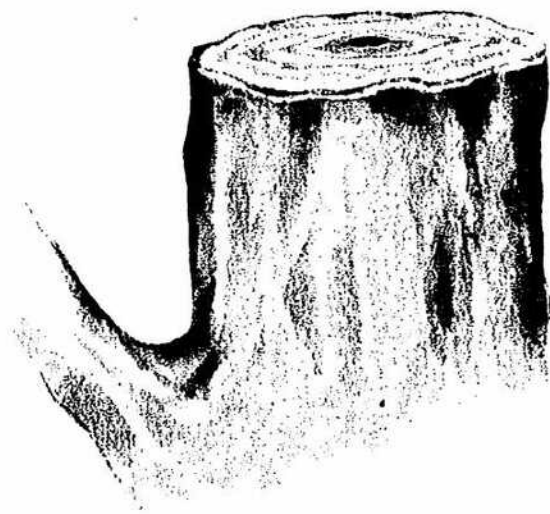
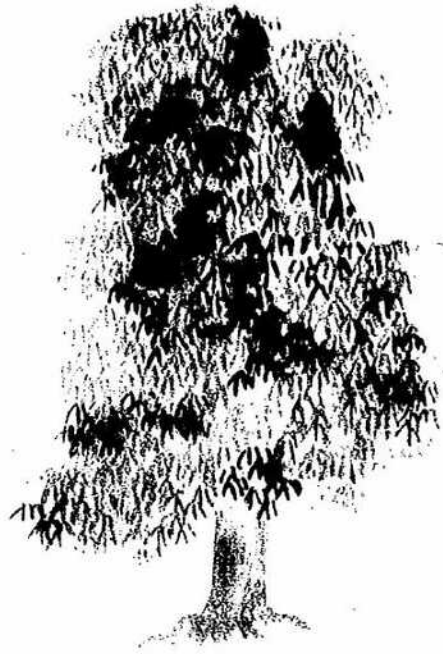
グドノ樹之図



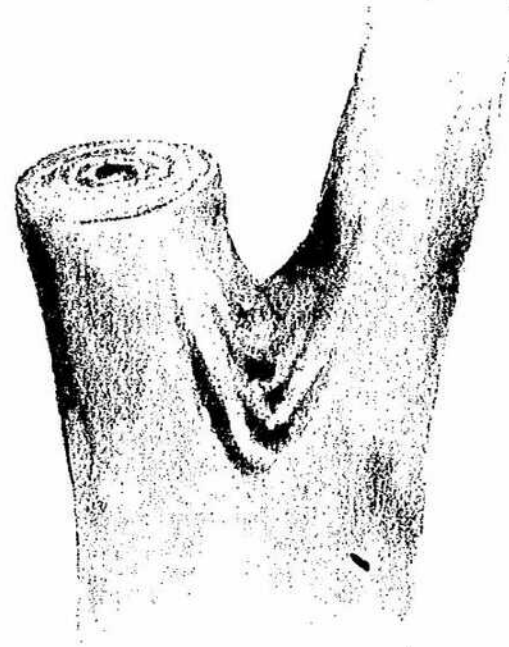
二ノ樹ノ図



図ノ樹トツナング



図ノ樹ルバジキ



ア
ダ
ー
草



ア
ル
ノ
樹



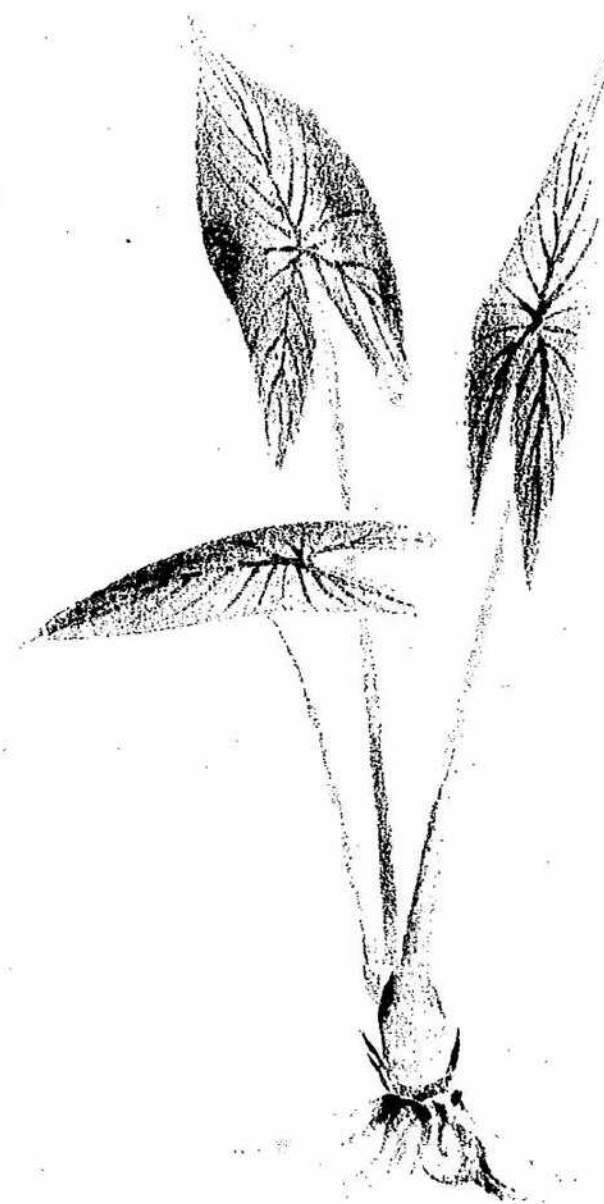
ジョニ
樹



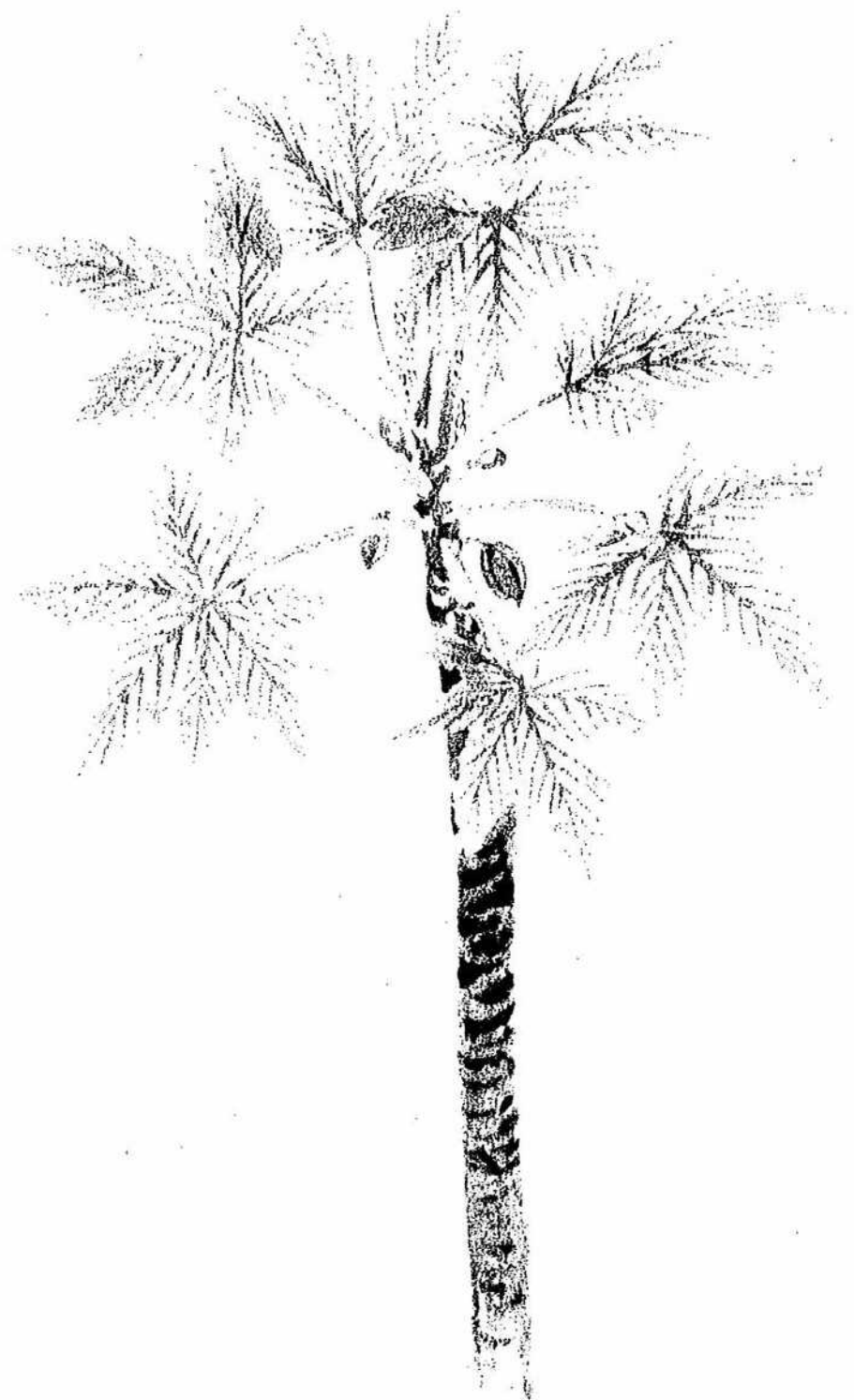
マフモツク
草



イヤライ草
根ヲケルニトモフ



ゲナボツク
樹



マルシヤル群島物産、種類及多寡
 同島歐米其他各國ト、關係
 同島貿易之實況出外國物船出入ノ概數及輸
 島主ト谷島酋長ト、關係并ニ島主權限

同嶋物産ノ種類及多寡
現今該島ニ産スル者ハ

一 椰櫚

一 大薯

一 芭蕉實

一 葛

一 パンゲナ

一 海鼠

一 蝦珠

一 松魚

一 鮫鱈

一 海龜

一 鶏

一 豚

一 帽子

一 席

向來産物トナルベキ見込ミアル者ハ

一 塩

一 雜穀(小麦 蕎麦 類)

一 砂糖

一 鯉節

其他乾魚類

一牛 羊

椰櫚ハ土民ノ最要トスルモノニシテ需用之物
件多クハ之レニ取ル其實ノ未ダ熟セザルモノ
ハ其核内ニ一合以上ニ合許ノ甘水ヲ満盈ス是
則土民最一ノ飲料トス味頗美能ク渴ヲ療ス其
實ノ已ニ熟スルモノハ土人一般ノ食料ニシテ
吾ガ米麦ト其用コ同フス其穀ハ則薪ト為スベ
シ其木ハ家屋船舶ノ用材ニシテ其葉ハ以テ席
ニ作ルベシ以テ帆ヲ織ルベシ屋ヲ葺キ籃ヲ編
ミ其他竿ニ代エル等皆ナ之レニ取ル其毛皮ハ
綸ニ作り紙トナス（本邦ノシユロナワ
ノ如シ） 百般ノ事物是ノ
木ニ依ラザルハナレ而シテコブラ（椰櫚ノ油）ハ該

群島輸出品ノ第一ナリ土人椰櫚ヲ用エル斯ノ
如クナレバ僅ヲ用ヒ尽ス能ハズレテ空シク腐
滅ニ属スルモノナリ九ニ居レリ之レニ依テ之
レヲ見レバ椰櫚ハ物産ノ最一多量ニ在ル知ル
ベシ且ツ椰櫚ハ四時断ルナク旧實下モニ熟
スレバ其上ハ新實果々ナリ

土人ハ頗ル無知懶惰ニシテコブラヲ製ス
ルニ其報ヲ見ザレハ敢テ製造ニ着手セズ
已デニエーガ船長ノ如キ前期航海ノ節今
般ノ航海迄ニ成ルベキタケコブラヲ製造
シ置リ可キ由約定シ置キ今回着島ノ島長
等ニ面會ノ上コブラノ製造高問ハバ未ダ
着手セズト答テ依テ金銀貨其他交換ノ物件

ヲ示レ交換品ニコブラヲ以テスルニ於テ
ハ望ミニ任セテ該品ヲ取ラスル由ヲ告ガ
レバ初テ致タトレテ製造ニ着手ス右之次
第故目今年ノ輸出高ヲ問ヘバ實ニ僅少
ナリト雖氏椰橋ノ落テ腐敗スルモノ十ノ
九ニ居レルヲ以テ若土民勉勵シテ之レヲ
取テバ海鼠其他ノ物産ヲ除キ只椰橋ノミニ
テモ一歳ニ各島各ヲ一万弗以上ノ利潤
ヲ得ルヤ一目シテ亮然タリトエーガ号船
長ノ見込也

一パンガナハ其用椰橋ニ次ク其實食フベシ其業
ハ細裂シテ帽ニ作ル其木ハ家屋ヲ建設スルニ
用エ其枯葉ヲ聚メテ寢席ヲ作柔軟ニシテ用エベシ

一大薯其木ハクノ一船ノ船底舳艫等ニ用エ其實
ハ土人ノ食料ニシテ椰橋ニ次グモノナリ

一芭蕉実椰橋ノ肉ニ和シ菓子バシノ如キモノヲ
製ス土人旅行ノ糧トナス味ヒ甘クシテ喰フベ
シ能ク久レキニ堪ヘ故テ腐敗セズ

一葛谷島ノ民多ク糧食ニ用エ其製ヲ精ニスレハ
本邦ノ品位ニ劣ラザルベシ

一海鼠ハ目今支那へ輸出スレモ其品最上ニ居ル
ヤ否ヤハ知レ難シ然レモエーガ号船長土人ニ
教ヘテ多ク之レヲ取ラシムルモノハ支那ニ輸
入レテ利ヲ見ルナルベシ然レモ之ヲ産スル未
タ其概量ヲ知ル能ワズ

一蝦珠ハエーガ号ノ乗組人ノ内一人該島ノ海中

蛭珠貝ノ夥多アルヲ見テ之ヲ採ルニ貝中蛭珠
ヲ抱スル者アリ其質最上ニ居ルヤ否ハ知ラザ
氏其品多キヲ以テ產物ト爲スニ足レリ
一較ハ較簪ヲ取り支那へ輸入品トス該群島海中
該魚頗ル多シ

一松魚ハ多ク各島ノ港外ニ居ル土人甚々不器用
ナル釣器ヲ製シ之ヲ以テ釣スル一時間ニ二
十本ノ餘ヲ釣り得ルト云其他飛魚ハ暗夜ニ漁
火ヲ設ケテ漁スルハ二時間ニ二百尾ノ餘ヲ
得ルト云フ

一海亀ハビゲール島ジエーム島ニ多シ人若シ夜
來海濱ニ露宿スレバ亀ノ群來スル爲メ眠ルヲ
得ズト云該亀ニ漁スルハ其膏油ヲ得ルガ爲

メナリト云フ

一魚分類ハ各島ノ湾外ニ頗ル多シ十種萬類具サ
ニ状スル能ワズ

一帽席類ハ土人ノ需用ニシテ餘ナレ然レ氏命ジ
製セシムレバ多少ノ輸出品ノ班末ニ加フルヲ
得ベシ

一鶏豚共ニ能ク繁殖ス前日住民アレ氏今時無人
島トナリシ島嶼ハ豚野猪ノ如ク鶏野雉ノ如シ
銃脈シテ捕ルモ盡ク不能ワズ

右者該島ノ產ナレ氏土人懶惰ニシテ收メザル
ヲ以テ其概筭ヲ舉ルヲ得ズ然レ氏土人ノ需用
セシ餘ノ推積シテ腐敗シ魚介ノ如キハ用ヒテ
尽メガルヲ見シハ随分多量ニ居ルモノト云フ

モ誤認ニ非ルベシ

又々往々談群島ヲ関キ新ニ産物ヲ収メントス
レバ第一塩濱ヲ作レバ其益必ズ空レケラハル
ベシ何トナレバ該島ハ熱帯ニ位スルヲ以テ海
水ハ鹹味非常也薪ハ雜木ヲ切テ用ユベシ談島
ハ四時常ニ雜木新葉ヲ生スルガ故ニ新ハ用ト
テ尽キザルヘシ濱海之地隨處ニ砂場アリ以テ
以テ製塩場ト為スニ足レリ

一乾臭輕節類ハ勉勵シテ之レヲ製セバ其益カナ
カラザルベシ

一島ノ内地深林ニ到レバ地質膏潤墾スレバ草
麦甘蔗蕎麦之類播種シテ必ズ其益ヲ見ルベシ
只土地狭ナルガ故ニ風害多クシテ為ニ損

作ヲ来スアルヲ恐ル也

一牛羊ハ草木ノ繁茂スル極テ早ク萌蘖ノ生長ス
ル多キヲ見レバ隨分多ク牧スルヲ得ベシ

同島歐米其他各國トノ關係

歐洲ト談島トノ關係ハ未タ確乎ナル事ヲ見ズ
亦タ更ラニ條約等ニ結ビレテ有ラレル由島主
ヨリ聞ケリ但シ數年前島中曆月ナシ故ニ其年月詳クニセズ談島
ノ人民歐洲ヨリ来リレスクナ形船ノ衆組數十
人ヲ屠殺シ其船ヲ燒キレテ有リ特ニ英ノ軍艦
来リ炮撃セシニ談島ノ土人ハ島主始メ深林ニ
逃ケ隠レ全島人ナキガ如クニセリ時ニ英兵上
陸シテ民家ヲ燒キ尽シ去レリト云フ其後亦タ
同伴ヲ爲シ獨逸ノ軍艦来リレテ有リレ由其事
極テ曖昧ニシテ分明ナラズ
又何故ニ依テタ獨逸國何レノ印王ヨリカーツ

ノ勲章ヲ諒島ノ主ニ與ヘシテアリシト見ヘ島
主金ノノタールヲ所持セリ然レトモ勲記モナ
ク只タ勲章ヲ送リレ獨逸邦王ノ写真ト其メタ
ールトヲ愛藏シ日曜日等ニ當リ正服スレハ必
ズ右ノノタールヲ佩用シ居レリ
ジャリウト島ハ獨逸人支那人米人等勝手寄留
スルヲ許シ置ク由然レモ條約等有リヤ無キ
ヤ更ラニ分ラズ島主ハ固ヨリ條約ノ名モ知ラ
ズ吾輩島主ノ館ニ行キシ時島主金銀貨ヲ初メ
所持ノ物品ヲ悉皆出し示セリ然レモ約條書等
ノ如キモノ其他書類ハ更ラニ見ヘズ写真ハ四
五枚愛藏シ居レリ皆宣教師ノ写真ナル由
今回吾輩エリンガラーブラー島ヲ始メ各

島ニ滞在寄留スルハ島主ニ請メ特許ヲ得テ初
テ住スルヲ得タリ
只ジャリニート島ノミ外人ノ上陸滞在ヲ許シ
置キ他島ハ嚴ニ外人ヲ拒絕シ置ク由故ニジャ
リエート島ノ外ニ外人ハ滞在セルハ今回吾輩
ヲ以テ先始ト為スト云フ

尤モ先年米船ノ來テウーガヤエ島之灣
礁ニ乗り上ケ四十名許同島ニ上陸滞在
セシヲ有リレ由併是シラハ破船ノ為メ
強ヒテ上陸シ島ノ一部ヲ奪了セシト同
様之滞留ヲ為セリ故ニ土人ト互ヒニ相
防守ヲ為シ彼是互ニ心ヲ置カス常ニ備
ヘテ作シ居リレ由

談群島ノ風ハ外國人ヲ火鬼ト稱シ見レハ必ズ
殺害ヲ加フル取極ナルヲ以テ外國人ノ談島ニ
死スルモノ其數數フ可クラス土人所有品ノ内
大概ハ漂人ノ物ヲ強奪セシ品ヲ土人ノ造シ
ル船舶ハ多クハ外國船ノ櫓或ハ金具等ヲ用ヒ
有之故ニ頗ル危険ナルヲ以テ外國人ハ宣教師
ニ至ルマテ談群島ニ滞留シテ月ヲ超ルモノ更
ニ無之由

今回吾輩上陸ノ事モ島主ヨリ各島酋長等ニ嚴
命アルニ依リ平安ニ滞在シ此目的ヲ達スルヲ
得タリ然レモ猶ハ盜ニ逢ヒ或ハ内海ノ小島ヲ
巡回スルニ當リ折々危険ヲ覺ユルヲ有リヤ
右ノ始末故外國ニ關係シ事ハ更ニ無之様ニ

見ユ王ニ問ハハ各國ト約條其他盟約等ヲ作セ
レ國ハ更ニ無之旨答ヘ有シ

但譬ハ何島ニ産スルニテハ獨逸商船ニ何
年間賣付スルトク或ハエーク船長ニ何島ノコ
アラテ何年間賣渡ストク云フ契約ヲ為セシ事
ハ四五年來間ニ有之由外更ニ條約等ノ事有
ルヲ無キ由

又目今ジャリエート島ニ在ル獨逸領事ハ本國
政府ノ命ニ依リ一ツノ倉庫ヲ同島ニ造テ、軍
艦ノ爲ニ石炭ヲ貯ヘ置ケリ併シ是ハ當ニ獨
逸軍艦ノ爲ノミト云フニモ非ス他國ノ運艦
ト雖モ談島ニ至リ石炭ヲ買フニト欲スレハ
則之レヲ賣渡ス由

同島貿易之實況

外國船舶出入ノ概數及
輸出入物品及其概數

群島中貿易ノ地ハ、ジャリト島ヲ以テ其最ニ
為ス而シテ他島ハ貿易ヲ為シタルノ地ト定ム
故ニ土民製作スル所ノモノアレバ皆之レヲジ
ヤリト島ニ送致レヌ土民需用ノ物件銃砲
彈藥具外衣服飲食ノ類皆同島ヨリ買ヒ來ルヲ
以テ常トス而シテ目下當群島ヨリ輸出スルモ
ノハコブラ乾海鼠鯨鱈ノ三種ニ過キス然レモ
コブラノミ輸出品ノ客ヲ有シ乾海鼠鯨鱈等ハ
實ニ僅少ニシテ有ルモ無キニ似タリ其他帽席
等ヲ輸出スルモ皆然リ故ニ該群島ノ輸出品ノ
名アルモノハ目下獨リコブラニ止ル

輸入之物品ハ 酒煙草布類衣類小刀類武器
硝子器 陶器 総テ日用ノ物件皆輸入シテ土人ノ
取ラザルハナシ 然レモ 酒類煙草布類 絲針
小刀類等ハ土人ノ最モ好ム所ニシテ輸入高極
テ多シ 而武器ハ之レニ次グ通貨ハ面モニ墨銀
ヲ用エレモ土人ハ一弗以下ノ價額ヲ知ラザル
ヲ以テ貨幣ニテ物品ヲ買賣スルハ高價驚々
バシ 今マ其一二ヲ挙ゲンニ 下等ノブランチニ
純具價三弗更紗類ハニヤールヨリ四十ールヲ
以テ一弗ノ價アリ 長酒四本其價三弗煙草ハ下
等ノ品ニテ一斤一弗ヨリ以下ノ品アラズ 彈藥
ハ四ストルノ彈丸ハ七發軍銃ノ彈藥ハ五發ヲ
以テ一弗ニ代フブリツキ製ノ湯沸クレ一個一

弗下等ノ皿ニ枚一弗 本以ノ軍銃七連發ノモノ
五十弗一發 本以ノ馬上銃一丁十五弗 茶椀三個
一弗
石ノ如ク金銀貨ヲ以テ物件ヲ買フハ極テ高
價ナルガ故ニ土人モ亦タコブラヲ賣ルニ金銀
貨ヲ以テ買フント云バ又極テ高價ヲ取ル之レ
ニ依ラ 獨逸國ノ高松及ヒエーガ号等皆物品ヲ
輸入シテコブラト交換ス 然ルモニハ元價二十
弗許ノ物品ヲ以テ百弗餘ノコブラヲ買フヲ得
ルナリ 故ニ内地ニ於テハ百般ノ取引キ皆ナ
金錢用ユレバ甚ダ高價ニ當ルヲ以テ何レモ外
國人ハ物品ヲ貯ヘ置キ土人ノ賣品ト交換シ去
ルト云ハリ

コブラハ 歌群島ニ於テ日今定價ハ一噸ニ付キ
三十弗許ニシテ之レヲ歐洲へ輸送スレハ一噸
ニ付十八磅ヨリ二十磅ニ至ル由

其外ノ產物ハ木々其價額ヲ知ルニ至ラス

外國船舶ノ出入ノ數ハ獨逸ノスクナ形船ニ艘年
間各ヲノ三次入港スエーダ号ハ今回ヨリ往復
ヲ初メシ由

ジャリユート島ハ香港及歐洲ヨリ年間數次往
復船アリト云フ然レモ其次數ト船舶ノ種類等
土人愚痴ニシテ明言セス併シ何レモコブラヲ
運輸スル為ノナル由

物產ノ概數ハジャリユート島ヲ除クハ全島中
ニ入港シテ交易スル船舶ハ則獨逸ノスクナ形

船ニ艘一歳ニ各三次入港スルノミナリ其船体
ヲ土人ニ同フニエーダ号ヨリ稍ミ小ナリト云
フ今マ假リニエーダ号ノ積量百トンナルヲス
テ彼ノ獨逸船ヲ各百噸ノモノト見做レ歌群島
ノコブラノ輸出ヲ量ルニ六百噸ヲ出デススタ
茲ニエーダ号ノ年間三次ノ入港ヲ加ハ合算セバ
九百噸或ハ千噸ニ過キリルヘシ而レテジャ
リユート島ノコブラ輸出高ヲ知ルヲ得スト雖
モ思考スルニ他ノ島嶼ヨリ同島ハコブラヲ運
送スルト云フハホカ開カズ縱令偶々運送ス
ルモノアルモ歌群島中ニハ外來ノ船舶ノ外ハ
船舶ト稱スベキ程ノ船ナケレバ土民ノ造レル
カノ一船ヲ以テ運送スルニ過キス然ルモハカ

ノ一船ナルモノハ極メテ積量ナキ船舶ナレバ
数十斤ヲ積ムニ過キス故ニ是ラハ敢テ他島ノ
輸出高ニ影況ヲ及サ、ルヤ亮ナリ然レバジャ
リエート島ヨリ輸出スルコブラハ別同島ヨリ
産スルモノ、ミト見做ストモ決シテ誤認ニ非
ハルベシ同島ハ人口三千ニシテ其島嶼ノ廣ハ
該群島中ノ第一ナレバ椰樹モ亦タ他島ヨリ
多シ加之外國人之レニ寄留シ頻リニコブラ製
造ノ事ヲ勸奨セルヲ以テ其産出高モ亦タ他島
ノ比類ニ非ス然レバ各島ニ産出スルコブラノ
割合ニ依テ之レヲ推察スルニマクハ三千噸ヲ
出スニ過ガルベシ今輸入ノ概數ヲ奉ケレニ該
島ノ輸出品ト称スベキモノハ只コブラ一品

ナレバ輸入品ハ万般ノ物件ナレバ獨逸船ノ来
テコブラヲ買フ者ハ若シ金銀貨ヲ以テ其價ヲ
拂フキハ前述ノ如ク其高價ニ當ルヲ以テ總テ
日用百般ノ雜品ヲ以テ交換ス故ニジャリユー
ト島ヲ除ヒテ美スルニ全島コブラ輸出ノ額ハ
大概千噸ニ下ガラザルヘシ之レヲ目今ノ相場
則チ一噸三十弗ノ割合ヲ以テ美スルニ年間ノ
輸出コブラノ代金三万弗ナリ故ニ輸出ノ物品
價額モ亦タ三万弗ナルベシ然ルニ前陳ノ如ク
物品ノ格ハ頗ブル高格ニ居ルヲ以テ該島ニ於
ケル價額ハ三万弗ナレバ其ノ元價ヲ問ハハ一
萬五千弗ヲ出デサルモノナリ又コジャリユー
ト島ニ輸入セル物品ハ他島ハ渡来スルコト甚ダ

少ナレ大低同島土人ノ需用ニ尽リ故ニ偶々他
島ヨリ金銀貨ヲ得タル者有テカノ一ニ搭シ同
島ニ到リ雜品ヲ搦求スルモ各自所製ノ物品ヲ
賣リ捌クノ序デナルガ爲ナルヲ以テ具買入レ
来ル物品ハ僅少ノモノニ過キズ故ニジャリ
ト島ハ輸出入トモ同島ノミニ止マルモノナリ
然ラハジャリエート島ノ輸出ノコブラヲ以テ
三千噸ト定ルレハ則同島ハ輸入品ノ金額ハ九
万弗ヲ出ラズ

右ノ概算ヲ以テ相當ト認メ全島ノ輸出入ヲ概
算スルニ輸出品ハコブラノ一品ニシテ一歳ニ
四千噸此價額十二万弗輸入品ハ日用ノ雜品ニ
シテ一歳ノ額十二万弗ニ過キガルヘシ而シテ

其輸出入ノ平均ノ如何ハ土民皆ノ空ニ渡生ス
ルヲ以テ島主ト雖之ヲ知ラズ右ハ成ルベキ
丈確實ヲ知ラント欲レ精々探索レテ漸ク斯概
算ヲ得

ジヤリエーと島ニ於テハ外商ハ土民ヨリ買取
 ルコブラノ代價ハ一斤ニ付一銭ニシテ米咽桑
 港ニ於テハ十五磅ナリ而シテ該島ヨリ桑港迄
 ノ運賃ハ一噸ニ付四十二志ナリ歐洲ニ於テハ
 一噸ニ付当今ノ價十八磅ヨリ二十磅ニシテ該
 島ヨリ獨逸迄ノ運賃ハ一噸ニ付九十五志ナリ
 而シテコブラノ産出ハジヤリコート及エホンノ
 ニ島ニテ土人当今ノ如ク懶惰ニシ居ルモ一ケ
 月ニ平均六十弗ヲ賣出セリ右ノ二島ノ産出賣
 出シ島ヲ以テ考美スルニ全島ノ土民少レク勉
 強シテ會社等ヲ設立シ之ヲ製スルニ於テハ
 方今ノ安價ニテモ一年ニ全島ヨリ百萬弗ノコ
 ヲ賣出スハ容易ナラン

又該群島ヨリ各國へ、船便ハサモツ島、米回來
港、獨逸、英國、ノ四ヶ處ナリ而シテコブラ、右四
國ハ運送スル船舶ハ年間平均七八艘ナリ又軍
艦ノ来ルハ極テ稀ニシテ年間只一次獨逸ヨ
リ来ルノミナリ是レハ「ジャリコ」ト島ニ在ル獨
逸領事ノ為ナリト云フ右ノ件ニハ該群島中ニ
ボン島ヨリ同船レシ英國商人ニシテ同島ニ一ヶ
年程滞在罷在候ベシト申ス者ヨリ聞取リ
候處實地慥ナル説ニ候間本志ニ添上申仕候也

島主ト各島酋長トノ關係并其権限

島主ノ各島酋長ニ於ル恰モ家主ノ奴隸ニ於ケ
ルガ如シ進退廢取只島主一個ノ意ヨリ出ヅ一
タモ島主之レヲ口外セバ全島ノ人ニテ議スル
ヲ得ヌ加之各酋長ノ所有品ハ尽ク島主ノ所有
品ニ屬ス故ニ島主各島ヲ巡回スルニ當リ一島
ニ滞在セバ則酋長其家ヲ以テ主ノ館トナシ其
家具及衣服米菓ニ至ル迄一ツモ持シ去ルヲ得
ス悉ク島主之レヲ自有レテ或ハ人ニ與ヘ或ハ
自用レ或ハ他島ハ携ヘ去ルモ只島主ノ意ノ終
ナリ島主其島ヲ發レテ石々初テ又タ其物件島
酋長ノ有ニ歸ス故ニ其権限ハ實ニ無限ト云モ

可ナリ

島主一島ニ到リ一婦女ヲ見テ之レヲ喜ベハ良
人ノ有無ニ拘ラズ直ニ之レヲ献セシム然レ島
主ノ命ナレハ生命ヲ害スルニ至ルト雖氏諱ス
ルヲ得ス

今則コブラヲ制スルニ当リ全島ノ民ニ椰椿ヲ
取ルヲ禁ス氏禁ヲ守テ私ニ敢テ一箇ヲ採ル
ヲ作サズ其命ヲ嚴守スル所ノ如シ氏禁ヲ犯ス
ハ王自カラ之ヲ縛シ之レヲ罰スト雖氏固ヨ
リ定律ナレ其罰ハ銃殺縊斬等鞭具時機ニ從フ
島主ノ滞在スル島嶼ニ於テハ土民各ノ物件ヲ
製造スル極ニ勉ム並ニ怠惰ノ責ヲ勉レントス
ルナリ成レバ則チ直ニ之レヲ島主ノ家ニ收ム

故ニ民各自日用ノ衣食ノ外一物モ自家ニ貯ハ
置ク一能ハズ而レテ全島ノ人民各自製スル所
ノ物件ヲ携テ来テ島主ニ献スルノヨリ故
ニ全島ノ土民ハ皆ナ島主ノ奴隸ト云フモ溢言
ニ非ス

土氏ニ一物ヲ指シテ是レ則チ汝ノ所有カト問
ハハ島主ノ所有ト答ヘ敢テ自己ノ所有ト云フ
ヲ得スト云フ
但島主滞在セガルキハ民各物件ヲ賣買交換ス
ル然レ自己ノ所有ノ如クスルヲ得ル由

マルシヤ群島港湾地形及其位置

同島港灣地形及其位置

該群島ハ數年前マニハ外國人ヲ近ツケテ偶
漂流シテ着島スル者アレハ其人ヲ屠殺シ其物
ヲ奪掠ス故ヨリ外船ノ該島ニ往來スルヒノ
ナク外人ノ該島ニ來テ無恙歸國セシ者モ亦之
レアラズ之レガ為ニ島中ノ蠻風依然トシテ
旧時ニ異ナルナシ文字ナク史記ナク年月ナク
時刻ナク耕作スルヲ知ラズ饑テ木實ヲ喰ヒ
渴シテ水ヲ飲ム衣服以テ身ヲ蔽ハズ蓬頭洗足
原野ニ露宿シ日下ニ偃卧ス父子兄妹通シテ夫
婦ノ如クス混沌無知實ニ禽獸ト異ナルナシ商
客險ヲ犯シテ茲ニ航スルモ其利ヲ見ル能ハス
地理家危キヲ凌ヒテ來テ地形ヲ測ルモ用ルト

コロナキヲ以テ未タ島圖、見ルヘキモノナシ
偶々有リト雖只ク黒點ヲ紙面ニ點綴スルニ過
キカレバ有レバ其實用ニ適セズ今般命ヲ奉シ
テ該島ニ至リ地形、港湾及其位置ヲ実察スルニ
当リ海峡、島嶼ヲ跋渉シ、臺烟瘴氣ノ中ニ露宿シ
海濱ニ添フテ湾形ノ屈曲ヲ寫シ、度数ニ考ヘテ
島嶼ノ大小ヲ測リ、經緯ニ依テ各島ノ位置ヲ職
リ專ラ拮据勉勵シテ以テ聊ク圖樣ヲ成スト、虽
經緯ヲ度ルニ時刻ニ誤リ、位置ヲ察スルニ里数
ニ失スル等ノミナキヲ保スル能ハズ然レモ幸
ニ該群島ハ港湾地形最視察シ易キヲ以テ惟ル
ニ大ニナル誤リナキ近カ、ラニ依テ其大旨
ヲ記シテ本誌ニ相添上申仕候也

御用掛

後藤猛太郎

御用掛

鈴木經勲

外務卿伯爵井上馨殿

同島港灣地形圖凡例

一該群島ハ洋面ニ點綴スルヲ以テ近キモ十餘
里遠キハ二三百里ノ懸隔有之候ハ全島ノ港
灣地形ヲ精密ニ取り調べ候ハ縦令夜々汲
ヲトシテ之ニ從事スルモ一二年ノ時日ヲ
得ルニ非レバ恐ラクハ全島ヲ調ヘ尽ス能ワ
ザルヲ何トナレハ甲島ヨリ乙島ニ轉スル
スラ近キモ一昼夜其遠キニ到テハ四五日ヨ
リ数十日ノ航海ヲ要ス而シテ一島ニ達スル
ヲ得ルト雖モ其島モ亦タ数十箇ノ小嶼ヲ合
マテ一島ノ形勢ヲ成スモノナレバ之ヲ取
リ調ルニ亦タ数十日ヲ要ス然レバ今般該群
島ニ滞在スル總カニ三ヶ月餘ニ過キザレハ

則全島ノ半バヲモ視察スルニ違アラズ故ニ
得ル所ノ時日ヲ以テ微力ノ及ブ所ヲ尽シ其
内最大ニシテ良港湾ヲ有スル島嶼ニ三ヲ選
ビ實視シテ其地形ト港湾ヲ因シ得ルト雖氏
尚ヲ時日ノ足ラサルヲ以テ細クタル小嶼迄
ヲ實視スルニ違アラズ依テ各島中ニ於テ其
大ニシテ土民ノ住居セルモノ及無人島ナレ
ビ住民スルニ足レルモノヲ因シ其餘ノ點石
ノ如キ小嶼ニ至テハ其形狀位置ヲ詳ニ知ル
ニ至ラザルヲ以テ之レヲ図面ニ載スルヲ得
ス依テ最小ナル島嶼ハ圖中ニ搭載仕ラズ候
一該圖ハ群島十九萬四千四百分ノ一ノ割
合ヲ以テ製圖仕候故ハ持越候諸器械等一樣

ナラズ分度鏡及ビコロモノートルノ如クハ
何レモ英製ノ品ナレハ示ス所ノ度数里數皆
十英制ニ依ラザルヲ得ズ然ルニ用意仕候製
圖用紙ハ佛製ノ品ニシテメートルノ度ヲ盛
リ候モノナルヲ以テ則測量器ト符合仕ラズ
依テ止ムヲ得ズ一センチメートル(我曲尺三厘)
以テ一海里(我千〇三)ノ割合ニ充テ製圖仕
候ニ付一海里ヲ以テ佛ノ尺度一センチメー
トル(我曲尺三厘)之割合ニ充テ候ハ則十九
萬四千四百分ノ一ニ相当候ニ依リ古ノ
割合ヲ尺度ニ製シ圖題ノ下ニ記載致置候
一該圖ハ一海里ニ付曲尺三分三厘ノ割
一色ハ見分セシ島嶼

一 色ハ見分セズ遠見セシ島嶼

一 色ハ減潮ニ顯ワレ満潮ニ没スルノ處

該群島ハ海岸通りハ遠浅ニシテ減潮ノ

時ハ一英里ヨリ二英里程ハ陸地ノ如ク

相成候場處之レアリ候故ニ國中只水色

ノミヲ用ユレバ其様子相分リ難ク候ニ

付キ該色ヲ添ヘテ之レヲ分テ候也

一 線ハ航路ノ印

一 ハ水底ニ礁アルノ處トシテ船舶ノ通行

ヲ防ケサルモノ

一 ハ暗礁

右ノ通各島ノ港湾地形實地見分ノ上製圖仕リ

此段合セテ上申仕候也

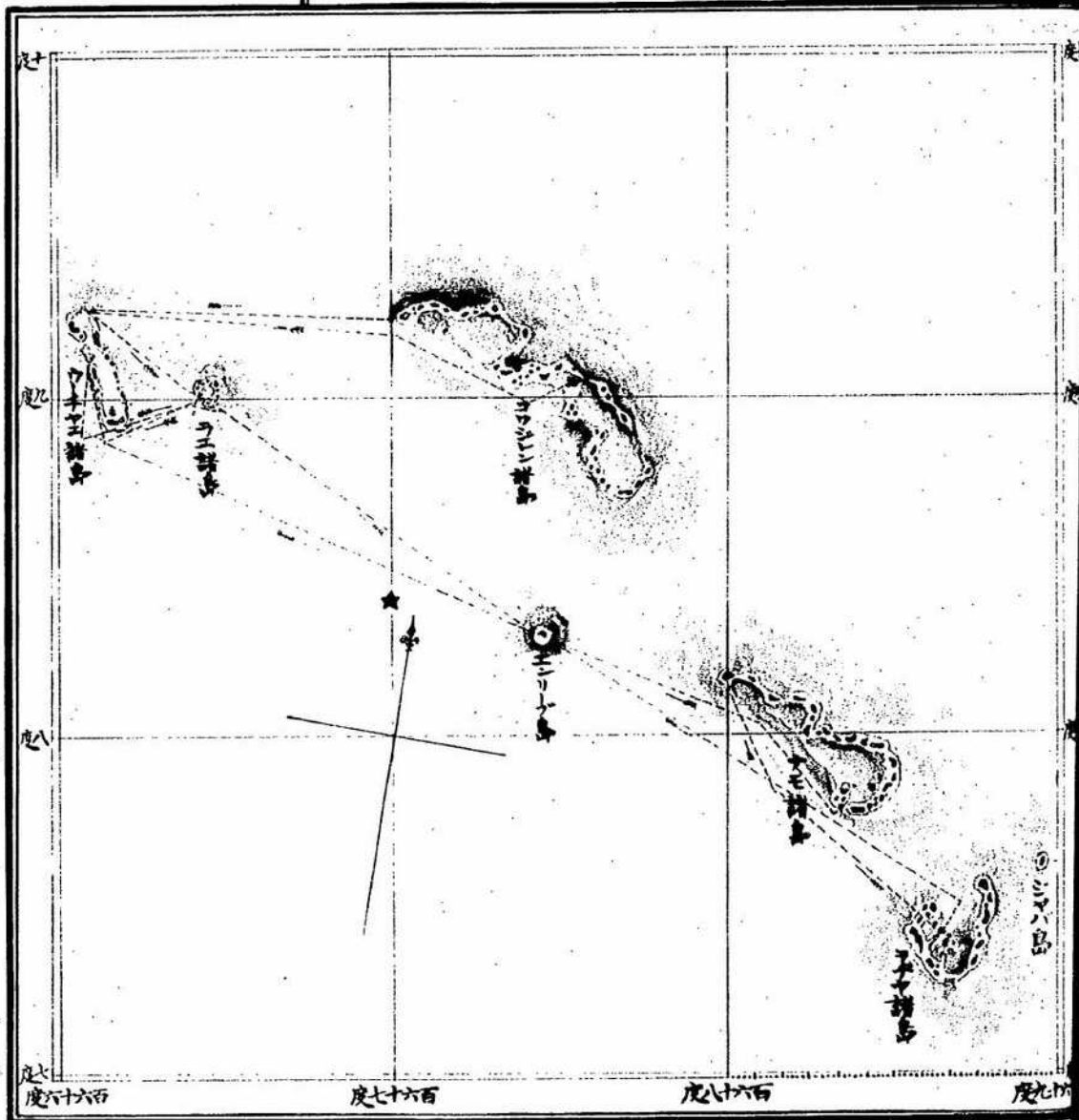
御用掛

後藤猛太郎

御用掛

鈴木經勲

マルシャル
群島
實地見
分島
嶼位置
並航路
ノ圖



ウーヂャエ諸島

北緯八度五十四分餘
東經百六十六度一分餘
起り九度十五分
至ル幅負九三英里

該島ハ北緯八度五十四分餘ニ起り九度十五分
ニ盡ク東經百六十六度一分餘ニ起り東南ニ向
キ斜ニ百六十六度十二分ニ至ル幅負九三英里
ヨリ五英里ニ出入レ地勢西北ヨリ斜ニ東南ニ
赴キ其長サ二十一英里ニ至リ全島ノ形ハ恰モ
拳ヲ成シタル腕ノ如シ

此島北ハ四十英里ニ至リヲツド島アリ

東北ハ百三十英里ニ至リロングラーブ島アリ百四
十英里ニロングリック島アリ

東方ハ五十五英里ニコワジレ島アリ十七英里
ニラエ島アリ

東南東ハ九十英里ニシテ
東南々及南方ハ大洋ニ面ス

西南ハ二百八十英里ニコザイツク島アリ
該島ハ
群島ノ族ニアラズ

西方ハ二百八十五英里ニウーラン島アリ

西北ハ二百六十英里ニエニベドック島アリ

此島全島合セテ其數十島アレバ大ニシテ土
人ノ住居スルニ適スルモノハ只三個ノミ餘ハ
皆海上ニ點綴スル恰基子ノ如ク土民ハ之ヲニ
住セズ皆檳林相連リ黄実累累翠陰島嶼ヲ蔽フ
皆島民收穫ノ場トナス然レ氏椰櫚大薯等ハ島
民採リ尽ス能ワズテ空シク地ニ落テ腐敗ス
ルモノ十ノ八九ニ居レリ真ニ惜ムベシ

島内山嶺ナク皆平坦ニシテ其地絶ニ海面ヨリ
凸出スル凡七八尺遠ク之ヲ望メハ山脈ニ似
タレ氏皆樹梢ノ高聳ナルモノヲ看ルノミ故ニ
六七英里近ツクニ非レバ舟上ヨリ島嶼ヲ指點
スル能ワズ豈是レ該島ノミニ非ス各島皆然リ
島内河湖ナレ處々ニ小池アレ氏水中小魚ヲモ
見ズ皆水草繁茂ス其水ハ清澄ニシテ掬スベシ
海湾ハ磐礁連直ニ蛇蜿蜒繞テ海水ヲ抱ビテ湾
環ヲナス恰モ盆ニ水ヲ盛ルガ如シ其廣ハ横
ハ四五英里ヨリ一二英里ニ出入シ縦ハ二十英
里許ニシテ島嶼ハ其磐礁ノ脉絡ヲ追テ點綴ス
而シテ湾内ハ潮水格外ニ清ク其深キ處ハ四五
十尋浅キモ十五六尋其最深キ處ニ到テハ得テ

量ルベカラサルニ到ル其島嶼ニ接近セル處ハ
 海底一面盤礁ニシテ深サ七八尺ヨリ五六尺ニ
 到ル全湾港形ニシテ船舶隨處ニ碇泊スルヲ得
 水面鏡ノ如ク風来ルモ洪濤起ラズ數點ノ暗礁
 アレハ皆白色ナルヲ以テ所在ノ水先薄藍色ヲ
 異ニス天晴ル、時ハ遠望指點スベシ各島港湾
 中大概斯ノ如シ豈獨該島ノ湾中ノミニ非ス其
 湾外ハ大洋千里断テ暗礁ナシ
 当年一月二日米國ノ帆走船ラビヤ号大平洋中
 ニ於テ暗礁ニ觸レ破碎セシト云ヘルハ則該島
 ノ湾礁上ニ乘リ上ケシモノニシテ現ニ今日猶
 ヲ其船体ノ破レテ礁上ニ存セルアルヲ見ハ
 四島製節該島ノ破船登リ見分致シ候ニ付見
 國ヲ製節該島ノ破船登リ見分致シ候ニ付見

為ノノ参考ニ
 供シ候也

海門ハ三アレ氏甚ク狭ク且ツ浅クシテ大艦ノ
 出入ニ便ナラズ其最廣ナルモノモ幅一二町ニ
 至ラズ其深ハ十二三尋ヨリ十五六尋併船ヲ港
 口ニ泊シ島内ノ産物等ヲ積ムノ場合ニ到テハ
 不都合アラザル也

該諸島ニ属スル十三嶼ノ名稱左ノ如シ

- ウーチヤエ島 周囲七英里
- ロワ島 極テ小島ナリ見分セズ
- ナコハ島 周囲三英里餘
- アヌイ島 小島故見分セズ
- オーヂヤック島 全前
- ヘカネカル島 全前

ベッリ島

全前

エベジエ島

周圍六英里半

アイネラムイ島

周圍六英里

アレルレ島

小島故ニ見分セス

マヌムラエ島

全前

ホ島

周圍三英里半

バコエレ島

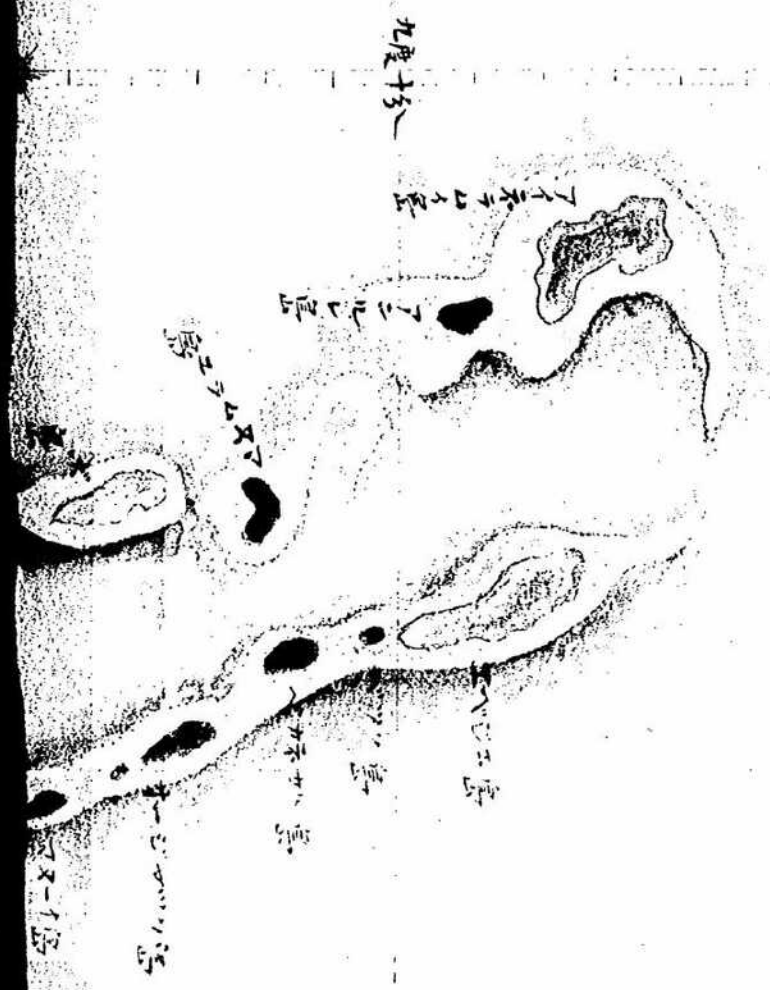
小島故ニ見分セス

其位置點綴セル形状及港湾ハ圖ノ如シ

無島トナセ

無島トナセ

マヤ工諸島之圖 十九年四月



エベジエ島

周圍六英里半

アイネラムイ島

周圍六英里

アンルレ島

小島故ニ見分セス

マヌムラエ島

全前

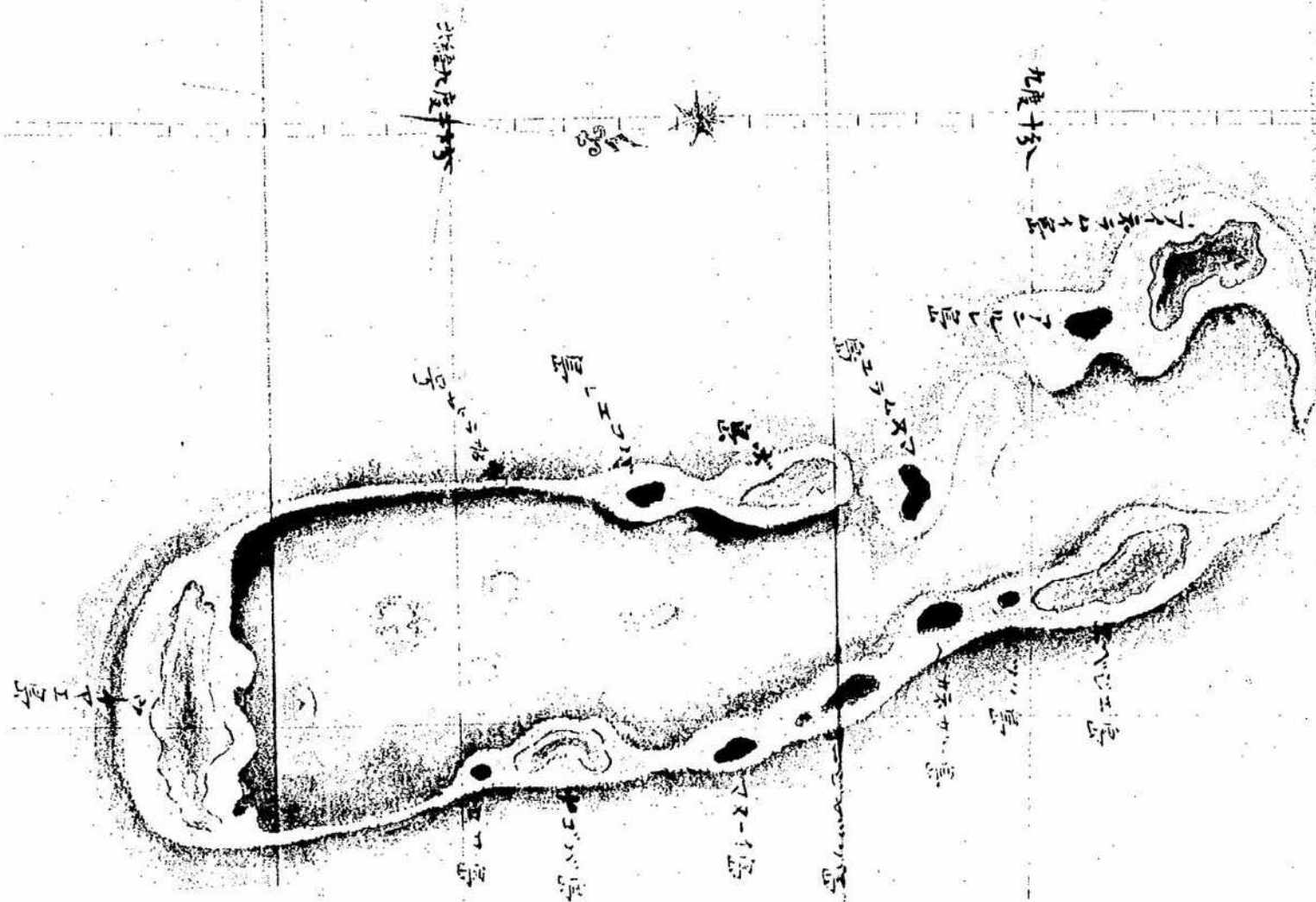
ホ島

周圍三英里半

バコエレ島

小島故ニ見分セス

エーナヤエ諸島之圖
十九、四十四分、一里、海
一
二
三
四
五
六
八
九
十

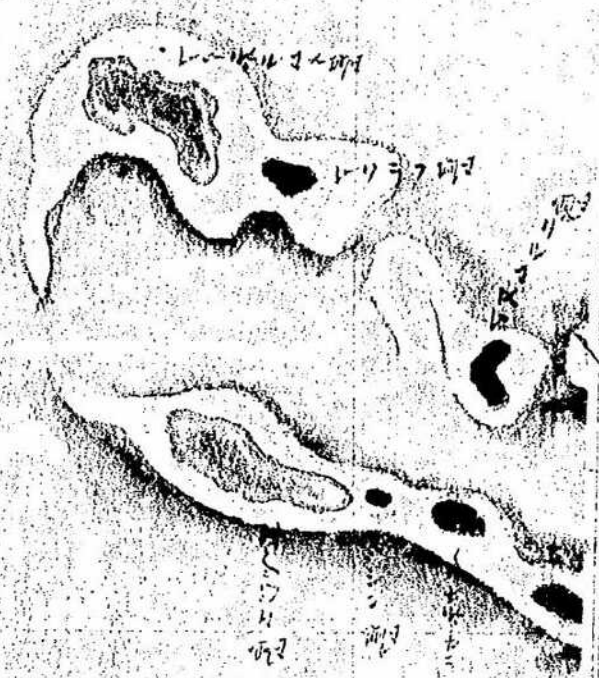


八度五十分

東洋の諸島 十ヶ所

東洋の諸島

東洋の諸島



コワジレン諸島

該島ハ北緯八度四十一分ニ起リ九度十八分ニ
 尽リ東經一百六十七度ニ起リ斜ニ東南ニ赴キ百
 六十七度四十七分ニ到ッテ盡リ地勢西北ヨリ
 東南ニ赴キ長サ五十五英里餘其幅二三英里ヨリ
 十二三英里ニ出沒シ全島ノ形ハ將ニ嘶カント
 セル馬頭ノ如シ

此島北百三十一英里ニシテロングリツク島アリ
 東北ハ百英里ニシテリキエブ島アリ
 東方ハ百三十五英里ニシテウヨツチ島及エリコ
 バ島アリ
 東南東ハ百八十英里ニシテマロングラード島アリ百

九十五英里ニシテ アハル島アリ 東南ハ二百十英里
ニシテ アビュロ島アリ
東南南ハ三十五英里ニシテ ナモ島アリ
南方ハ二十八英里ニシテ エンリーブ島アリ
西方ハ五十英里ニシテ ラエ島アリ 六十七英里ニシテ
ウーゲヤエ島アリ
西北ハ七十英里ニシテ ウヲッド島アリ
島内山嶺河湖ナク 地低坦ニシテ 終カニ海面ニ
凸出スル一丈ニ過キズ
海湾ハ 磐礁脈絡ヲ成シテ 海水ヲ包ミ 三大港ヲ
ナス 其一ハ長形ニシテ 横ハ四五英里ヨリ十英里ニ
出入シ 縦ハ二十英里ニシテ 港湾ノ中央ヨリ各島
嶼ヲ指點スル能ハス

其二ハ稍方形ニシテ 横ニ七英里 縦ニ八九英里 其三
ハ隋圓形ニシテ 横ニ二英里 縦ニ三英里 何レモ波平
ニ水深クシテ 大船巨舶自由ニ入港碇泊スルヲ
得ベシ 然レバ該島ハ 群島中最風力ノ 猛荒ナル
處ナルガ故ニ 島内ニ 秀樹稀レニ 舟行稍險ナリ
全島合セラ 大小六十島アリ 其名称左ノ如シ 小
島ノ中ニ 位置分明ナラズノ
島ニ 搭載セザルモ 多シ

コワジレン 周圍七英里

ヲルベツポ 小島ナルガ故ニ 見分セズ

エビジエリツク 小島見分セズ

エビジエ 周圍五英里

ジエルイク 小島見分セズ

ルイジエイエシ 全前

クギジアケイエ 全前

ビケイキ 周圍五英里餘

ミーク 周圍五英里半

ネムル 周圍六英里餘

エヌバドック 小島見分セズ

グジニゴール 全

カワガルン 全

ルーワ 周圍四英里

エ子リキリック 小島見分セズ

エニブン 全

ムリウ 全

エルロ 全

ヲヌーワト 全

ビクラン 全

ムレヌゲツキ 全

エジヤラツク 全

アルバーエ 周圍十六英里

ホカン 小島見分セズ

エニジヤブロツク 全

ガイゴ 全

メジヤット 全

リキリツク 全

子シナール 全

ジャボタツク 全

エニヤロ 全

エシナ 全

アウエ

全

ホツガ

極小島見分セズ

エバダン

周圍四英里

ビヤベツク

小島見分セズ

ギジリツケ

全

エレー

全

クウレル

全

エルウ

周圍四英里

ジヤカルー

小島見分セズ

エヌマー

周圍七英里

ビカンネル

小島見分セズ

ネル

周圍五英里

モルレ

周圍六英里半

エネロ

小島見分セズ

ホブレジマン

全

グルウイ

全

ラーホ

周圍四英里

ホママツク

周圍五英里

タルヤイ

小島見分セズ

かエ

全

ニニ

全

ベウク

全

ベカン

全

エネルラフガン

周圍三英里半

キーキー

小島見分セズ

ガルウイ

全

ウーシ

全

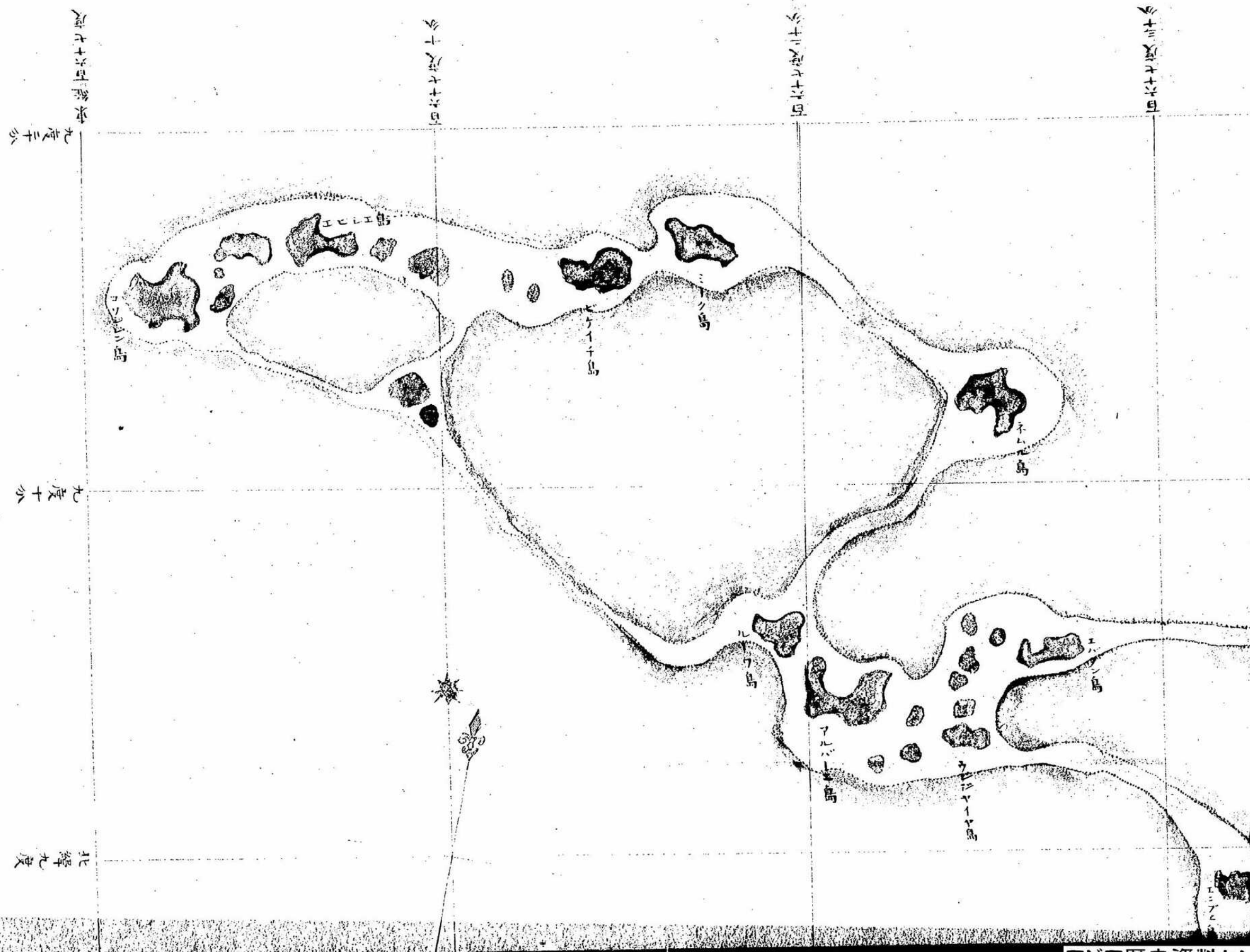
エニヴエ

周圍四英里

ウシジアイヤ

周圍三英里

其位置點綴セル形状及港湾形ハ圖ノ如シ



北緯九度

八度五十分

東經百六十七度

東經百六十七度

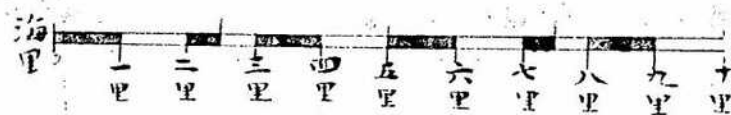
百六十七度十分

百六十七度廿分

百六十七度卅分

圖ノ島諸ニレジワコ

一八四四年四月九日

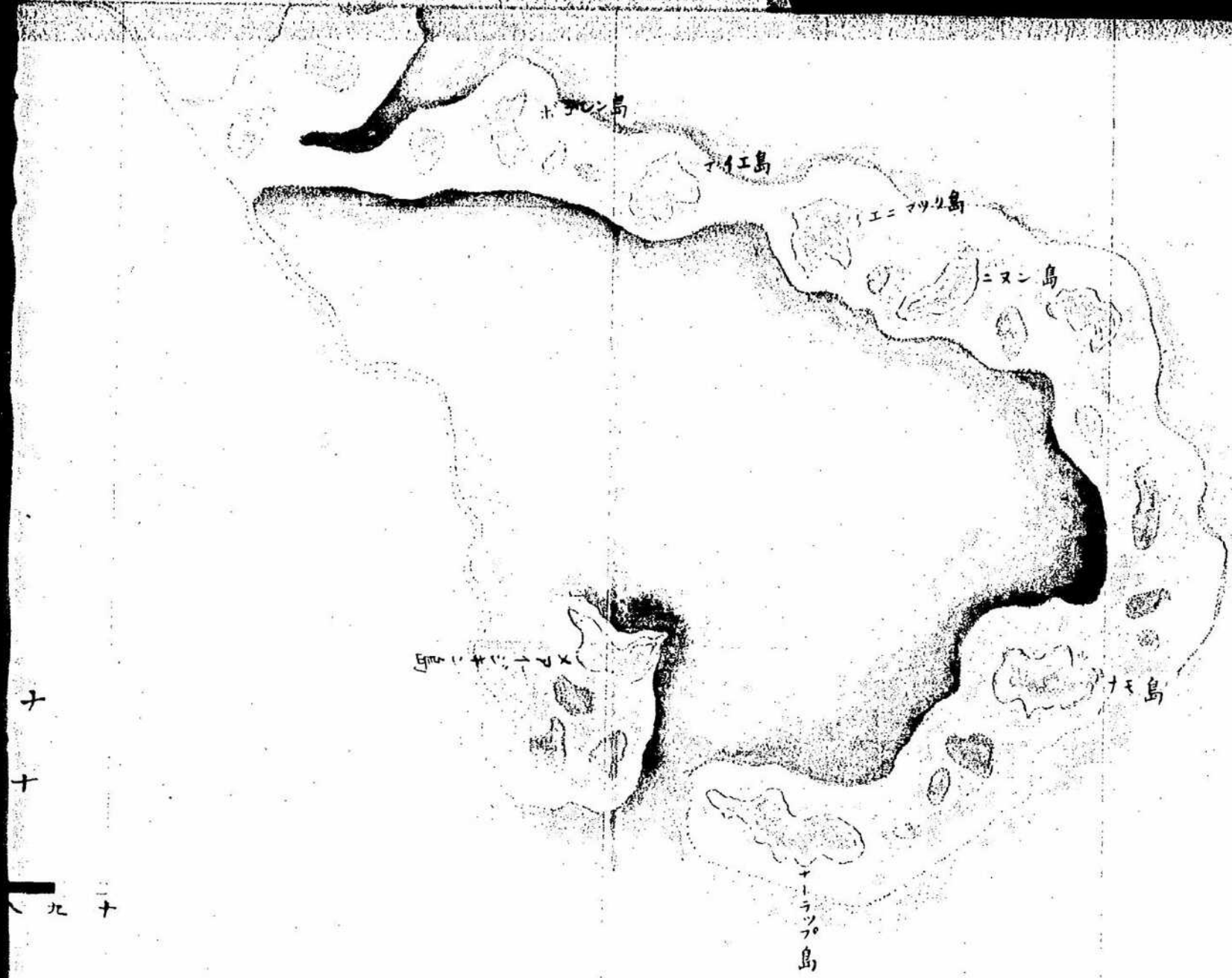


ラニヤ島

エニア島

ホスツク島

ラーナ島



北緯八度

東經五十分

西經十度

百六十八度四十分

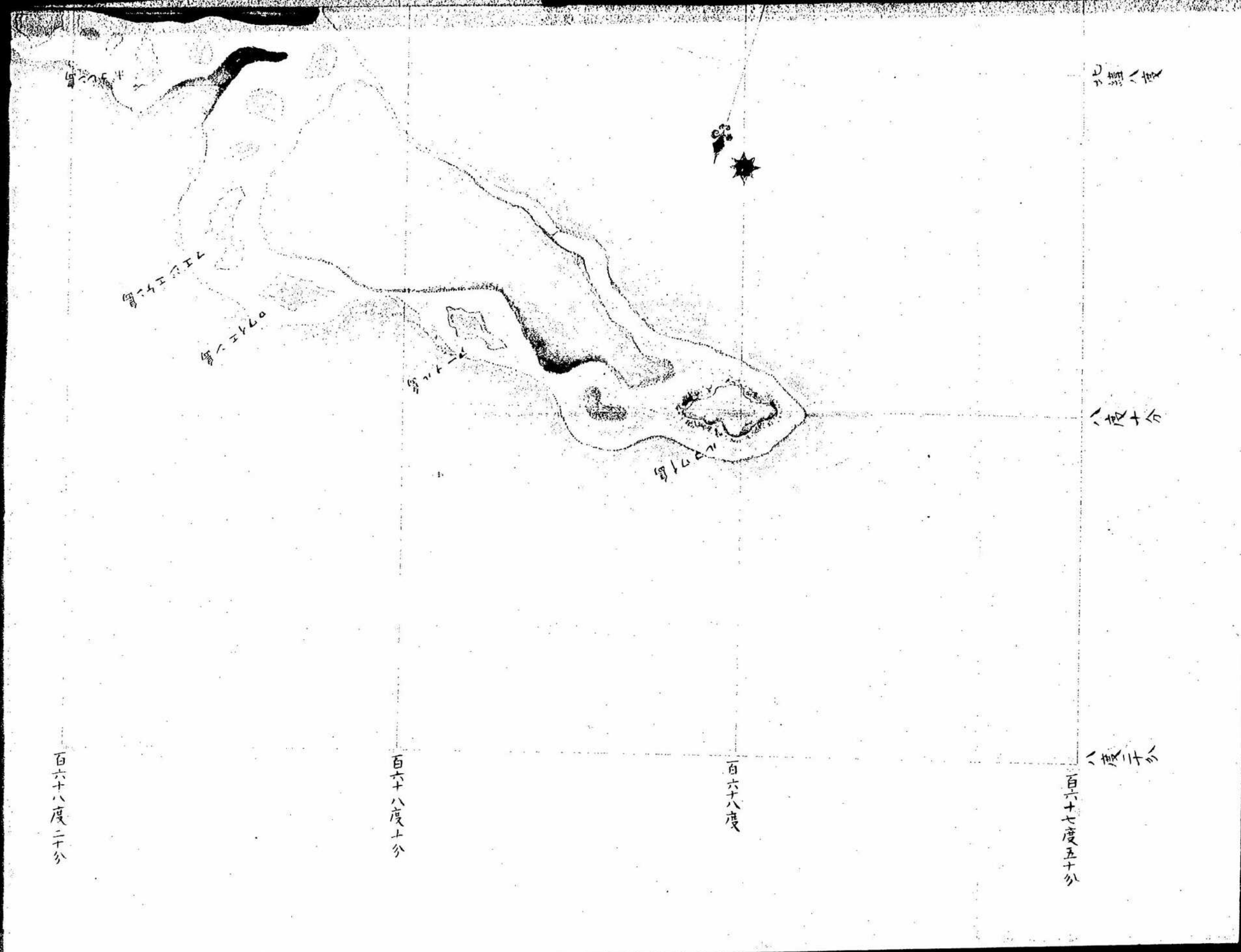
百六十八度三十分

百六十八度二十分

百六十八度十分

十
十

九十



百六十八度

百六十二度

百六十三度

百六十四度

七段目分

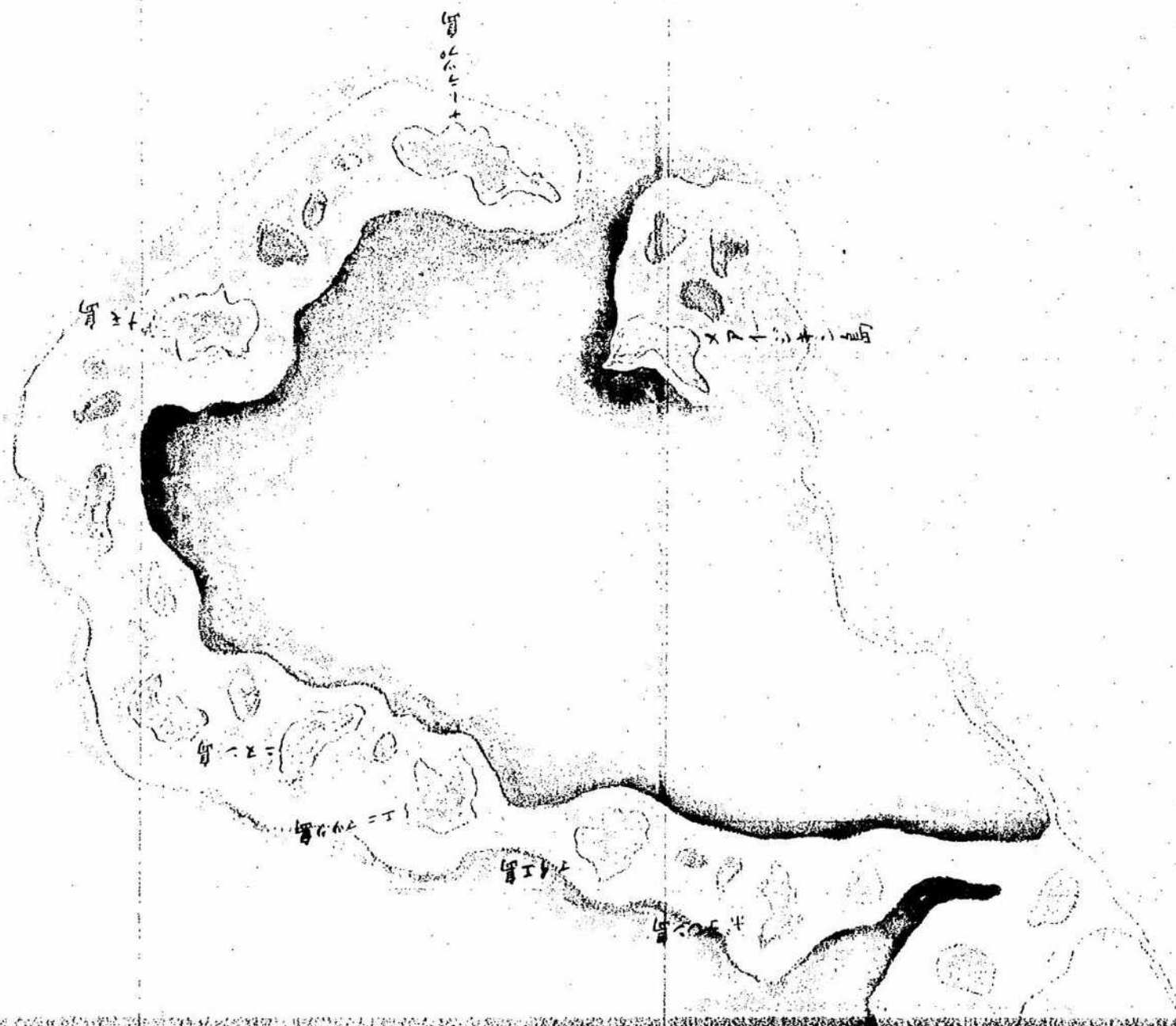
八十九

九十

九十一

七段目分

北緯八度



江戸
川
の
源

八
度
十
分

百六十八度四分
八
度
十
分

百六十八度卅分

百六十八度二分

百六十八度十分

江戸

江戸

江戸

江戸

江戸

オジヤ諸島

該島ハ北緯七度十四分ニ起リ二角アツテ左角ハ七度三十分ニ至リ右角ハ七度三十三分ニ至ル兩角腕形ヲ成シテ海水ヲ抱ビテ大港ヲ成ス東經百六十八度三十二分ニ起リ四十八分餘ニ至テ盡ク全島大小合セテ其數三十三島アリ而シテ本島ノ廣狹ハ東西廣キ處ハ十五里ニ及ビ狹キハ四五里ニ至ル其長リ十九里ニシテ全島ノ形畫龍ノ火烟ノ如シ

此島北ハ百四十英里ニシテリキエブ島アリ東北々ハ百二十英里ニエリコブ島アリ百二十五英里ニオオクエ島アリ十英里ニシテジャハ

島アリ

東北東ハ百四十英里ヲ隔テ、マロンゲラーブ島アリ、アウル島アリ

東方ハ百三十英里餘ニ、マジェコロ島アリ

東南東ハ百八十英里ニ、ミユレー島アリ

東南々ハ八十英里ヲ隔テ、ジャリユート島アリ

南方百英里ニシテ、ナモリツク島アリ

西南々及び西南西南西ハ洋ノ前迄タルニ臨ノ

リ

其西北西ハ百四十英里ニシテ、エニロープ島アリ

リ

而シテ其西北々ハ百二十英里ニシテ、ナモ島アリ

リ

該島ハ三十三箇ノ島嶼ヲ聚メテ一島ノ形勢ヲ成スト、雖其中大ニシテ住民ニ適スハモノハ只十箇ニシテ餘ハ皆海中ノ巻石ノ如シ

海湾ハ磐石礁岩脉絡ヲ成シテ左右ヨリ北方ニ向テ洋面ニ斗出シ、蜿蜒トシテ海水ヲ抱テ大港ヲ成ス、其港中廣サ十英里ヨリ四五英里ニ出入

シ、波平ニ水深クシテ其中央底ナキガ如シ、故ニ船舶ノ投錨スルハ常ニ岸ヲ離ルハ十町許ノ處

ニ在ルモ、猶錨索十八九尋ヲ下クサバシハ水底ニ達スル能フ、港内處々ニ暗礁アレバ、潮水清

澄ナルガ故ニ皆指サスベシ

島内山嶺河湖ナク、航シテ茲ニ到ラント欲スルモ四五英里ノ近キニ至ラズシハ海中ヨリ島嶼

ヲ指點スル能ワズ故船着レ航路ヲ誤ルキハ島
嶼ノ近キニ在ルモ之ヲ見出スニ三四日ノ時日
ヲ費スノ間、有之由

其大小三十三島ノ名稱ハ左ノ如シ

エニホン 周圍五英里半

バカジラ 周圍六英里

アエルック 周圍六英里半

ジャボワン 周圍五英里半

グアル 小島見分セズ

デボマル 全

ウガエン 全

エレール 全

レボーガン 全

ジエ 周圍四英里半

メジル 周圍六英里

エンナツク 小島見分セズ

ヂエー 周圍四英里ノモノ一三英里ニ滿ク

サルモノ一アリ

ウニデル 小島見分セズ

ボック 全

ラマリシム 全

ビヤール 全

メジヤエジャック 全

ヲラール 全

ガデッテ 全

マツテン 全

ハラン 小島見分セズ

エニジョツク 全

エニセンロード 周囲四英里半

ヲギヤ 周囲十三英里目下島主ノ居アリ

エニピアツク 小島見分セズ

ジエブ 全

ゴド 全

エニウエー 全

ドロエン 周囲五英里

エニワシ 小島見分セズ

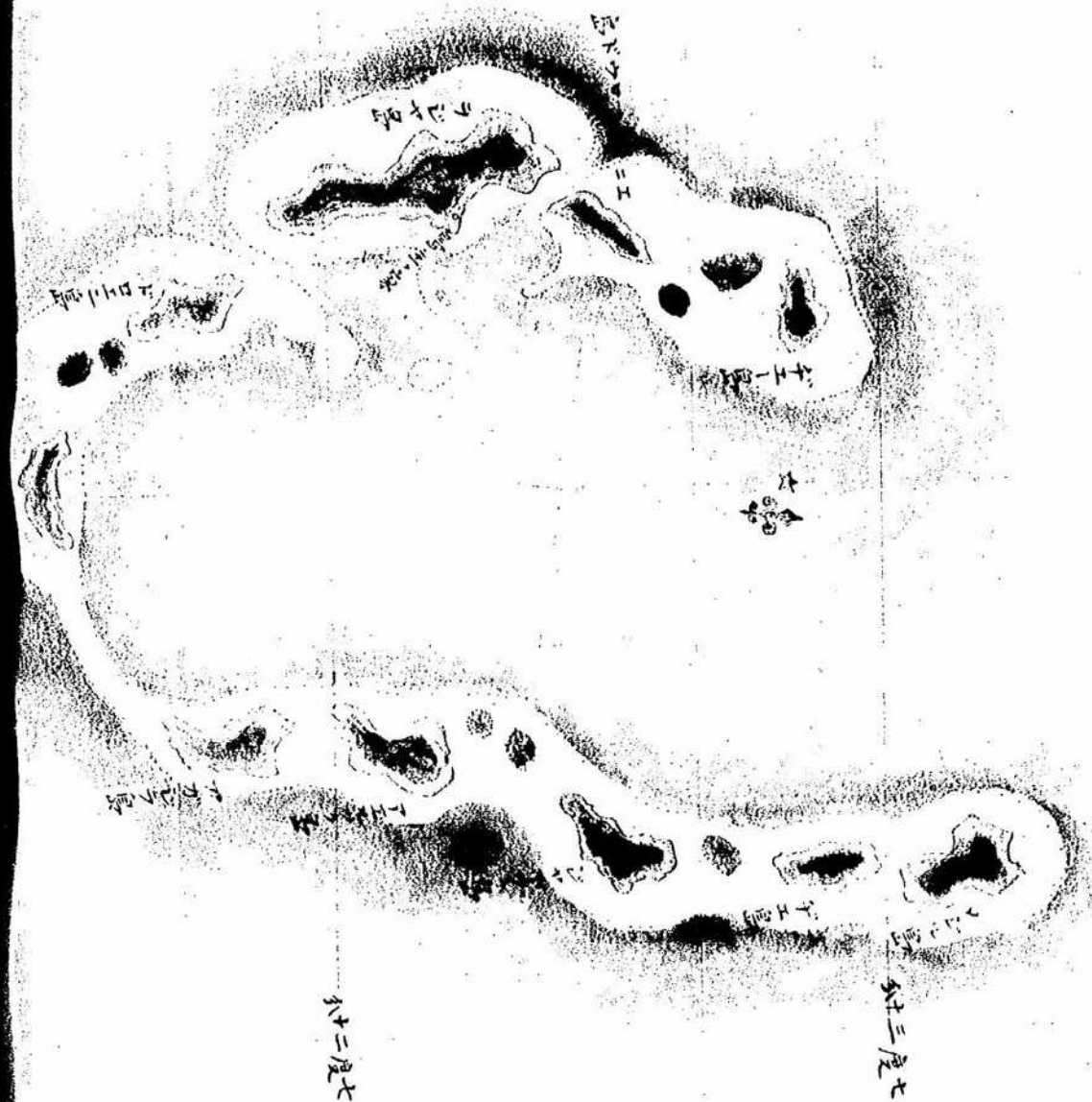
ガワカン 全

アエランガン 全

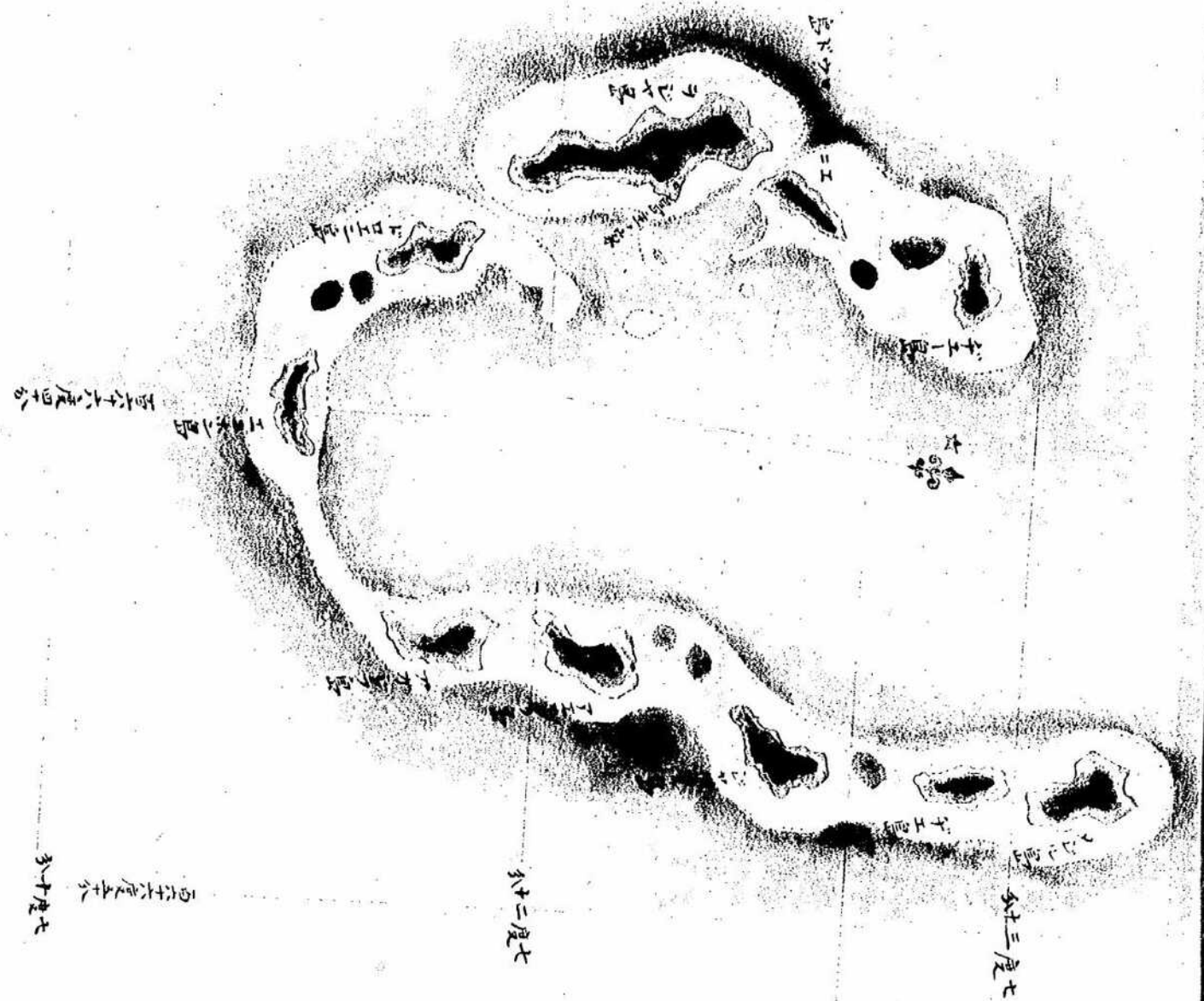
其港湾地形ノ趣キ圖ノ如シ

オジヤ諸島之図

海ノ一ニ三四五六七八九十



東洋百六十八度線



漢山
 〇
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



該島ハ北緯七度四十五分ニ起リ八度十一分ニ
盡リ東經百六十七度五十八分ニ起リ斜ニ東南
東ニ向ヒ百六十八度三十二分餘ニ列ニ盡リ全
島大小合セテ三十二島アリ其長サ三十七英里幅
三英里ヨリ十一英里ニ出入シ全島ノ形ハ瓢子ノ扁
面ノ如シ

此島北百二十英里ニリキエブ島アリ
東北々ハ百二十五英里ニウラツキ島アリ
五十英里ニユリコツブ島アリ
東北東ハ百五十五英里ニマロンガラーブ島アリ
東方ハ百五十五英里ニアウル島アリ

東南東ハ百五十英里ニマジエロ島アリ
東南南ハ二十四英里ニヲヂヤ島アリ
西方ハ三十英里ニエンレーバ島アリ
西北ハ三十五英里ニシテコワジレン島アリ
島中山嶺ナク又河湖ヲ見ズ地ノ高低草木島嶼
ノ景色ハヲチヤ・コワジレン・ウーチヤエ島等ト異
ナル所ナシ

港湾ハ盤石脉絡ヲ成シテ海水ヲ包テ二大港ヲ
成ス其一ハ稍圓形ニシテ横ニ七英里縦ニ十一英里
其二ハ長形ニシテ横ニ二三英里縦ニ十英里二港共
頗ル深奥ニシテ大船ヲ碇泊セシムルヲ得
海門ハ四五アレ氏皆深サ十四五尋只其西南ノ
極隅ニ在ルモノハ頗ル深クシテ底ニ礁石ヲ見

ス能リ大艦ヲ通スルヲ得ベシ
全島大小合セテ其数三十二島アリ其名称左ノ
如シ

- | | |
|----------|--------|
| ナモ | 周圍七英里 |
| マドムイ | 小島見分セズ |
| ナララツポ | 周圍七英里半 |
| ノアイジキン | 周圍五英里 |
| エベニ | 小島見分セズ |
| レウワリツク | 全 |
| レウワレツポ | 全 |
| エニウレロル | 全 |
| ホハシライドック | 全 |
| エニユツク | 全 |

オジヨック 全

チエーユック 全

テケレツプ 全

エオウ 周圍四英里半

エニジエツク 小島見分セズ

ニヌン 全

ニニツク 全

エニマツク 周圍四英里

マイエ 周圍五英里半

エニルツク 小島見分セズ

マート 全

ホコレン 周圍三英里半

マエジエケン 周圍七英里半

アニブロ 小島不見分

ロワジヨシマア 小島見分セズ

イジユヲサン 全

ロミジニケウ 全

ロワエン 周圍五英里半

ルコワイ 八英里許

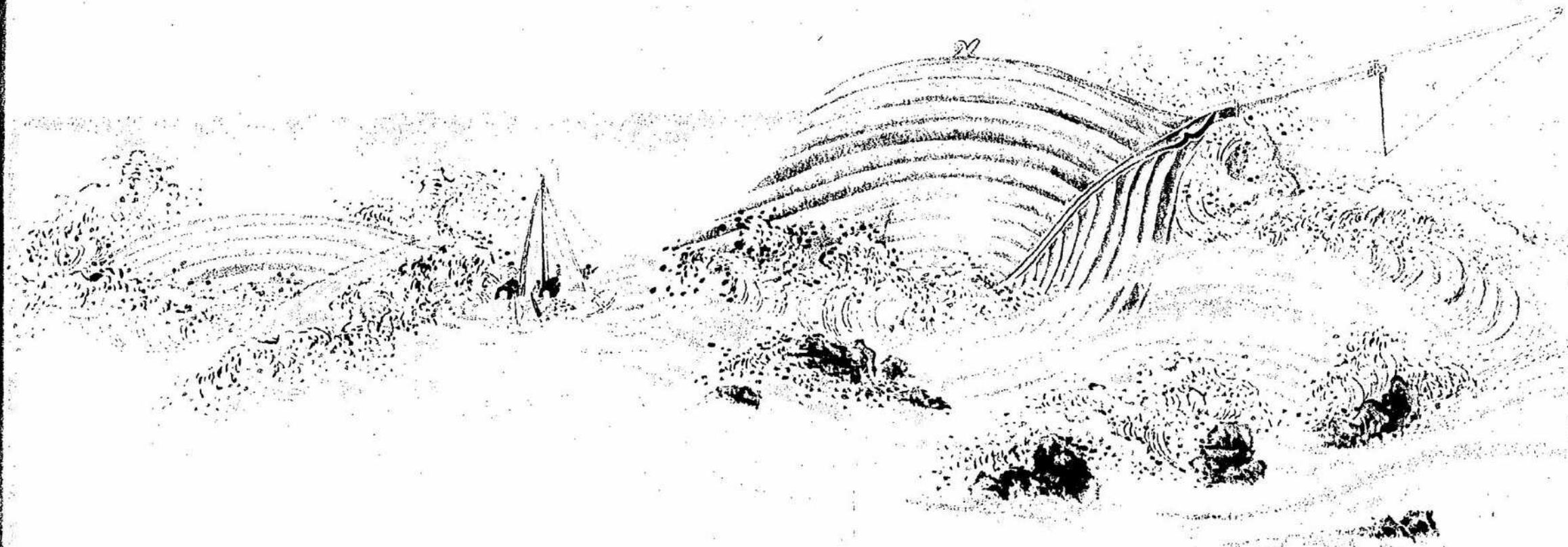
リエノール 小島見分セズ

マナル 周圍四英里

ホツク 小島見分セズ

其島嶼ノ位置港湾ノ形圖ノ如シ

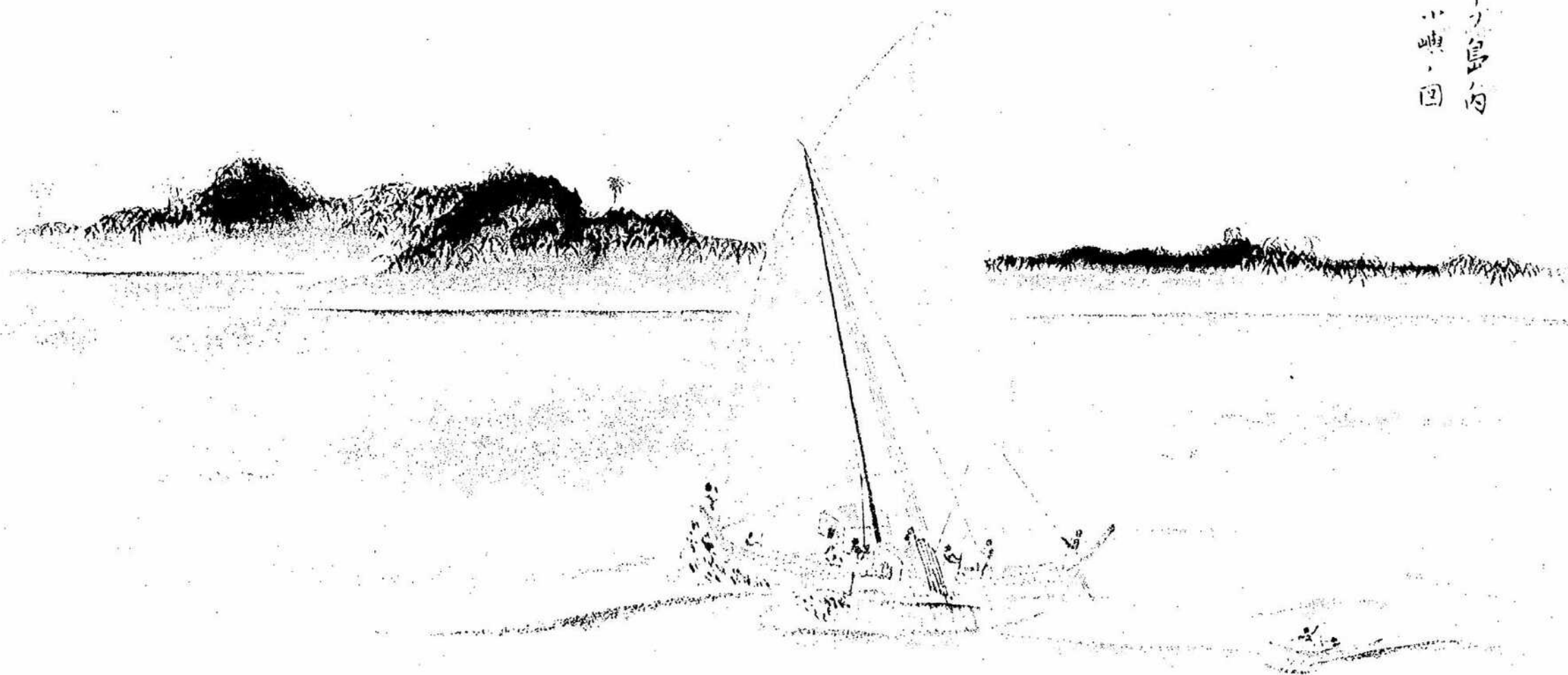
中ノ千ヤ工島湾外ト湾内ノ
 船難境ヲ成セリ退潮ノ
 節陸地ノ如キ潮盈レバ
 則没スル該國ノ如シ
 該破船ハ千八百八十四年
 二月二日米國帆走船ラビヤ
 号該礁ニ着リトケシモ
 今其船跡ノ存在セル
 因ノ如シ



コウシリ湾内、図



アエリニガラブニ島内
島主ノ居住セル小嶋ノ図



外務省上申南洋マルシャル群島
地方視察報告之事
右謹テ御覽ニ供ス
明治十八年九月十八日

太政大臣爵三條實美

左大臣熾仁親王



太
文
宮

和

外乙二九係

明治十八年四月廿九日

内閣書記官

大臣 〇 閣

内閣書記官長

外務省上申南洋マルシヤル群島地方

視察報告

右面覧ニ供ス

参議

夕

夕